福岡市埋蔵文化財年報
Vol. 13

—平成10年（1998）度版—

2000

福岡市教育委員会

序

福岡市においては、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適正な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、重要遺跡確認調査等を実施しております。

平成10年度は、長引く不況下で開発事業の相対的な減少傾向があったにもかかわらず、道路や下水道整備等の都市基盤整備を中心とした公共事業や、民間の小規模な開発事業に起因する埋蔵文化財の保存に係る事前の協議・審査受付件数及び緊急調査はほぼ例年どおりの件数を数えました。これは、埋蔵文化財の周知化が進むとともに、開発関係各位の文化財保護に対するご理解が深められつつある状況を示していると思われます。

本書は、平成10年度における埋蔵文化財保護行政の概要報告です。本書が文化財保護のより一層のご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

平成12年３月31日
福岡市教育委員会
教育長　西　憲一郎

例　言

1．本書は、平成10年度に教育委員会埋蔵文化財課が実施した事業のうち、開発事業に伴う事前審査概要と発掘調査の概要報告、本報告、及び文化財整備課が所管した新指定文化財の概要を収録したものである。
2．本書に記載ある報告のうち、調査番号9823・9840については、この年報をもって、本報告とする。その他については別途、本報告書が刊行される予定であり、刊行年度はそれぞれの文末に記載している。
3．本書の編集は、事前審査担当者の協力の下に田中壽夫が行った。なお、Ⅱ．発掘調査報告は各調査担当者が分担執筆し、Ⅲについては文化財整備課濱石哲也・三木隆行が執筆した。

目　次

Ⅰ．開発事前審査……1
　1）平成10年度の概要……1
　2）試掘調査一覧……2
Ⅱ．発掘調査の概要・報告……11
　1）平成10年度発掘調査の概要……11
　2）発掘調査一覧……12
　3）各調査の概要及び調査報告……16
Ⅲ．平成10年度新指定文化財……88
附編　平成10年度刊行報告書一覧……92

平成10年度文化財部の組織と事務分掌

- 文化財部
  - 埋蔵文化財課
    - 調査第1係：課の庶務及び西部地区（早良・城南・西区内）の開発事業に係る埋蔵文化財発掘調査
      - （主任文化財主事）
    - 調査第2係：国庫補助事業及び東部地区（東・博多・中央・南区内）の文化財課開発事業に係る埋蔵文化財発掘調査
      - （主任文化財主事）
    - 事前審査係：公共及び民間開発事業に係る埋蔵文化財の事前審査
      - （主任文化財主事）
  - 課長（大規模事業等担当）
    - 主査：大規模事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
  - 文化財整備課
    - 管理係：部の総括、課の庶務・経理及び文化財指定、保存管理
    - 整備係：史跡の保存・整備
    - 主査：文化財調査等
  - 課長（鴻臚館跡調査担当）
    - 主査：鴻臚館跡調査
  - 埋蔵文化財センター
    - 管理係：施設の管理・運営、考古学的資料の保存・展示
    - （主任文化財主事）：考古学的資料の調査・収集・整理

埋蔵文化財課の職員構成

●埋蔵文化財課長　柳田純孝

調査第1係長　二宮忠司

主任文化財主事　飛高憲雄　井澤洋一

係員（文化財主事）　荒牧宏行　米倉秀紀　池田祐司　加藤隆也

久住猛雄　大塚紀宣　星野恵美（平成10年8月から藏富士寛）

調査第2係長　山口譲治

主任文化財主事　力武卓治　小林義彦

係員（文化財主事）　大庭康時　瀧本正志　佐藤一郎　長家　伸

榎本義嗣　田上勇一郎　本田浩二郎　井上繭子

事前審査係長　田中壽夫

主任文化財主事　杉山富雄

係員（文化財主事）　宮井善朗　屋山　洋　中村啓太郎

●課長（大規模事業等担当）山崎純男

主査　松村道博

係員（文化財主事）　吉留秀敏　菅波正人　松浦一之介

Ⅰ．開発事前審査

土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、福岡市文化財分布地図を基本資料とし、これまでの発掘調査及び試掘調査等の成果を参考にしながら、書類審査・現地踏査・試掘調査等を実施し、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認し、保存に係わる協議等を行っている。

公共事業については、次年度予定の事業計画の照会を行い、市域内で実施予定の公共事業計画を全般的に把握し、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて関係機関・部局に協議を求めている。民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また、開発業者や、不動産取引関係者、一般市民等の分布地図閲覧や埋蔵文化財に係る計画策定段階での照会にも窓口で応じ、埋蔵文化財の保存上の問題について協議を行っている。

なお、本年度から事前審査係が新設された。

1）平成10年度の概要

平成10年度の公共及び民間開発事業等に伴う事前審査申請件数は、公共事業636件、民間事業674件の計1,310件であった。また、事前審査窓口に備え付けた『文化財分布地図』の閲覧及び開発予定地における埋蔵文化財の有無に係わる照会等は2,392件（照会地が明らかなもの2,356件）であった。窓口における照会は不動産売買取引に伴うものが多くなっており、周知化が進むにつれその傾向が高まりつつある。照会地区は博多区が圧倒的に多い。事業別割合では、公共事業が昨年度と比較して5.93%減少している。民間事業は18.9%増えている。

全市的には都心部の博多区及び西部地区に申請件数が偏る傾向がある。各区別にみると、博多区が278件で最も多く、次いで早良区の259件、西区の244件となる。南区は176件で昨年に比較し25.5%増加している。下水道敷設等の公共事業の増加によるものである。中央区は遺跡の数が少ないことにもよるが、例年どおり72件と少ない。東区は昨年度より31%減少している。事前審査の内訳をみると、申請件数の32.5%にあたる427件が書類審査の結果埋蔵文化財に影響がないと判断された。試掘調査は281件実施した。開発により保存上支障をきたし、調査が必要と判断されたのは49件である。その他については慎重工事、工事立会で対処した。工事立会は昨年度と比べ大幅に増加している。継続中の審査件数が多いのは、開発に先立って事前協議を行う傾向が高まっているためであり、特に土地売買の事例が目立っている。

事前審査件数の推移　（件）

	H.5	H.6	H.7	H.8	H.9	H.10
民　間	511	478	560	561	566	674
公　共	709	640	739	899	689	636
合　計	1,220	1,118	1,299	1,460	1,255	1,310

平成10年度事前審査内訳　（件）

区	事業種別	開発同意			慎重工事			工事立会			本調査			審査継続中	計画取り下げ	受付合計	窓口照会
		書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘				
東　区	公共	27	2	9	16	0	1	7	1	0	0	0	0	0	0	63	299
	民間	38	4	3	7	0	6	0	0	1	2	0	2	1	1	65	
南　区	公共	34	0	3	12	0	6	3	0	1	0	0	0	4	0	63	379
	民間	19	2	12	45	1	16	7	2	1	2	0	2	2	2	113	
博多区	公共	37	0	6	26	0	8	12	0	0	0	0	3	11	0	103	521
	民間	28	3	27	36	0	34	3	0	7	2	0	20	11	4	175	
中央区	公共	32	2	2	9	2	2	6	0	2	0	0	0	0	0	57	380
	民間	5	1	2	1	0	2	1	0	1	0	0	0	2	0	15	
城南区	公共	38	2	4	18	1	2	12	0	0	0	0	1	2	0	80	191
	民間	12	1	13	27	5	7	4	0	1	2	0	0	0	1	73	
早良区	公共	45	2	0	16	3	3	15	5	1	0	0	1	12	0	103	346
	民間	34	2	16	61	2	21	4	0	4	0	0	6	6	0	156	
西　区	公共	49	3	4	43	3	11	17	4	0	0	0	4	29	0	167	240
	民間	29	3	5	23	0	9	0	2	0	0	0	2	4	0	77	
合　計	公共	262	11	28	140	9	33	72	10	4	0	0	9	58	0	636	2356
	民間	165	16	78	200	8	95	19	4	15	8	0	32	26	8	674	

2）試掘調査一覧表

①西区

試掘番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積（㎡）	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-002	—	9-2- 556	西区大字元岡字広瀬地内	659.6	専用住宅	140	765	元岡Ａ遺跡	98.04.14	遺構なし	開発同意
10-015	—	9-1- 248	西区姪浜３丁目１	384.0	福祉施設	89	367	姪浜遺跡群	98.05.06	遺構なし	慎重工事
10-017	—	8-2- 339	西区今宿駅前１丁目1120	919.7	寮建設	112	623	今宿甕棺遺跡	98.04.14	遺構なし	慎重工事
10-023	—	9-1-2077	西区下山門団地内	6,000.0	団地建替	103	—	包蔵地外	98.5.14･15	遺構なし	開発同意
10-024	9825	8-1- 614	西区周船寺地内	2,400.0	線路拡幅	120	685 686	飯氏･蓮町遺跡	98.5.19･21	遺構有	要本調査
10-028	—	9-2- 50	西区小戸５丁目1756-7	4,621.2	共同住宅	89	—	包蔵地外	98.05.13	遺構なし	開発同意
10-030	—	10-2- 24	西区拾六町１丁目18-2	976.4	店舗	91	390	橋本一丁田遺跡	98.05.21	遺構有	慎重工事
10-04･36	—	9-2- 541	西区姪の浜３丁目3341,他	1,493.3	墓地、宅地	89	367	姪浜遺跡群	98.06.02	遺構有	慎重工事
10-045	—	10-2- 61	西区今宿２丁目1230-1･9	967.2	施設建設	111	621	今宿遺跡群	98.06.09	遺構なし	開発同意
10-047	—	10-1- 4	西区大字金武地内	1,600.0	小学校用地造成	93	420	都地遺跡	98.06.17	遺構有	要本調査
10-048	—	9-2- 541	西区姪浜３丁目3341他	1,493.3	納骨堂建設	89	367	姪浜遺跡	98.06.02	遺構有	慎重工事
10-053	—	10-2- 98	西区拾六町５丁目1038-6	167.7	宅地	103	375	大林	98.06.30	遺構なし	開発同意
10-059	—	9-1- 853	西区戸切１・２丁目地内	80,000.0	車両基地建設	92	—	包蔵地外	1998.03.04･	遺構なし	開発同意
10-065	—	8-1- 39	西区愛宕/石丸４丁目	381	高速道路建設	90	381	拾六町平田遺跡	98.07.22	遺構なし	慎重工事
10-077	—	10-2- 195	西区大字岡字柚木2740-5	500.0	専用住宅	140	766	元岡Ｂ遺跡	98.07.28	遺構有	慎重工事
10-087	—	9-1- 834	西区今津本町城地区	650.0	擁壁工事	118	683	推定臼杵端城	98.08.18	遺構なし	慎重工事
10-095	—	8-1- 614	西区周船寺地内	2,400.0	鉄道軌道拡幅	120	686	蓮町遺跡群	98.08.18	遺構なし	慎重工事
10-098	—	9-1-2037	西区石丸２丁目地内	2,447.0	公園整備	90	—	包蔵地外	98.09.02	遺構なし	開発同意
10-105	—	9-1-2123	西区今津1865-1	113.0	分団車庫		—	包蔵地外	98.09.09	遺構なし	慎重工事
10-111	—	10-2- 238	西区有田１丁目26-9	399.0	専用住宅	82	309	有田遺跡群	98.09.01	遺構有	慎重工事
10-117	—	8-1- 614	西区大字飯氏458-3	1,000.0	鉄道軌道拡幅	132	689	周船寺遺跡群	98.09.08	遺構なし	慎重工事
10-123	—	10-2- 235	西区姪浜６丁目2724-1他４筆	1,422.0	共同住宅	89	367	姪浜遺跡群	98.09.16	遺構なし	開発同意
10-124	—	10-2- 225	西区周船寺１丁目545-3	2,972.0	共同住宅	131	689	周船寺遺跡群	98.09.10	遺構なし	開発同意
10-125	—	10-2- 237	西区女原字柳原55-5,55-8	990.0	店舗	120	688	女原遺跡群	98.09.14	遺構有	慎重工事
10-128	9839	9-1-2076	西区拾六町団地	5,000.0	団地建替	105	520	コノリＢ製鉄遺跡	98.09.30	遺構有	要本調査
10-131	—	10-1- 114	西区泉･周船寺		道路拡幅	131	689	周船寺遺跡群	98.10.07	遺構なし	慎重工事
10-132	—	10-2- 226	西区重留６丁目595-1他	6,770.0	小売店舗	84	324	重留村下	98.10.06	遺構有	要本調査
10-140	9844	10-2- 208	西区姪浜３丁目3393	212.0	共同住宅	89	367	姪浜遺跡	98.10.06	遺構有	要本調査
10-143	—	8-2- 339	西区今宿駅前１丁目1120-21	919.7	寮建設	112	623	今宿甕棺遺跡	98.04.14	遺構なし	慎重工事
10-145	—	10-1- 50	西区大字宇田川原字樋田地内	1,498.0	公園整備	121	695	宇田川原遺跡	98.10.21	遺構なし	慎重工事
10-193	—	10-2- 400	西区石丸２丁目55-1	227.6	社屋施設	90	381	拾六町平田遺跡	98.12.03	遺構なし	慎重工事

試掘番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-202	—	10-2- 415	西区橋本１丁目1510	335.0	店舗	91	393	橋本辻遺跡	98.12.17	遺構なし	慎重工事
10-216	—	10-1- 596	西区今宿･上の原217-2他	39,825.0	施設建替	114	—	包蔵地外	98.12.16	遺構なし	開発同意
10-223	—	10-2- 438	西区今宿東１丁目80-14	269.7	専用住宅	112	628	青木遺跡	99.01.25	遺構有	慎重工事
10-236	—	10-2- 494	西区野方６丁目595-4	2,818.0	共同住宅	91	524	打ヶ浦遺跡	99.02.09	遺構なし	慎重工事
10-258	—	10-2- 564	西区野方１丁目522-1	360.4	専用住宅	90	389	野方久保遺跡	99.03.09	遺構なし	開発同意
10-262	—	10-1- 622	西区今宿駅前１丁目地内	500.0	道路拡幅	112	116	元寇防塁	99.2.8～10	遺構なし	慎重工事
10-265	—	10-1- 625	西区横浜２丁目	400.0	道路整備	111	620	今山遺跡	99.03.17	遺構なし	慎重工事
10-266	—	10-1- 626	西区内浜２丁目地内	3,460.0	市営住宅建替	90	—	包蔵地外	99.03.24	遺構なし	慎重工事
10-268	9909	9-1-2602	西区野方１丁目地内	4,800.0	道路建設	91	387	牟多田遺跡	98.03.24	遺構有	要本調査
10-274	—	10-2- 624	西区橋本１丁目1505･1506	3,709.0	倉庫	91	393	橋本辻遺跡	99.03.23	遺構なし	慎重工事
10-279	—	8-2- 516	西区今宿青木421-4外11筆	45,413.0	研究施設	112	631	鋤崎古墳群Ａ群	98.11.24	遺構有	要本調査

②早良区

試掘番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-001	—	9-2- 494	早良区西新５丁目592-1	223.1	建築工事	72	240	西新町遺跡	98.04.14	遺構なし	開発同意
10-010	—	10-2-　7	早良区田隈２丁目659-1	826.3	共同住宅	83	317	田村遺跡群	98.04.23	遺構なし	開発同意
10-022	—	10-2-　12	早良区野芥２丁目916-8他１筆	230.0	専用住宅	83	319	野芥遺跡群	98.05.12	遺構なし	慎重工事
10-025	—	10-2-　76	早良区原５丁目1326-1他６筆	588.3	宅地造成	82	311	原遺跡隣地	98.07.09	遺構なし	開発同意
10-026	—	9-2- 536	早良区野芥２丁目846-2	637.8	専用住宅	83	319	野芥遺跡群	98.05.19	遺構なし	開発同意
10-031	—	9-2- 529	早良区飯倉２丁目447-3他３筆	556.2	店舗付共同住宅	73	24	飯倉Ａ遺跡群	98.05.21	遺構なし	開発同意
10-033	—	10-2-　70	早良区小田部１丁目365-1～3	243.0	専用住宅	81	309	有田遺跡群	98.05.26	遺構有	慎重工事
10-038	9832	10-2-　49	早良区有田１丁目10-7	278.2	専用住宅	82	309	有田遺跡群	98.06.02	遺構有	要本調査
10-049	9823	10-2-　97	早良区次郎丸５丁目2-3	252.3	宅地	92	315	次郎丸遺跡群	98.06.16	遺構有	要本調査
10-054	—	10-2- 117	早良区内野５丁目262-1の一部	2,605.0	戸建住宅	早17	803	内野遺跡群	98.06.30	遺構なし	開発同意
10-055	—	10-1-　22	早良区賀茂３丁目地内	1,700.0	地下鉄出入口建設	83	2447	次郎丸高石遺跡群	98.06.17	遺構なし	慎重工事
10-058	—	10-2-　75	早良区小田部３丁目303の一部	487.1	専用住宅	82	309	有田遺跡群	98.05.22	遺構なし	開発同意
10-075	—	10-2- 166	早良区原６丁目754-4の一部	883.0	診療所	82	311	原遺跡群	98.07.23	遺構有	工事立会
10-082	—	10-2- 179	早良区重留字谷883-1･-3･-4	1,247.0	専用住宅増築	85	338	熊本遺跡	98.07.30	遺構有	慎重工事
10-084	—	10-2- 162	早良区田村３丁目766-1	1,029.0	共同住宅	193	—	包蔵地外	98.08.11	遺構なし	開発同意
10-089	—	10-2- 218	早良区小田部１丁目40他４筆	2,329.0	店舗兼工場	82	309	有田遺跡群	98.08.19	遺構なし	開発同意
10-091	—	10-2- 217	早良区飯倉６丁目14-5	161.0	専用住宅	73	246	飯倉Ｃ遺跡群	98.08.19	遺構なし	開発同意
10-101	—	10-2- 192	早良区百道１丁目716-4	679.0	共同住宅	81	307	藤崎遺跡	98.09.08	遺構有	慎重工事
10-103	—	10-2- 206	早良区内野５丁目6-31	119.0	専用住宅	早17	803	内野遺跡群	98.09.04	遺構なし	開発同意
10-114	—	10-2- 247	早良区原６丁目836-1.-2	382.0	軽量鉄骨専用住宅	82	311	原	98.08.20	遺構有	慎重工事

試掘番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-130-1	—	9-1-2110	早良区内野	2,000.0	道路拡幅	早17	791	内野熊山遺跡	98.10.17	遺構なし	慎重工事
10-130-2	—	9-1-2108	早良区早良		道路拡幅		—	包蔵地外	98.10.17	遺構なし	慎重工事
10-133	—	10-2- 267	早良区野芥１丁目766-2他３筆	542.4	店舗増築	83	319	野芥遺跡群	98.10.01	遺構なし	開発同意
10-136	9840	10-2- 210	早良区飯倉６丁目123-1	865.0	専用住宅	73	246	飯倉Ｃ遺跡	98.10.05	遺構有	要本調査
10-161	9847	10-2- 337	早良区小田部３丁目402-2	165.3	専用住宅	82	309	有田遺跡群	98.10.26	遺構有	要本調査
10-162	—	10-2- 360	早良区小田部３丁目2-9	313.2	未定	82	309	有田遺跡群	98.10.26	遺構有	慎重工事
10-172	—	10-2- 199	早良区小田部381-2他１筆	1,377.0	共同住宅	82	—	包蔵地外	98.11.12	遺構なし	開発同意
10-185	—	10-2- 209	早良区小田部１丁目385･386	230.0	専用住宅	82	309	有田遺跡群	98.11.17	遺構有	慎重工事
10-186	—	10-2- 410	早良区賀茂３丁目397-1他	5,883.0	店舗	83	2447	次郎丸高石遺跡	98.12.01	遺構有	慎重工事
10-190	—	10-2- 426	早良区重留４丁目689-2	243.1	専用住宅	85	304	重留村下遺跡	98.12.08	遺構有	慎重工事
10-204	—	10-2- 437	早良区原６丁目761-6	820.0	店舗建築	82	311	原遺跡群	98.12.17	遺構なし	慎重工事
10-210	—	10-2- 470	早良区有田１丁目16-19他２筆	494.4	共同住宅建設	82	309	有田遺跡群	98.12.18	遺構有	慎重工事
10-211	—	10-2- 481	早良区西入部字拾ヶ坪407-4他	5,000.0	菜園用地	95	463	黒塔古墳群B群	98.12.22～23	遺構なし	開発同意
10-213	—	10-2- 406	早良区南庄３丁目218-1	188.2	売買	81	309	有田遺跡群	98.12.03	遺構有	慎重工事
10-220	—	10-2- 297	早良区田村２丁目1078-1	2,507.0	共同住宅	92	—	包蔵地外	99.01.21	遺構なし	慎重工事
10-221	—	10-2- 431	早良区小田部２丁目3-26	432.0	共同住宅	82	309	有田遺跡群	99.01.21	遺構なし	慎重工事
10-222	—	10-2- 435	早良区南庄３丁目217-1	293.9	専用住宅	81	309	有田遺跡群	98.12.03	遺構有	慎重工事
10-224	—	10-2- 478	早良区賀茂１丁目323-5	352.0	NTT通信施設建設	83	318	免遺跡群	99.01.21	遺構なし	慎重工事
10-225	—	10-2- 492	早良区脇山591-1	1873.0	支店建替	早10	776	大門遺跡	99.01.25	遺構有	慎重工事
10-239	—	10-2- 565	早良区内野５丁目303-15	169.0	売買	早17	803	内野遺跡群	99.02.16	遺構なし	慎重工事
10-256	—	10-1-　89	早良区大字西･内野地内	18,000.0	圃場整備	早17	807	中山遺跡	98.12.7～12.25	遺構有	要本調査
10-257	—	10-2- 532	早良区重留１丁目1232-2･-5	1,543.0	未定	84	304	重留村下遺跡	99.02.25	遺構有	開発同意
10-260	—	10-2- 578	早良区有田１丁目13-28	267.0	専用住宅	82	309	有田遺跡群	99.03.09	遺構なし	開発同意
10-263	—	10-2- 540	早良区重留５丁目809-4	283.8	専用住宅	85	304	重留村下遺跡	99.03.11	遺構有	慎重工事
10-275	—	10-2- 625	早良区東入部1262	645.3	病院建設	85	343	東入部遺跡	99.03.31	遺構有	工事立会
11-056	—	10-2- 605	早良区原６丁目2-30	1,554.1	店舗改築	82	311	原遺跡群	99.02.26	遺構有	要本調査

③城南区

試掘番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-004	—	9-1-2066	城南区別府１丁目8-27	2,531.0	土地売買	62	—	包蔵地外	98.04.22	遺構なし	開発同意
10-052	9801	8-1- 444	城南区田島地内	1,880.0	道路新設	72･73	—	包蔵地外	98.06.22	遺構有	要本調査
10-062	—	10-2- 145	城南区樋井川２丁目903-11	162.0	専用住宅	63	203	長尾遺跡	98.07.14	遺構なし	開発同意
10-063	—	10-2- 153	城南区干隈１丁目403-12	390.0	住宅の新築	74	252	飯倉Ｅ遺跡群	98.07.16	遺構なし	開発同意
10-068	—	10-1-　24	城南区片江３丁目58	782.0	土地売買	63	206	片江Ａ遺跡	98.07.15	遺構なし	慎重工事

試堀番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-076	—	10-2- 173	城南区荒江１丁目281～284	212.0	公民館	72	243	飯倉Ｂ遺跡	98.07.23	遺構なし	開発同意
10-078	—	10-2- 198	城南区片江３丁目45	589.0		63	206	片江Ａ遺跡群	98.08.04	遺構なし	開発同意
10-079	—	10-2- 58	城南区樋井川２丁目897-3	178.1	住宅建設	63	203	長尾	98.07.31	遺構なし	開発同意
10-099	—	10-2- 242	城南区片江１丁目1038-1	307.0	宅地	63	203	長尾	98.08.27	遺構なし	開発同意
10-113	—	10-2- 254	城南区梅林３丁目120-1.-3	652.0	専用住宅	74	263	干隈古墳群Ｄ群	98.09.07	遺構なし	開発同意
10-115	—	10-2- 185	城南区梅林３丁目110-4	398.0	専用住宅	74	252	飯倉Ｅ遺跡	98.09.10	遺構なし	開発同意
10-119	—	10-2- 194	城南区片江１丁目1030	932.0	207	63	207	片江Ｂ遺跡	98.09.22	遺構なし	開発同意
10-138	—	10-1- 6	城南区七隈８丁目地内	5,368.0	道路建設	74	—	包蔵地外	98.10.14	遺構なし	開発同意
10-139	—	9-1-2116	城南区七隈地内	10,000.0	道路拡幅	74	—	包蔵地外	98.10.14	遺構なし	開発同意
10-142	—	10-2- 327	城南区別府６丁目512	687.5	共同住宅	73	248	茶山遺跡	98.10.15	遺構なし	開発同意
10-147	—	10-1- 53	城南区田島３丁目	1,314.0	公園整備	73	249	田島和尚頭遺跡	98.10.21	遺構なし	慎重工事
10-175	—	10-1- 258	城南区鳥飼５丁目21	23,000.0	市施設建設	72	—	包蔵地外	98.11.18	遺構なし	開発同意
10-177	—	10-2- 390	城南区樋井川２丁目3-4	95.9	共同住宅	73	248	茶山遺跡	98.11.16	遺構有	工事立会
10-178	—	10-2- 379	城南区長尾４丁目230	148.0	専用住宅	63	203	長尾遺跡	98.11.17	遺構なし	開発同意
10-180	—	10-2- 382	城南区七隈３丁目744-1他	881.5	共同住宅	73	247	飯倉Ｄ遺跡	98.11.21	遺構有	慎重工事
10-192	—	10-2- 388	城南区七隈５丁目352-56	159.6	専用住宅	74	252	飯倉Ｅ遺跡群	98.12.03	遺構なし	慎重工事
10-194	—	10-2- 434	城南区荒江１丁目297・298	148.8	共同住宅	72	243	飯倉Ｂ遺跡	98.12.03	遺構有	慎重工事
10-197	—	10-2- 409	城南区梅林４丁目124-106	495.5	未定	74	254	飯倉Ｇ遺跡	98.12.10	遺構なし	慎重工事
10-205	—	10-1-2609	城南区長尾４丁目196	368.0	土地取引				98.12.28	遺構なし	開発同意
10-228	—	10-2- 527	城南区樋井川１丁目395-6	254.3	専用住宅	63	203	長尾遺跡群	99.01.27	遺構なし	慎重工事
10-240	—	10-2- 535	城南区片江３丁目76・77他	1,131.0	共同住宅	63	206	片江Ａ遺跡	99.02.16	遺構なし	慎重工事

④中央区

試堀番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-005	—	9-1-2067	中央区平和５丁目278	2,531.0	土地売買	62	—	包蔵地外	98.04.22	遺構なし	開発同意
10-043	—	10-2- 42	中央区大名２丁目574	110.2	社屋	60	164	福岡城肥前堀	98.06.20	遺構なし	開発同意
10-097	—	10-2- 16	中央区唐人町１丁目257他	1,763.8	再開発ビル	71	—	包蔵地外	98.08.31	遺構なし	開発同意
10-146	—	10-1- 52	中央区警固３丁目地内	562.0	公園整備	61	—	包蔵地外	98.10.21	遺構なし	慎重工事
10-171	—	10-2- 384	中央区今川１丁目119-1・120-1	374.8	共同住宅	35	2435	鳥飼遺跡	98.11.12	遺構なし	慎重工事
10-199	—	10-1- 601	中央区梅光園３丁目520-1/5	11,710.8	公団住宅建替	61	—	包蔵地外	98.11.16	遺構なし	開発同意
10-234	—	10-2- 528	中央区赤坂２丁目5-264	1,001.7	共同住宅	60	193	福岡城跡堀	99.02.24	遺構なし	慎重工事
10-246	—	10-1- 616	中央区谷２丁目262-1	399.0	土地売買	61	198	六本松遺跡	99.02.12	不明	慎重工事
10-278	—	10-2- 295	中央区赤坂１丁目107-1・108-1	204.8	店舗付住宅	60	164	福岡城跡石垣	98.11.04	遺構有	要協議

⑤南区

試掘番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-032	—	10-2- 73	南区三宅１丁目6-24	341.3	共同住宅	39	2382	大橋Ｅ遺跡	98.05.19	遺構なし	開発同意
10-041	—	10-2- 85	南区曰佐１丁目47-1他	1,029.0	戸建分譲	40	100	曰佐遺跡群	98.06.04	遺構なし	開発同意
10-046	—	10-2- 87	南区横手３丁目273-7	167.1	共同住宅	39	99	横手遺跡群	98.06.16	遺構なし	開発同意
10-066	—	9-1-2122	南区花畑３丁目42-18	150.0	分団車庫	53	177	花畑Ａ遺跡	98.07.29	遺構なし	慎重工事
10-067	—	10-1- 3	南区柳瀬１丁目	620.0	保育園建設	40	—	包蔵地外	98.07.29	遺構なし	開発同意
10-069	—	10-1- 27	南区曰佐４丁目524-3	503.2	土地売買	40	100	曰佐遺跡群	98.07.29	遺構なし	慎重工事
10-074	—	10-2- 159	南区曰佐３丁目82-1	604.0		26	105	弥永原遺跡	98.07.21	遺構有	要協議
10-080	—	10-2- 197	南区柏原１丁目2-123	275.0	専用住宅	54	181	古野遺跡	98.08.04	遺構なし	開発同意
10-088	—	10-2- 83	南区弥永１丁目798-1の一部	337.0	共同住宅	74	267	早苗田古墳群Ａ群	98.05.22	遺構有	慎重工事
10-090	—	10-2- 17	南区野多目１丁目426-1他１筆	562.5	薬局建築	40	141	野多目Ａ遺跡群	98.08.20	遺構なし	開発同意
10-094	—	10-1- 32	南区井尻１丁目地内	800.0	道路建設	25	—	包蔵地外	98.08.26	遺構なし	開発同意
10-102	9835	10-2- 249	南区五十川２丁目536他		農業用倉庫	24	88	五十川	98.08.20	遺構有	要本調査
10-122	—	10-2- 286	南区井尻１丁目207-21.-17	500.5	共同住宅	24	—	包蔵地外	98.09.29	遺構なし	開発同意
10-127	9837	10-2- 211	南区五十川２丁目6-7	780.0	住宅新築	24	88	五十川	98.09.22	遺構有	要本調査
10-129	—	9-1-2014	南区柏原１丁目地内	300.0	道路拡幅	63	177	花畑Ａ遺跡	98.10.02	遺構なし	慎重工事
10-135	9846	10-2- 301	南区五十川２丁目555	281.0	専用住宅	24	88	五十川遺跡群	98.10.08	遺構有	慎重工事
10-137	—	9-1-2015	南区若久・中尾		道路拡幅	52	170	屋形原遺跡	98.08.05	遺構なし	慎重工事
10-141	—	10-1- 328	南区井尻１丁目1-1	715.0	小学校	24·25	90	井尻Ｂ遺跡	98.10.16	遺構なし	慎重工事
10-152	—	10-2- 283	南区大橋４丁目650-15	114.0	共同住宅新築	39	2382	大橋Ｅ遺跡	98.10.22	遺構有	慎重工事
10-156	—	10-2- 326	南区井尻２丁目44-2・45-2	2008.1	共同住宅	24	92	諸岡Ａ遺跡	98.10.29	遺構なし	開発同意
10-157	—	10-2- 359	南区曰佐３丁目87-1	295.9	専用住宅	26	105	弥永原遺跡	98.10.29	遺構有	慎重工事
10-166	—	10-2- 366	南区南大橋1084	789.1	共同住宅	39	144	三宅廃寺	98.11.10	遺構有	慎重工事
10-173	—	10-2- 386	南区桧原５丁目191-2・-6	568.8	未定	37	215	桧原遺跡群	98.11.12	遺構なし	開発同意
10-182	—	10-2- 298	南区太平寺１丁目284-4・-6	1,076.7	共同住宅	53	176	太平寺遺跡隣接	98.11.26	遺構有	慎重工事
10-189	9852	10-2- 336	南区大橋４丁目670-8	320.9	専用住宅	39	2382	大橋Ｅ遺跡	98.12.01	遺構有	慎重工事
10-200	—	10-1- 85	南区野間２丁目	4,152.0	公園整備	38	—	包蔵地外	98.12.11	遺構有	工事立会
10-203	—	10-2- 425	南区曰佐１丁目77-1	458.2	農業用倉庫	39	100	曰佐遺跡群	98.12.15	遺構なし	慎重工事
10-208	—	10-2- 448	南区曰佐４丁目215-3他２筆	259.1	専用住宅	40	100	曰佐遺跡群	98.12.22	遺構なし	慎重工事
10-212	—	10-2- 277	南区野間２丁目239～242	535.3	土地売買	38	129	野間Ａ遺跡	98.01.14	遺構有	慎重工事
10-227	—	9-1-2035	南区曰佐２丁目地内	1,270.0	公園整備	26	100	曰佐遺跡	99.02.03	遺構なし	慎重工事
10-229	—	10-2- 397	南区井尻１丁目668-2	232.4	専用住宅	25	90	井尻Ｂ遺跡	99.01.27	遺構有	慎重工事
10-230	—	10-2- 487	南区横手３丁目11-6-1	1,362.0	共同住宅	39	—	包蔵地外	99.01.28	遺構有	慎重工事
10-235	—	10-2- 507	南区警弥郷３丁目8-9	384.6	専用住宅	40	151	警弥郷Ａ遺跡	99.01.19	遺構有	慎重工事

試堀番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-245	—	10-1- 617	南区向野２丁目233	332.7	土地売買	38	130	野間Ｂ遺跡	99.02.24	遺構なし	慎重工事
10-247	—	10-2- 243	南区井尻２丁目1283-5,168-3	843.0	共同住宅新築	25	92	諸岡Ａ遺跡	99.02.17	遺構なし	開発同意
10-248	—	10-2- 531	南区南大橋２丁目407-3	365.2	専用住宅	39	136	和田田蔵池	99.02.18	遺構なし	開発同意
10-250	—	10-2- 576	南区井尻４丁目1112他２筆	646.4	共同住宅	25	101	井尻Ｃ遺跡	99.03.02	遺構なし	慎重工事
10-255	—	10-1- 628	南区塩原４丁目	1,700.0	市営住宅建設	38	—	包蔵地外	99.03.10	遺構なし	開発同意
10-261	—	10-2- 598	南区野多目２丁目703-3	195.1	専用住宅	40	146	野多目Ｂ遺跡	99.03.09	遺構なし	開発同意
10-270	—	10-2- 641	南区長尾４丁目228・229	219.9	専用住宅	63	—	包蔵地外	99.03.18	遺構なし	慎重工事
10-271	—	10-2- 638	南区七隈１丁目1670-30	331.3	専用住宅	73	243	飯倉Ｂ遺跡	99.03.25	遺構有	慎重工事

⑥博多区

試堀番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-219	9905	10-2- 219	博多区那珂１丁目590-1他２筆	1,040.7	共同住宅	37	85	那珂遺跡	99.01.12	遺構有	要本調査
10-003	—	10-2- 1	博多区板付２丁目12-23	661.3	共同住宅	24	94	板付遺跡	98.04.26	遺構有	慎重工事
10-007	—	10-2- 13	博多区御供所町12-1	105.2	専用住宅	49	121	博多遺跡群	98.04.16	遺構有	工事立会
10-008	—	9-2- 543	博多区博多駅南５丁目20-4	564.5	事務所	37	127	比恵遺跡群	98.04.21	協議	要協議
10-009	—	10-2- 15	博多区諸岡１丁目1-74、1-75	185.4	専用住宅	24	92	諸岡Ａ遺跡群	98.04.21	遺構有	工事立会
10-012	—	9-2- 516	博多区東比恵３丁目37-1他	1,113.3	貸事務所	36	—	包蔵地外	98.04.21	遺構なし	開発同意
10-013	—	9-2- 522	博多区榎田２丁目9-48	10,359.1	倉庫	22	84	榎田遺跡群	98.04.23	遺構なし	開発同意
10-014	—	9-1- 808	博多区寿町２丁目9-30他	2,500.0	駅ビル改築	13	51	雑餉隈遺跡	98.04.24	遺構有	要本調査
10-018	—	10-2- 34	博多区博多駅前二丁目75他５筆	459.1	共同住宅	36	127	比恵遺跡群	98.04.30	遺構有	慎重工事
10-019	—	9-2- 512	博多区上川端町１番	316.3	店舗兼居宅	49	121	博多遺跡群	98.05.07	遺構有	慎重工事
10-020	—	10-2- 45	博多区下呉服町249	197.0	共同住宅	48	121	博多遺跡群	98.05.07	遺構なし	開発同意
10-020	—	10-2- 44	博多区下呉服町238他５筆	1,032.6	共同住宅	48	121	博多遺跡群	98.05.07	遺構なし	開発同意
10-021	—	9-2- 504	博多区博多駅南５丁目36-4	171.9	専用住宅	37	127	比恵遺跡群	98.05.14	遺構なし	開発同意
10-029	—	10-2- 26	博多区下川端町160-1～4、161	260.8	店舗貸事務所	49	121	博多遺跡群	98.05.07	遺構有	工事立会
10-034	—	10-2- 84	博多区那珂１丁目45-13	256.3	専用住宅	37	85	那珂遺跡群	98.05.26	遺構なし	開発同意
10-035	—	1	博多区東那珂２丁目地内		道路新設	23	2635	東那珂遺跡群	98.05.13	遺構有	要本調査
10-037	9827	10-2- 19	博多区店屋町152他３筆	307.7	共同住宅	49	121	博多遺跡群	98.05.21	遺構有	要本調査
10-039	—	9-2- 361	博多区御供所町5-22	99.0	専用住宅	49	121	博多遺跡群	1998.05.26	遺構有	慎重工事
10-040	9818	10-2- 48	博多区東光寺１丁目263-2	120.6	個人専用住宅	37	85	那珂遺跡群	98.05.19	遺構有	要本調査
10-042	—	10-1- 14	博多区大字東平尾地内	5,752.0	消防車車庫	22	—	包蔵地外	98.06.10	遺構なし	開発同意
10-044	9824	10-2- 11	博多区麦野３丁目11-29	315.4	専用住宅建設	12	48	麦野Ａ遺跡群	98.06.09	遺構有	要本調査
10-050	—	10-2- 6	博多区那珂１丁目６他２筆	619.7	共同住宅	37	85	那珂遺跡群	98.06.23	遺構有	慎重工事
10-051	—	10-2- 119	博多区三筑二丁目1-10	647.0	共同住宅	25	—	包蔵地外	98.06.16	遺構なし	開発同意

試堀番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-057	9841	10-2- 118	博多区諸岡５丁目69	703.0	駐車場	25	103	笹原遺跡群	98.07.09	遺構有	慎重工事
10-060	—	10-2- 110	博多区奈良屋町244-1	100.2	ビル建築	48	121	博多遺跡群	98.07.14	遺構なし	開発同意
10-064	—	10-2- 104	博多区下呉服町366	588.6	オフィスビル建築	48	121	博多遺跡群	98.07.11	遺構なし	開発同意
10-070	—	10-2- 121	博多区博多駅南４丁目167-1・-2	184.8	専用住宅	37	127	比恵遺跡群	98.07.24	遺構有	慎重工事
10-071	—	10-2- 140	博多区須崎町13-22	198.0	営業所新築	48	121	博多遺跡群	98.07.27	遺構なし	開発同意
10-072	—	10-2- 141	博多区呉服町416-3	83.0	店舗	48	121	博多遺跡群	98.07.28	遺構有	慎重工事
10-073	—	10-2- 150	博多区千代１丁目347他６筆	1,014.0	マンション建設	35·48	122	堅粕遺跡群	98.07.23	遺構なし	開発同意
10-081	—	10-2- 95	博多区麦野４丁目41-8	201.6	共同住宅	12	49	麦野Ｂ遺跡群	98.08.04	遺構なし	開発同意
10-083	—	10-1- 31	博多区千代１丁目2-5	2,000.0	公営共同住宅	35	122	堅粕遺跡群	98.08.12	遺構なし	慎重工事
10-085	—	10-2- 205	博多区諸岡１丁目1-11	171.0	事務所併用住宅	24	92	諸岡Ａ遺跡	98.08.11	遺構なし	開発同意
10-092	—	10-2- 157	博多区板付５丁目2-3	794.0	倉庫兼事務所	24	94	板付遺跡	98.07.14	遺構有	慎重工事
10-093	—	10-1- 23	博多区須崎町200	276.5	土地競売物件	48	121	博多遺跡群	98.08.26	遺構なし	慎重工事
10-096	—	10-2- 246	博多区那珂２丁目114	422.0	専用住宅新築	24	85	那珂遺跡群	98.08.19	遺構有	慎重工事
10-104	—	10-2- 260	博多区昭南町１丁目41-1の一部	164.0	共同住宅	13	54	雑餉隈遺跡	98.09.08	遺構有	慎重工事
10-106	—	10-1- 86	博多区上牟田１丁目地内	6,506.0	公園整備	22	—	包蔵地外	98.09.09	遺構なし	開発同意
10-107	—	10-1- 55	博多区千代１丁目	7,000.0	公営共同住宅	35	122	堅粕遺跡群	98.09.11	遺構なし	開発同意
10-110	—	9-1-2088	博多区千代１丁目	2,000.0	道路建設	35	122	堅粕遺跡群	98.09.16	遺構なし	開発同意
10-112	—	10-2- 244	博多区博多駅南５丁目13-12	523.0	宅地	37	—	包蔵地外	98.09.01	遺構有	工事立会
10-116	9841	9-2- 499	博多区諸岡５丁目20,23,24	1,403.6	共同住宅、宅地	25	103	笹原遺跡	98.09.14	遺構有	要本調査
10-118	—	10-2- 165	博多区那珂１丁目300・400	152.0	売買	37	85	那珂遺跡群	98.09.02	遺構有	要協議
10-120	—	10-2- 269	博多区諸岡３丁目774-1	224.0	自宅兼事務所	24	92	諸岡Ａ遺跡	98.09.24	遺構なし	開発同意
10-121	—	10-2- 221	博多区竹下５丁目48-1	18.0	四階建て共同住宅	38	85	那珂遺跡群	98.09.29	遺構なし	開発同意
10-126	—	10-2- 232	博多区呉服町106-2～5、107-1他	535.0	共同住宅	48	121	博多遺跡群	98.09.10	遺構なし	開発同意
10-134	—	10-2- 212	博多区東比恵３丁目259	588.0	二階建て事務所	36	—	包蔵地外	98.10.08	遺構なし	開発同意
10-144	9856	10-2- 302	博多区麦野６丁目12-5・12-23	1,368.1	土地売買	12	50	麦野ｃ遺跡群	98.10.08	遺構有	要本調査
10-150	—	10-1- 17	博多区竹丘町１丁目2-4	925.6	庁舎建設	12	51	南八幡遺跡	98.10.28	遺構なし	慎重工事
10-151	—	10-2- 324	博多区下川端163	99.4	店舗	49	121	博多遺跡群	98.10.22	遺構有	慎重工事
10-153	—	10-2- 276	博多区板付６丁目8-4	2,156.0	土地売買	24	95	高畑遺跡隣接地	98.10.22	遺構なし	開発同意
10-154	—	10-2- 275	博多区板付６丁目10-2	977.0	土地売買	24	95	高畑遺跡	98.10.22	遺構なし	開発同意
10-155	—	10-2- 361	博多区博多駅南６丁目77-3	631.2	専用住宅新築	37	127	比恵遺跡群	98.10.27	遺構なし	開発同意
10-158	—	10-2- 311	博多区博多駅南６丁目4-1・9-1	1,416.8	社員寮	37	127	比恵遺跡群	98.10.27	遺構有	慎重工事
10-159	—	10-2- 343	博多区博多駅南３丁目39	509.6	事務所建設	37	127	比恵遺跡群	98.10.27	遺構有	慎重工事
10-160	—	10-2- 351	博多区那珂１丁目696～698	217.4	共同住宅	37	85	那珂遺跡群	98.10.29	遺構なし	慎重工事
10-165	—	10-2- 328	博多区三筑１丁目6-8	733.6	事務所	25	104	三筑遺跡	98.11.06	遺構なし	開発同意

試堀番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-168	9913	10-2- 377	博多区店屋町34･35･77	703.4	未定（ホテル）	49	121	博多遺跡群	98.11.09	遺構有	要本調査
10-169	9848	10-2- 344	博多区吉塚１丁目9-7	287.8	店舗付共同住宅	35	122	堅粕遺跡群	98.11.10	遺構有	要本調査
10-170	9858	10-2- 335	博多区那珂１丁目148	3,501.8	共同住宅	37	85	那珂遺跡群	98.11.06	遺構有	要本調査
10-176	—	10-2- 374	博多区大字金隈字上の山726	280.0	社屋建設	11	—	包蔵地外	98.10.17	遺構なし	開発同意
10-181	9859	10-2- 356	博多区下呉服町2-29	408.9	社屋建設	48	121	博多遺跡群	98.10.16	遺構有	要本調査
10-183	—	10-1- 5	博多区博多駅前２丁目	1,619.0	保健福祉庁舎	49	121	博多遺跡群	98.12.02	遺構なし	開発同意
10-184	9912	10-2- 349	博多区博多駅南３丁目3-33	519.7	共同住宅	37	127	比恵遺跡群	98.10.27	遺構有	要本調査
10-187	—	10-2- 381	博多区冷泉88-1	201.1	ビル建設	49	121	博多遺跡群	98.11.02	遺構有	要本調査
10-195	—	10-2- 392	博多区東那珂１丁目277-1	874.6	共同住宅	23	2635	東那珂遺跡	98.12.08	遺構なし	慎重工事
10-196	—	10-2- 306	博多区寿町３丁目40	460.2	ホテル建築	12	51	南八幡遺跡群	98.12.10	遺構なし	慎重工事
10-198	—	10-2- 395	博多区竹下２丁目3-13	2,006.5	不明	64	127	比恵遺跡群	98.12.10	遺構有	慎重工事
10-201	—	10-2- 387	博多区竹下２丁目2-31	4,101.1	整備工場	64	127	比恵遺跡群	98.11.04	遺構なし	慎重工事
10-206	9862	10-2- 229	博多区諸岡２丁目5･7･8	817.0	自宅兼用共同住宅	24	93	諸岡Ｂ遺跡	98.12.15	遺構有	要本調査
10-207	—	10-2- 420	博多区中呉服町179	159.1	共同住宅	48	121	博多遺跡群	98.12.09	遺構なし	慎重工事
10-209	—	10-2- 459	博多区博多駅南４丁目179-1	538.0	事務所・倉庫	37	127	比恵遺跡群	98.12.22	遺構有	慎重工事
10-214	—	10-2- 451	博多区竹下５丁目499	446.0	共同住宅	38	85	那珂遺跡群	99.01.14	遺構有	慎重工事
10-217	—	10-2- 413	博多区板付６丁目10-8･-6	1,353.0	共同住宅（賃貸）	24	95	高畑遺跡群	99.01.12	遺構有	慎重工事
10-218	9907	10-2- 475	博多区博多駅南６丁目81	337.0	共同住宅	37	127	比恵遺跡群	99.01.12	遺構有	要本調査
10-219	9905	10-2- 462	博多区東那珂３丁目6-67	1,040.7	共同住宅	37	85	那珂遺跡群	99.01.12	遺構有	要本調査
10-226	9909	10-2- 453	博多区竹下５丁目500	564.0	賃貸共同住宅	38	85	那珂遺跡群	99.01.25	遺構有	要本調査
10-232	9919	10-2- 285	博多区冷泉町83番地他	800.5	ホテル（RC12F）	49	121	博多遺跡群	99.02.02	遺構有	要本調査
10-233	—	10-2- 513	博多区榎田２丁目3-11	2,705.0	事務所・倉庫	22	84	榎本遺跡群	99.02.04	遺構なし	慎重工事
10-237	—	10-2- 548	博多区諸岡２丁目9-5の一部	185.3	専用住宅	24	93	諸岡Ｂ遺跡	99.02.09	遺構有	工事立会
10-241	—	10-2- 544	博多区博多駅南６丁目45-1	214.0	未定	37	127	比恵遺跡群	99.02.18	遺構なし	慎重工事
10-242	—	10-1- 612	博多区博多駅東３丁目152	543.9	土地売買	36	126	駅東生産遺跡	99.02.24	遺構なし	慎重工事
10-242	—	10-1- 613	博多区比恵62-2	278.0	土地売買	36	126	駅東生産遺跡	99.02.24	遺構なし	慎重工事
10-242	—	10-1- 611	博多区博多駅東３丁目145	393.1	土地売買	36	126	駅東生産遺跡	99.02.24	遺構なし	慎重工事
10-242	—	10-1- 610	博多区博多駅東３丁目132	508.0	土地売買	36	126	駅東生産遺跡	99.02.24	遺構なし	慎重工事
10-243	—	10-1- 615	博多区青木１丁目305-2	650.0	土地売買	22	80	席田青木遺跡	99.02.22	遺構有	慎重工事
10-244	—	10-1- 614	博多区祇園町583-4	299.3	土地売買	49	121	博多遺跡群	99.02.23	遺構有	要本調査
10-249	—	10-2- 545	博多区博多駅南４丁目203-1他	1,265.0	軽量鉄骨2F店舗	37	127	比恵遺跡群	99.02.18	遺構有	工事立会
10-251	—	10-2- 456	博多区那珂４丁目308	326.0	共同住宅	24	86	那珂君休遺跡	99.02.25	遺構有	慎重工事
10-252	9908	10-2- 539	博多区吉塚３丁目355-6	474.0	共同住宅	35	123	吉塚遺跡	99.03.02	遺構有	要本調査
10-253	—	10-1- 618	博多区那珂４丁目地内	32,000.0	浄化センター建設	23･24	86	那珂君休遺跡	99.03.03	遺構なし	慎重工事

試堀番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-254	—	10-1- 629	博多区千代５丁目	1,000.0	市営住宅建替	48	—	包蔵地外	99.03.10	遺構なし	開発同意
10-259	—	10-2- 569	博多区東那珂１丁目324-1	871.3	共同住宅	23	2635	東那珂遺跡	99.02.23	遺構なし	開発同意
10-267	—	10-2- 88	博多区東雲町３丁目32	293.3	共同住宅	12	—	包蔵地外	98.12.15	遺構なし	開発同意
10-269	—	10-2- 573	博多区博多駅前１丁目82･83	455.6	ビル建築	36	—	包蔵地外	99.03.25	遺構なし	慎重工事
10-272	—	10-2- 631	博多区那珂１丁目39	557.6	個人住宅	37	85	那珂遺跡群	99.03.23	遺構なし	慎重工事
10-273	—	10-2- 607	博多区原町１丁目６	293.9	専用住宅	12	53	井相田Ｂ遺跡	99.03.23	遺構なし	慎重工事
10-276	—	10-2- 639	博多区那珂１丁目616	303.1	共同住宅	37	85	那珂遺跡群	99.03.18	遺構有	要本調査
10-277	—	10-2- 385	博多区千代２丁目地内	1,678.0	土地売買	35	122	堅粕遺跡群	98.12.08	遺構なし	慎重工事

⑦東区

試堀番号	調査番号	受付番号	申　請　地	面積(㎡)	開発用途	分布地図		遺跡名	調査日	調査結果	判断・指示
10-006	—	9-2- 532	東区蒲田３丁目677-1	2,816.1	事務所	2	3	蒲田部木原遺跡群	98.04.02	遺構有	慎重工事
10-011	—	10-2- 30	東区箱崎２丁目3086-1･3･5･6	459.5	宅地	34	—	元寇防塁隣地	98.04.21	遺構なし	開発同意
10-016	9821	9-2- 552	東区香椎３丁目３番１号	1,444.0		17	69	香椎Ａ遺跡	98.04.30	遺構有	要本調査
10-027	9816	10-2- 62	東区箱崎１丁目2615の一部	100.2	専用住宅	34		箱崎遺跡群	98.05.12	遺構有	要本調査
10-056	—	10-2- 136	東区香椎４丁目8-15	9,191.0	病棟	17	69	香椎Ａ遺跡	98.07.07	遺構なし	開発同意
10-061	—	9-1-2083	東区名子地内	1,040.0	道路建設	7	—	包蔵地外	98.07.22	遺構なし	開発同意
10-086	9921	10-2- 151	東区馬出５丁目470	2,933.0	共同住宅	34	2639	箱崎遺跡	98.07.30	遺構有	要本調査
10-100	—	9-2- 490	東区箱崎３丁目15-26	349.8	専用住宅	34	—	包蔵地外	98.08.31	遺構なし	開発同意
10-108	—	10-1- 93	東区馬出３丁目1-1	635.0	研究施設	34	—	包蔵地外	98.09.11	遺構なし	開発同意
10-109	—	9-1-2192	東区筥松３丁目	3,000.0	公営共同住宅	33	—	包蔵地外	98.09.16	遺構なし	開発同意
10-148	—	10-2- 280	東区箱崎１丁目2497-2	468.9	土地売買	34	2639	箱崎遺跡群	98.10.15	遺構有	工事立会
10-149	—	10-1- 149	東区筥松新町地内	1,106.0	公園整備	20	—	包蔵地外	98.10.28	遺構なし	開発同意
10-163	—	9-1-2084	東区土井一丁目地内	1,200.0	道路拡幅	8	—	包蔵地外	98.07.22	遺構なし	慎重工事
10-164	—	9-1-2081	東区蒲田２丁目地内	4,500.0	道路拡幅	2	—	包蔵地外	98.11.04	遺構なし	開発同意
10-167	—	10-1- 255	東区雁ノ巣２丁目38	1,600.0	共同住宅	43	—	包蔵地外	98.11.11	遺構なし	開発同意
10-174	—	10-1- 2	東区筥松４丁目地内	230	保育所改築	33	—	包蔵地外	98.11.15	遺構なし	開発同意
10-179	—	10-2- 149	東区青葉３丁目569-1他	30,399.0	住宅地造成	7	2618	青葉遺跡群	98.11.19	遺構なし	開発同意
10-188	—	10-2- 411	東区馬出５丁目606･607	377.7	共同住宅	34	2639	箱崎遺跡群	98.11.26	遺構有	慎重工事
10-191	—	10-1- 104	東区土井１丁目地内	1,200.0	道路拡幅	8	—	包蔵地外	98.12.09	遺構なし	開発同意
10-215	—	9-1-2082	東区原田･松田地内	5,050.0	道路拡幅	20･34	—	包蔵地外	99.01.13	遺構なし	開発同意
10-231	—	10-2- 503	東区箱崎１丁目2676他	256.0	共同住宅	34	2639	箱崎遺跡群	99.01.28	遺構有	慎重工事
10-264	—	10-2- 613	東区名島１丁目16-20	386.4	専用住宅	32	115	名島城	99.03.17	遺構有	慎重工事

Ⅱ．発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区、西区）を埋蔵文化財課第一係、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を同第二係が担当している。また、西区元岡一帯にかかる九州大学移転予定地については、別途担当課（大規模事業担当）を置き調査を実施している。

発掘調査にあたっては、「整理収蔵要項」に従い、個々の遺跡に調査番号をつけ、遺構・遺物及び記録類の登録を行っている。調査番号は、西暦年度下２桁と年度中の番号を組み合わせた４桁で表している。１遺跡の調査が複数年にまたがる場合は、開始年度の登録番号のみとなる。なお、複数の遺跡を同一調査事業で調査する場合は、原則として遺跡毎に調査番号を付している。

1）平成10年度の概要

市域内で実施された本年度の発掘調査件数は９年度からの継続事業７件、10年度新規事業66件の計73件である。所管課別では、埋蔵文化財課による、公共及び民間開発に伴う調査が61件（９年度からの継続事業６件、10年度新規事業55件）、うち重要遺跡確認調査１件、確認調査３件（圃場整備事業１件、範囲確認２件）である。大規模事業担当課事業では九州大学移転予定地の発掘調査が８件、文化財整備課事業では史跡指定地の現状変更に伴う確認調査が３件（鴻臚館跡確認調査、元寇防塁）である。また、福岡県教育委員会が学校建替のために実施してきた１件がある。

予算別では、国庫補助事業が24件（国補18件、国補＋民間受託３件、国庫＋令達３件）、民間受託事業が13（２）件、公共受託事業が23（３）件、令達事業が10（２）件、市単費事業が１件である。

調査件数は、博多区が最も多く29（３）件、西区18（３）件、早良区７件、城南区４件、中央区２件、東区７件、南区６件である。博多区では博多遺跡群を主として、那珂・比恵遺跡等の周辺での調査が顕著である。東区においては昨年度同様箱崎遺跡の調査事例が増加しつつある（()内は９年度からの継続事業）。

発掘調査件数の推移

	H.6	H.7	H.8	H.9	H.10
民　間	33	38	45	51(2)	35(2)
圃場整備	1	1	1	2	3
公　共	29	22	31	28	34(5)

発掘調査面積の推移　（㎡）

	H.6	H.7	H.8	H.9	H.10
民　間	24,689	52,193	51,246	22,054	9,033
圃場整備	5,000	1,330	308	11,442	2,999
公　共	81,655	44,997	47,454	37,780	55,032
合計	111,344	98,520	99,008	71,277	67,064

平成10年度発掘調査総括表（事業及び区別一覧）

区名	事業区分	事業別内訳							小計	合計	主管課・機関別内訳				
		令達	受託	補助事業			市単費	その他			埋蔵文化財課所管事業	大規模事業担当所管事業	文化財整備課所管事業	鴻臚館跡調査担当	県教育委員会所管事業
				補助	補助＋民受	補助＋令達									
東　区	公共	0	0	－	－	0	－	0	0	7	7	0	0	0	0
	民間	－	1	3	2	－	0	1	7						
博多区	公共	6(2)	9(1)	－	－	0	0	0	15(3)	29(4)	29(4)	0	0	0	0
	民間	－	9(1)	5	0	－	0	0	14(1)						
中央区	公共	1	0	－	－	0	1	0	2	2	0	0	0	2	0
	民間	－	0	0	0	－	0	0	0						
南　区	公共	0	1	－	－	0	0	0	1	6	6	0	0	0	0
	民間	－	1	4	0	－	0	0	5						
早良区	公共	0	0	－	－	1	0	1	2	7	6	0	0	0	1
	民間	－	1	4	0	－	0	0	5						
城南区	公共	1	2	－	－	0	0	0	3	4	4	0	0	0	0
	民間	－	0	1	0	－	0	0	1						
西　区	公共	2	11(2)	－	－	2	0	0	15(2)	18(3)	9(2)	8(1)	1	0	0
	民間	－	1(1)	1	1	－	0	0	3(1)						
小　計	公共	10(2)	23(3)	－	－	3	1	1	38(5)	73(7)	61(6)	8(1)	1	2	1
	民間	－	13(2)	18	3	0	0	1	35(2)						
合　計		10(2)	36(5)	18	3	3	1	2	73(7)						

（ ）内の数字は、平成９年度からの継続事業数である

2） 平成10年度発掘調査一覧

調査番号	受付番号	遺跡名	遺跡略号	調査次数	地図番号	登録番号	調査原因	調査種別	調査所在地	開発面積㎡	調査対象面積㎡	調査面積㎡	古墳	調査開始	調査終了	担当者
9726		東比恵３丁目遺跡第１	HGH	1	36	2776	公営住宅建設	公受	博多区比恵３丁目293-1	11,414.0	11,414.0	11,414.0		98.02.17	98.06.30	本田
9741		那珂遺跡群第64次	NAK-64	64	37	85	工場建替	民受	博多区竹下３丁目1-13	8,000.0	6,700.0	6,700.0		97.09.22	98.08.31	長家
9744		羽根戸南古墳群	HDM-3	3	106	576 577	配水場建設	公受	西区羽根戸地内	8,000.0	7,327.0	7,327.0	20	98.10.17	99.03.31	米倉･久住･星野
9763		元岡遺跡群第３次	MOT-3	3	129	2782	大学用地造成	公受	西区元岡	—	3,500.0	3,500.0		97.04.01	99.02.22	菅波正人
9768		周船寺遺跡群第11次	SSJ-11	11	132	689	共同住宅建替	民受	西区大字千里字ミドリ440-	1,500.0	812.7	812.7		98.02.03	98.04.24	大塚
9775		堅粕遺跡群第9次	KKS-9	9	35	122	公営住宅建替	令達	博多区吉塚１丁目８	1,973.0	2,000.0	1,973.0		98.03.12	98.07.17	井上
9778		博多遺跡群第107次	KT-107	107	48	121	道路拡幅整備	令達	博多区上呉服町３	120.0	120.0	120.0		98.03.18	98.05.29	大庭
9801	8-1-444	田島Ａ遺跡群第１次	TZA	1	72･73	—	道路新設工事	令達	城南区田島地内	11,880.0	1,400.0	1,990.0		98.04.06	99.02.10	加藤隆也
9802	9-2-352	箱崎遺跡第14次	HKZ	14	34	2639	共同住宅建設	民受･国補	東区箱崎１丁目28-15	265.0	80.0	36.0		98.04.01	98.04.23	佐藤
9803	9-2-411	有田遺跡群第189次	ART	189	82	0309	共同住宅建設	民受	早良区有田２丁目14-1の一部	1,721.0	979.0	1,290.0		98.04.02	98.07.31	荒牧
9804	—	西新町遺跡第12次	NSJ	12	72	0240	校舎改築	—	早良区修猷館高校内	—	5,214.0	5,214.0		98.04.22	98.12.28	県教委重籐
9805		上月隈遺跡群第２次	KTG	2	10	0032	公園整備	令達	博多区下月隈709-1	21,000.0	1,041.0	1,041.0		98.04.15	98.07.08	榎本
9806	9-2-364	香椎Ｂ遺跡第６次	KSB	6	17	0014	共同住宅建設	—	東区香椎３丁目1335-1外５筆	2,218.0	2,218.0	300.0		98.04.14	98.04.15	瀧本･田上
9807	—	福岡城跡第41次	FUE	41	60	0193	史跡整備	令達	中央区城内１丁目１	30,000.0	30,000.0	230.0		98.04.07	98.10.23	池崎･塩屋
9808		小田Ｃ遺跡第１次	KOC	1	137	0760	農業配水施設	令達	西区小田字木原･ミドリ地内	898.0	898.0	898.1		98.04.17	98.07.24	池田
9809		井尻Ｂ遺跡群第11次	IGB	11	25	0090	団地建替工事	公受	南区井尻団地地内	5,000.0	700.0	690.0		98.04.23	98.06.30	田上
9810		立花寺Ｂ遺跡群第５次	RGB	5	11	2626	ポンプ場建設	公受	博多区立花寺	12,000.0	157.0	157.0		98.05.07	98.05.21	瀧本
9811		元岡遺跡群第５次	MOT	5	139	2782	大学用地造成	公受	西区大字元岡字瓜尾地内	2,500.0	2,500.0	2,500.0		98.04.27	98.06.23	松村
9812		元岡遺跡群第６次	MOT	6	139	2782	大学用地造成	公受	西区大字元岡字柿カ元地内	2,800.0	2,800.0	2,880.0		98.06.30	98.08.28	松村
9813		元岡遺跡群第７次	MOT	7	129	2782	大学用地造成	公受	西区元岡地内	7,500.0	7,500.0	7,500.0		98.05.06	99.03.31	吉留
9814		南八幡遺跡群第９次	MHM	9	13	0051	駅舎改築工事	公受	博多区寿町１丁目	2,500.0	1,600.0	1,752.0		98.05.11	98.08.28	小林
9815	9-2-506	比恵甕棺遺跡第１次	HEM	1	37	0128	社屋･倉庫建設	民受	博多区山王２丁目12-12	500.2	247.0	198.0		98.05.21	98.06.22	佐藤
9816	10-2- 62	箱崎遺跡第15次	HKZ	15	34	2639	専用住宅建設	国補	東区箱崎１丁目2615の一部	100.2	40.0	36.3		98.05.25	98.06.05	大庭
9817	—	史跡元寇防塁生松原地区	GKB	7	103	0116	史跡整備	国補	西区小戸５丁目地内	—	—	110.0		98.06.05	98.08.24	池崎
9818	10-2- 48	那珂遺跡群第66次	NAK	66	37	0085	専用住宅建設	国補	博多区東光寺１丁目263-2	120.6	100.0	80.0		98.06.08	98.06.25	瀧本
9819		雀居遺跡第13次	SAS	13	23	2633	空港整備	公受	博多区雀居地内	2,200.0	2,200.0	1,700.0		98.04.15	99.03.25	力武
9820		東那珂遺跡第４次	HGN	4	23	2635	道路建設	令達	博多区東那珂２丁目地内	2,300.0	450.0	384.6		98.06.08	98.08.20	大庭
9821	9-2-552	香椎Ａ遺跡群第３次	KSA	3	17	0069	医院建設	民受	東区香椎３丁目３番１号	1,444.0	967.0	493.0		98.07.01	98.08.06	本田
9822	9-2-458	博多遺跡群第109次	HKT	109	36･49	0121	事務所ビル	民受	博多区博多駅前１丁目155-2	913.2	490.0	301.1		98.07.09	98.11.30	榎本

調査番号	受付番号	遺跡名	遺跡略号	調査次数	地図番号	登録番号	調査原因	調査種別	調査所在地	開発面積㎡	調査対象面積㎡	調査面積㎡	古墳	調査開始	調査終了	担当者
9823	10-2- 97	次郎丸遺跡群第４次	JRM	4	92	0315	宅地造成	国補	早良区次郎丸４丁目386-1	252.3	104.5	104.5		98.06.30	98.07.10	大塚
9824	10-2- 11	麦野Ａ遺跡群第６次	MGA	6	12	0048	専用住宅建設	国補	博多区麦野３丁目11-29	315.4	244.0	244.0		98.07.01	98.07.16	田上
9825	8-1-614	蓮町遺跡第２次	HMC	2	120	0686	鉄道軌道拡幅	公受	西区周船寺316-2他	108.0	108.0	108.0		98.08.19	98.08.25	池田
9825	8-1-614	飯氏遺跡群第７次	ＩＩＪ	7	120	0685	鉄道軌道拡幅	公受	西区周船寺356-1他	412.0	412.0	412.0		98.07.15	98.09.15	荒牧・池田
9826		内野遺跡群第３次	UCN	3	早17	0803	圃場整備	令達・国補	早良区８丁目・大字西地内	87,000.0	1,700.0	1,700.0		98.07.22	98.10.26	大塚
9827	10-2- 19	博多遺跡群第110次	HKT	110	49	0121	共同住宅建設	民受	博多区店屋町152他３筆	307.7	307.0	186.0		98.08.20	98.11.03	田上
9828		下月隈Ｃ遺跡群第４次	SHC	4	23	2625	調節池建設	公受	博多区月隈４丁目地内	58,000.0	58,000.0	10,000.0		98.09.01	99.03.25	瀧本
9829	—	元岡遺跡群第８次	MOT	8	129	2782	大学用地造成	公受	西区大字元岡字大坂・瓜尾	—	—	450.0	1	98.09.16	98.12.25	松村
9830	10-2-224	田島Ａ遺跡群第２次	TZA	2	62	199	煙草自販設置	国補	城南区田島１丁目405	30.0	30.0	24.0		98.09.01	98.09.11	加藤隆也
9831	—	福岡城跡第42次	FUE	42	60	193	史跡整備	市単費・国補	中央区城内１丁目１	3,000.0	—	930.0		98.09.22	99.01.29	池崎・塩屋
9832	10-2- 49	有田遺跡群第190次	ART	190	82	309	専用住宅建替	国補	早良区有田１丁目10-7	278.2	27.2	27.2		98.08.24	98.08.27	米倉・本田
9833		高畑遺跡第17次	TKB	17	25	95	道路新設工事	公受	博多区板付６丁目地内	5,300.0	2,100.0	2,063.5		98.09.01	99.03.26	大庭
9834	10-2-101	比恵遺跡群第66次	HIE	66	37	127	共同住宅建設	国補	博多区博多駅南５丁目70-2	465.0	212.3	212.3		98.09.25	98.10.07	井上
9835	10-2-249	五十川遺跡群第６次	GJK	6	24	88	農業用倉庫	国補	南区五十川２丁目537-1他	127.0	127.0	127.0		98.09.24	98.09.30	小林
9836		博多遺跡群第111次	HKT	111	48	121	小学校建替	令達	博多区奈良屋町地内	27,000.0	5,600.0	4,800.0		98.10.01	調査継続	佐藤・井上
9837	10-2-211	五十川遺跡群第７次	GJK	7	24	88	専用住宅建替	国補	南区五十川２丁目6-18	780.0	779.0	779.0		98.10.01	98.11.10	小林
9838		笹原遺跡群第３次	SSB	3	25	103	道路新設工事	公受	博多区諸岡６丁目地内	5,900.0	5,900.0	1,610.0		98.10.08	98.01.16	長屋
9839	9-1-2076	コノリＢ製鉄遺跡第１次	KCB	1	105	540	団地建替	令達	西区拾六町団地	5,000.0	1,500.0	1,500.0		98.10.19	98.12.28	池田・大塚
9840	10-2-210	飯倉Ｃ遺跡第４次	IKR	4	73	240	専用住宅建設	国補	早良区飯倉６丁目123-1	865.0	142.0	126.6		98.10.09	98.10.10	池田
9841	9-2-499	笹原遺跡群第２次	SSB	2	25	103	共同住宅建設	民受	博多区諸岡５丁目20,23,24	1,403.6	654.0	654.0		98.10.21	98.11.30	本田
9842	8-1-613	梅林遺跡第２次	UBY	2	75	254	道路新設工事	公受	城南区梅林４丁目402-1	4,525.0	2,500.0	2,258.0		98.08.18	98.12.11	井澤
9843	8-1-613	梅林遺跡第３次	UBY	3	74	2775	道路新設工事	公受	城南区梅林３丁目455-7他	4,525.0	2,500.0	2,267.0		98.04.02	98.07.14	井澤
9844	10-2-208	姪浜遺跡群第４次	MNH	4	89	367	共同住宅建設	民受・国補	西区姪浜３丁目3393	212.0	140.0	119.0		98.11.04	98.11.26	米倉
9845	10-1- 30	博多遺跡群第112次	HKT	112	49	121	庁舎建設	公受	博多区博多駅前２丁目17	4,099.0	150.0	50.0		98.11.11	98.12.13	田上
9846	10-2-301	五十川遺跡群第８次	GJK	8	24	88	専用住宅建設	国補	南区五十川２丁目555	281.0	19.0	18.0		88.11.06	98.11.10	小林
9847	10-2-337	有田遺跡群第191次	ART	191	82	309	専用住宅建設	国補	早良区小田部３丁目402-2	165.3	165.0	169.5		98.12.07	98.12.18	久住
9848	10-2-344	堅粕遺跡群第10次	KKS	10	35	122	店舗付共同住宅	国補	博多区吉塚１丁目9-7	287.8	150.0	100.0		98.12.07	98.12.11	小林
9849		下月隈鳥越遺跡第２次	STO	2	10	2778	空港整備	公受	博多区下月隈904-1他	30,000.0	475.0	226.0		99.01.06	99.01.26	榎本
9850		中山遺跡確認調査	NAY	—	早17	806	圃場整備	令達・国補	西区内野西地内	87,000.0	87,000.0	550.5		98.12.07	98.12.25	大塚
9851	—	元岡遺跡群第９次	MOT	9	129	2782	大学用地造成	公受	西区大字元岡字瓜尾地内	—	200.0	190.0		98.11.02	98.12.10	松浦

調査番号	受付番号	遺跡名	遺跡略号	調査次数	地図番号	登録番号	調査原因	調査種別	調査所在地	開発面積㎡	調査対象面積㎡	調査面積㎡	古墳	調査開始	調査終了	担当者
9852	10-2-336	大橋Ｅ遺跡第６次	OHE	6	39	2382	専用住宅建設	国補	南区大橋４丁目670-8	320.9	54.0	48.0		99.01.07	99.01.18	本田
9853	10-2-396	箱崎遺跡第16次	HKZ	16	34	2639	共同住宅建設	民受・国補	東区箱崎１丁目2725	474.4	56.0	56.0		99.01.18	99.01.29	力武
9854	—	元岡遺跡群第10次	MOT	10	129	2782	大学用地造成	公受	西区大字桑原字柳ヶ浦地内	—	—	1,336.0		99.01.06	99.03.31	松浦
9855	—	元岡遺跡群第11次	MOT	11	129	2782	大学用地造成	公受	西区大字桑原字柳ヶ浦地内	—	—	1,240.0		99.01.06	99.03.20	松浦
9856	10-2-302	麦野Ｃ遺跡群第５次	MGC	5	12	50	共同住宅建設	民受	博多区麦野６丁目12-5・12-23	1,368.1	900.0	871.1		99.01.25	99.05.21	本田
9857	—	部木古墳群第２次	HEK	2	2	5	重要遺跡確認	国補	東区蒲田３丁目761～765	10.0	7,264.0	10.0		99.01.18	99.03.05	長屋
9858	10-2-335	那珂遺跡群第67次	NAK	67	37	85	共同住宅建設	民受	博多区那珂１丁目148	3,501.8	1,600.0	1,420.0		99.01.18	99.06.30	小林
9859	10-2-356	博多遺跡群第113次	HKT	113	48	121	社屋建設	民受	博多区下呉服町2-29	408.9	190.0	190.0		99.02.08	99.04.26	力武
9860		浦江遺跡確認調査	URA	—	94	444	圃場整備	令達・国補	西区金武字浦江	76,000.0	—	3,146.4		99.02.15	99.03.31	大塚
9861	10-2-441	那珂遺跡群第68次	NAK	68	38	85	分譲共同住宅	民受	博多区竹下５丁目94	1,008.0	500.0	599.0		99.02.12	99.03.31	久住
9862	10-2-229	諸岡Ｂ遺跡群第20次	MRB	20	24	93	共同住宅建設	国補	博多区諸岡２丁目５・７・８	817.0	675.0	207.6		99.02.01	99.02.17	大庭
9863		上月隈遺跡群第３次	KTG	3	10	32	道路新設工事	令達	博多区月隈３丁目762-1	5,900.0	450.0	170.0		99.02.15	99.03.31	榎本
9864	10-2-380	箱崎遺跡第17次	HKZ	17	34	2639	社屋・倉庫建設	国補	東区箱崎１丁目20-19	200.0	206.0	40.0		99.03.08	99.03.31	長屋
9865	10-2-405	井尻Ｂ遺跡群第12次	IGB	12	25	90	社屋ビル建設	民受	南区井尻４丁目170-1・171-1他等	1,102.8	120.0	125.0		99.03.15	99.4.16	田上

（●は10年度新規事業
○は９年度からの継続事業）

平成10年度発掘調査地点位置図

9744 羽根戸南古墳群第３次調査（HDM-3）

所　在　地　西区羽根戸龍ノ下
調査原因　配水場建設
調査期間　1997.10.17～1999.03.31
調査面積　7,327㎡
担　当　者　米倉秀紀・久住猛雄
星野恵美・蔵富士寛
処　　置　記録保存

前年度からの継続調査で、本年度調査した古墳は、E-1～3号・9～12号、F-2号、G-1～12号墳である。

検出遺構

4世紀後半	G-2・3号（前方後円墳）
	G-7号（方墳）
5世紀前半頃	G-10号（円墳）
6世紀中頃	E-11・12号（円墳）
6世紀前半頃	F-2号（前方後円墳）
6世紀中頃	G-4号（円墳）
6世紀後半頃	G-1・E-3号（円墳）
6世紀末頃	E-1・9・10号（円墳）
7世紀代	E-2・G-5・6号（円墳）

他に箱式石棺・石蓋土壙墓・木棺墓。また縄文時代の土壙や焼土壙多数を検出。5世紀代と考えられる竪穴住居跡1軒も検出した。

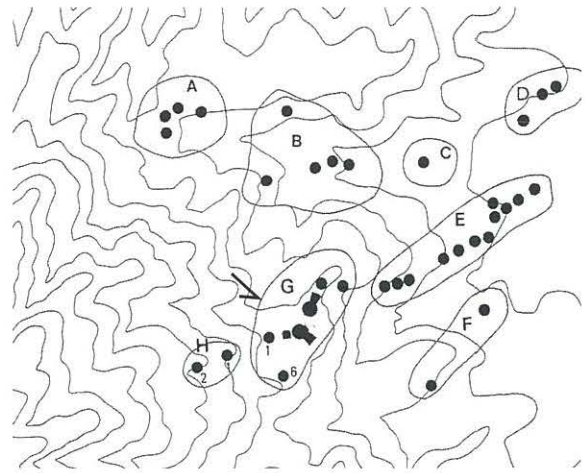
出土遺物　各古墳から当該期の土師器・須恵器・鉄器・玉類等が出土。6世紀後半以降の古墳から鉄滓が出土。他の主な出土遺物は次のとおり。

E-12号墳：三角板鋲留短甲片
H-2号墳：金製耳環
G-2号墳：位至三公鏡
G-3号墳：内行花文鏡（破鏡）・鉄剣・鉾

また押型文土器、縄文時代晩期土器、弥生土器中世の土師器、銅銭等も出土した。総量はコンテナ約50箱である。

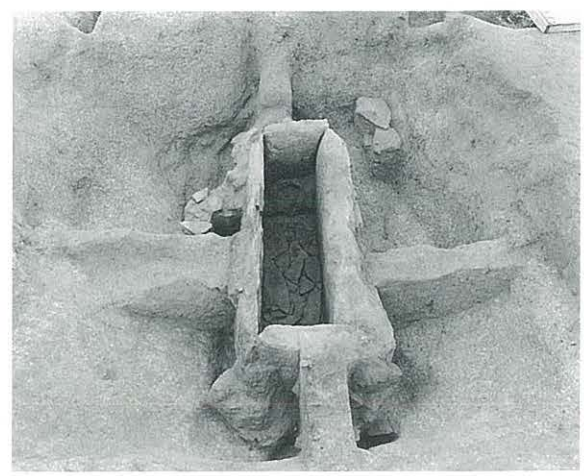
まとめ　今回の調査の最大の成果は3基の前方後円墳の発見である。大ききは17m～27m前後といずれも小きなものであるが、早良平野における前方後円墳の空白期を埋めることができ、早良平野の首長墓系列を考える上で、大変重要な発見ということができる。その他の古墳も円墳とはいえ、各時期2～3基の古墳がほぼ時系列に並ぶように存在し、福岡市内の群集墳とは趣を異にしている。

調査報告書は2000年度に刊行予定。



1. 調査地点の位置（106　飯盛山　576・577・2531　1：8000）

2. 調査区全景（G群西から）


3. C-2号墳主体部（東から）

9763 元岡遺跡群第３次調査（MOT-3）

所在地	福岡市西区元岡地内	調査面積	3,500㎡
調査原因	大学移転に伴う造成工事	担当者	菅波正人
調査期間	1997.4.1～99.2.22	処置	記録保存

調査は昨年度からの継続である。今年度は弥生～古墳時代の遺構面下層で確認した縄文時代早期の文化層の調査を行った。縄文時代早期の文化層は花崗岩の基盤に堆積した礫層の上面に形成されている。厚さ 50～150cmを測る。土層観察から文化層は３～４層に分けることができる。検出した遺構、遺物は以下のとおりである

検出遺構　集石炉33基（内、11基は焼石の礫群）、炉穴１基、焼土面数基等。

集石遺構は調査区の西側に多く分布する。集石遺構は炉と考えられるが、形態からいくつかのタイプに分けることができる。石囲いをもつもの、浅い掘り込みに人頭大の礫を充填したもの掘り込みの中に炭化物が多量に詰まり、炭化物の中に礫が数個立てられたもの等がある。炉穴（連結土壙）は南九州で多く発見されているが、北部九州では初例と考えられる。

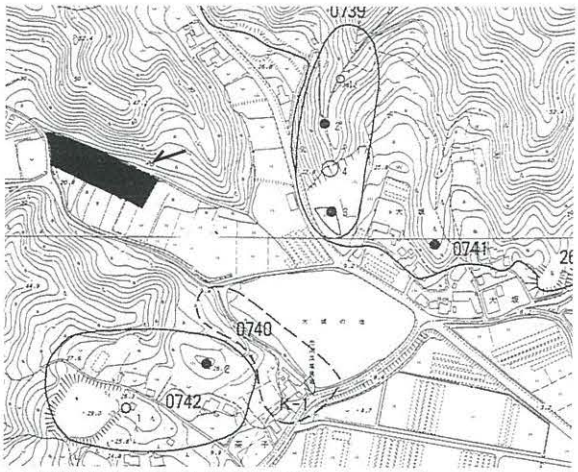
出土遺物　縄文土器（押型文土器、撚糸文土器、刺突文土器、無文土器、条痕文土器等）、石器（石鏃、石槍、スクレーパー、石皿、磨石、石斧）等がある。

遺物は層位的に幾つかの時期に分けることができる。Ⅰ期は押型文土器の時期である。Ⅱ期は撚糸文土器、刺突文土器、条痕文土器の時期で、今回の調査では量的にもっとも多い。石器は石鏃、石槍、磨石、石皿等がある。Ⅲ期は条痕文土器を主体とした時期で、量的には少ない。

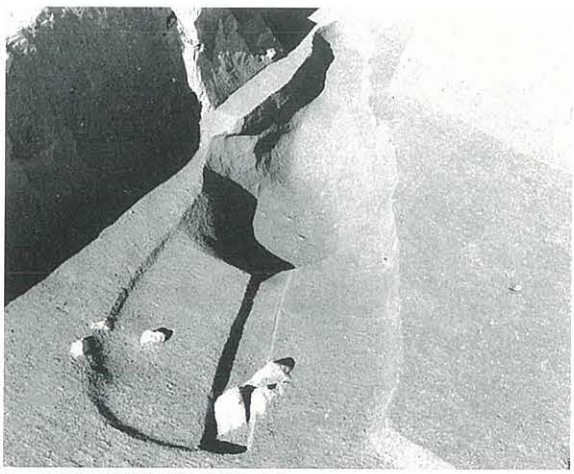
旧石器時代の遺物も出土している（ナイフ形石器、剥片尖頭器、細石刃核等）。昨年度分を含めた遺物総数は144箱(内、縄文時代遺物は69箱)。

まとめ　今回の調査では縄文時代早期の集石遺構、炉穴を検出し、多数の土器、石器が出土した。当該期の調査例は少なく、集落立地や構造を考える上で重要な資料と言える。

調査報告書は□□年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（129　桑原　1：8000）


2. SK050完掘状況（南から）

3. SK024掘り下げ状況（北から）

9775 堅粕遺跡群第９次調査（KKS-9）

所在地	博多区吉塚一丁目８	調査面積	1,973㎡
調査原因	市営住宅建設	担当者	井上繭子
調査期間	98.3.12～7.17	処置	記録保存

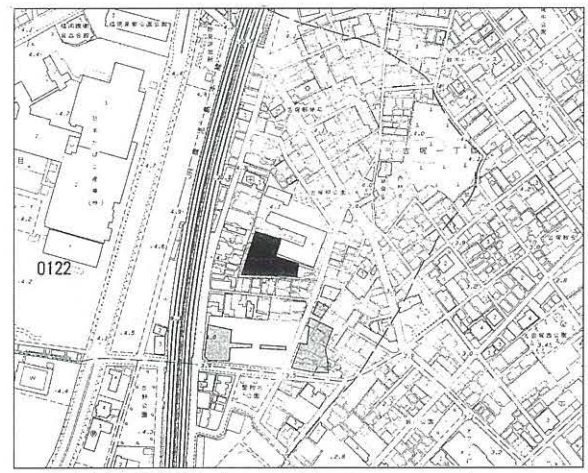
位置・環境　堅粕遺跡群は御笠川の東岸、博多湾奥に形成された砂丘上に立地する。本調査区は堅粕遺跡群の東側にあたり、古墳時代から平安時代にかけての住居跡、墓地、溝等が検出された第４・５次調査地点の北側に位置する。

検出遺構　遺構面は地表下約70～90㎝、標高約3.8ｍ前後の黄褐色砂層である。この黄褐色砂層は８～11世紀前後の遺物包含層で、灰白色粗砂層の上面に20～30㎝程堆積している。調査区は攪乱が多く、遺構検出が困難な箇所が多いことから、比較的攪乱が少ないと思われる南側を調査対象とした。

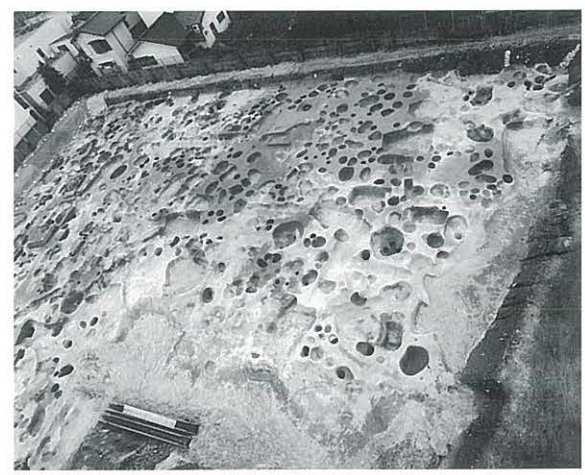
遺構は黄褐色砂層上面から掘り込まれている。土壙・墓壙・柱穴・竈等を多数検出した。調査区の中央にかけて、河川らしき流路が検出された。

出土遺物　古代から中世初頭を中心とする、須恵器・土師器・中国製青磁・土錘・石錘等が出土した。

まとめ　南側に位置する第４・５次調査地点でも、明確な遺構を確認することは困難であったようであるが、移動式竈、越州窯系青磁、緑釉陶器、墨書土器等が出土しており、公的施設の様相を示している。本調査区でも共通する遺物が出土しており、関連する施設の存在が推定される。



1．調査地点位置図（35　吉塚 122　1：8000）



2．調査区西側全景（北東から）

3．土壙遺物出土状況（南東から）

9801 田島A遺跡群第1次調査（TZA-1）

所在地	城南区田島1丁目地内	調査面積	1,990㎡
調査原因	道路新設工事	担当者	加藤隆也
調査期間	1998.4.6～1999.2.10	処置	記録保存

位置・環境　調査地点は樋井川の西側中位段丘に位置し、南北に延びる台地の東側斜面にあたる。北側には第2次調査地点が隣接する。現況は宅地であり、標高は約6.6mを測る。南西方向約500mには京ノ隈古墳、西側約900mには別府遺跡が位置する。

検出遺構　調査は、0.6～1.5mの盛り土、遺物包含層を除去したローム層上面を遺構検出面として行い、竪穴住居、掘立柱建物、貯蔵穴、石蓋土壙墓、木棺墓、溝、柱穴を検出した。

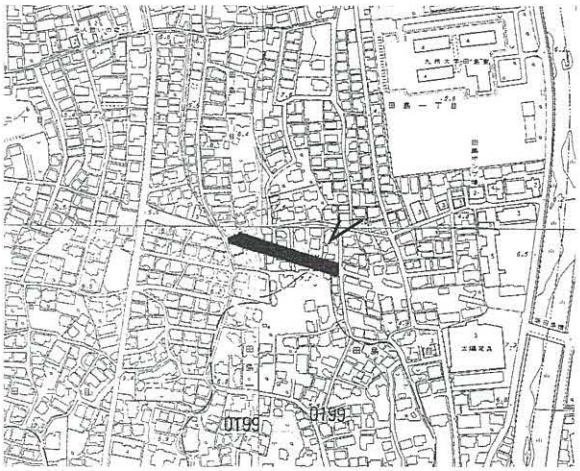
検出した6基の竪穴住居は古墳時代のもので、密度は薄い。集落の中心は別地点にあるようである。貯蔵穴は調査区北側で検出した。その背景に弥生時代の集落の広がりが考えられる。

石蓋土壙墓は遺存状況が良好であり、二段に掘りこまれている。平面形は隅丸方形を呈する。玄武岩の板石と小石を用い、墓壙二段目を覆って蓋石としている。隙間は白色粘土で目張りしている。蓋石の内面には赤色顔料がみられ、床面の片側には白色粘土がみられる。石蓋土壙墓は墓壙の重複がないことから、短期間に造られており、家族墓的な様相を呈している。また使っている石材の多くが玄武岩であり、この周辺では採集できないことから、この集団は蓋石の石材供給を一定の場所から行ったと想定できる。

木棺墓は13～14世紀の青磁椀を各1点副葬するもので、合計4基検出した。この時期の遺構の割合が最も多く、建物と区画溝がみられることから屋敷としての景観が広がっていたものと思われる。

まとめ　検出遺構の時期は、弥生時代前期、古墳時代初頭と6世紀代、奈良時代、中世である。樋井川の西側にあたる立地上の優位性から、当該地には長い間にわたって、集落が営まれていたことを明らかにできた。

調査報告書の刊行は1999年度を予定している。



1. 調査地点の位置（62 小笹・73 茶山　0199　1：8000）

2. 調査区東側全景（東から）

3. 調査区西側全景（東から）

9802 箱崎遺跡群第14次調査（HKZ-14）

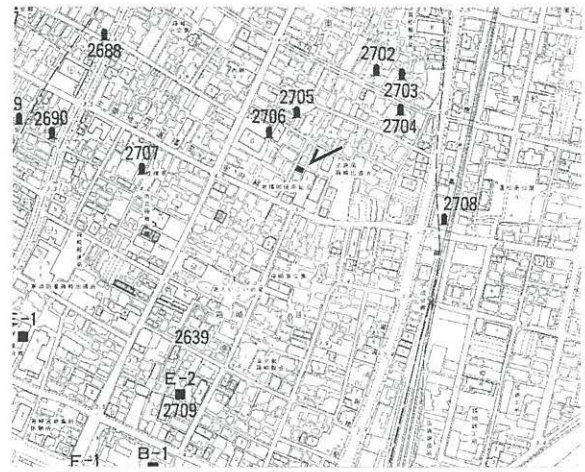
所在地	東区箱崎一丁目28-15	調査面積	36㎡（2面）
調査原因	共同住宅建設	担当者	佐藤一郎
調査期間	1998.4.2～5.23	処置	記録保存

位置・環境　本調査地は博多湾に面した古砂丘上に位置する。調査地区は筥崎八幡宮の南西 100ｍに位置し、北東140ｍで第６次、南西120ｍで第７次調査が行われている。

検出遺構　遺構は現地表下１～1.50ｍの暗灰褐色砂質土（遺物包含層）、及び黄白色砂（地山、標高2.9ｍ）上面で確認された。包含層上面で検出された遺構は、土壙４基、柱穴14で、土壙SK01・09は壁、床面に粘土を貼りつけたもので、箱崎遺跡群では比較的よくみられるものである。遺構の時期は12世紀後半から13世紀前半を主とする。地山上面では、土壙６基、溝２条、柱穴80を検出した。溝２条は土壙SK09下面で検出されたもので、土壙の下部構造に関連するとみられる。遺構の時期は13世紀後半から14世紀前半を主としている。

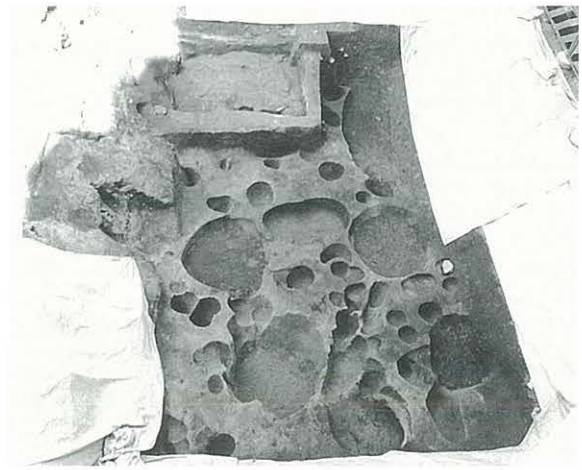
まとめ　限られた範囲での調査であったが、今回の調査では井戸は全く検出されなかった。密集した柱穴群と併せ考えると、建物部分の一角に当たったとみられる。粘土貼りの土壙については、類例を積み重ねることによりその機能や性格が判明していくであろう。

調査報告書は1999年度に刊行予定。



1. 調査地点の位置（34　箱崎　2639　1：8000）

2. 調査区全景（包含層上面　南西から）


3. 調査区全景（包含層下面　南西から）

9803 有田遺跡群第189次調査（ART-189）

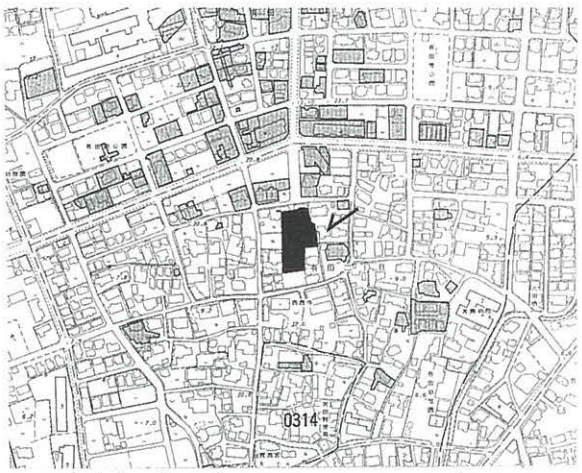
所在地	早良区有田２丁目14番の１一部他	調査面積	1,290㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	荒牧宏行
調査期間	1998.4.2～7.31	処置	記録保存

位置・環境　福岡市西部を占める早良平野のほぼ中央に位置する。調査地点は洪積台地の最高所付近にあり、標高13ｍを測る。近くに弥生前期の環濠や中世の小田部城が築かれ拠点となる立地条件をそなえる。

検出遺構　検出された主な遺構は弥生前期（金海式）甕棺３基、古代の郡庁と考えられる建物、中世の掘立柱建物５棟、中世～近世の溝２条である。この中で注目される郡庁の施設は長舎を「コ」の字状に巡らした中に正殿を中央北寄りに配置した形式をとると考えられる。北側に配置された東西棟の長舎は２×９間以上（4.2×18.6ｍ以上）、東側に配置された南北棟は２×12間以上（4.0×24ｍ以上）、正殿は２×６間の身舎に四面庇が付き庇を含めた規模は8.7×16.0ｍとなる。正殿、長殿ともに建替えは認められない。東側の長舎の外側に一廻り小さい柱列が検出されたが遺存が悪く、性格は不明確である。調査区南側は削平が著しく門は検出されなかった。

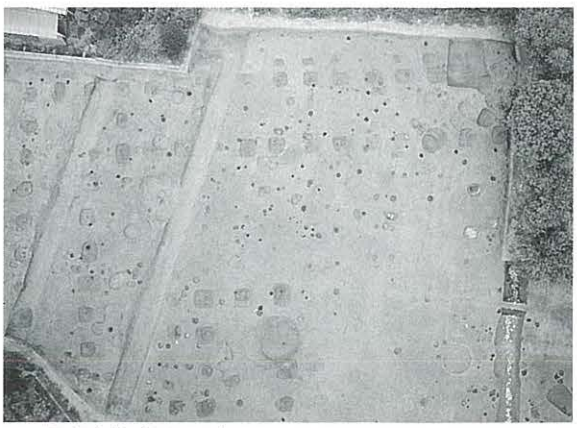
出土異物　郡庁に関わる遺物は少ないが、７世紀後半代の須恵器小片と緑釉陶器小片が長舎の柱穴掘方から出土した。出土遺物量は総じてコンテナ54箱分。

まとめ　既往の調査で正倉と考えられる大型の総柱建物群や館に相応するような大型の側柱建物、方向が合致する大溝などが検出されており、本調査で郡庁が検出されたことにより郡衙の構成が明らかとなってきた。さらに周辺では「那津官家」との関連が示唆されていた倉庫群が存し、律令制度の推移を知る上でも重要である。



1. 調査地点の位置（82　原　0309　1：8000）

2. 調査区全景（西から）


3. 郡庁建物（西から）

9804 西新町遺跡第12次調査（NSJ-12）

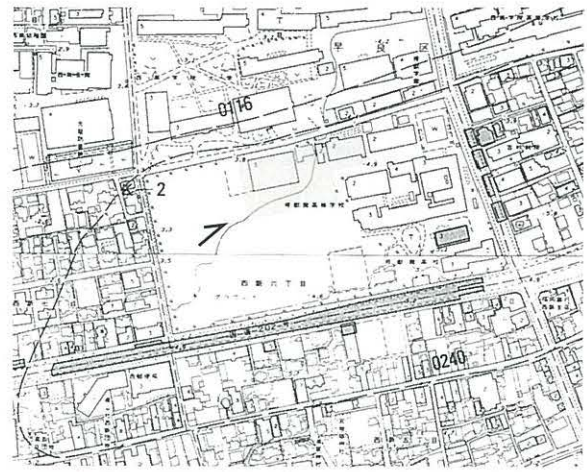
所 在 地 早良区西新６丁目1-10　**調査面積** 5,214㎡
調査原因 学校建設　**担 当 者** 福岡県教育委員会
重藤輝行・森井啓次・大庭孝夫
調査期間 1998.4.22～12.28　**処　　置** 記録保存

位置・環境　西新町遺跡は早良平野の東北端、博多湾に面した古砂丘上に立地する。このたび遺跡の東部に位置する福岡県立修猷館高校の校舎改築が計画され、福岡県教育委員会文化財保護課が発掘調査を行った。遺構面は現地表下１ｍ、標高３ｍ前後であり、近世～近代、古墳時代前期の遺構を検出した。

検出遺構　古墳時代の竪穴住居跡 159棟、土壙、近世の廃棄土壙、近代学校校舎跡である。古墳時代の住居跡にはこの時期としては他遺跡では例の少ないカマド付竪穴住居跡も27棟含まれている。カマドには朝鮮半島の同時期の例と類似するものもあり注目される。また古墳時代の41号土壙は10×８ｍ、深さ2.5ｍの他に例をみない巨大な土壙で多量の土器が出土した。

出土遺物　遺物は古墳時代、近世の遺物が多量に出土し、コンテナ536箱に達する。古墳時代の遺物には多数の各種半島系土器、ガラス玉鋳型３点が含まれており、貴重である。また近世の遺物は高取焼窯に伴う窯道具、各種陶磁器未製品が多い。

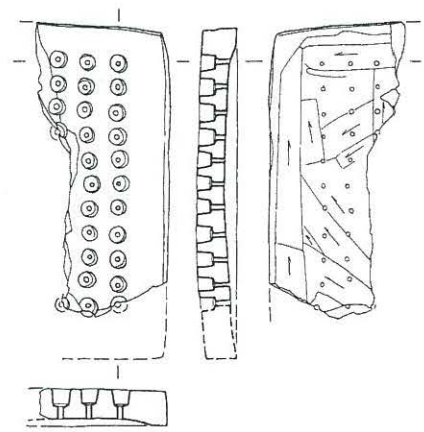
本調査の詳細については平成11年度、12年度に福岡県教育委員会より刊行予定の報告書を参照していただきたい。



1．調査地点の位置（72　荒江　0240　1：8000）

2．81号竪穴住居跡（カマド付）

3．125号竪穴住居跡カマド


4．ガラス小玉鋳型実測図（1/2）

9805 上月隈遺跡群第２次調査（KTG-2）

所在地	博多区大字下月隈709-1他	調査面積	1,041㎡
調査原因	公園建設	担当者	榎本義嗣
調査期間	1998.4.15～7.8	処置	記録保存

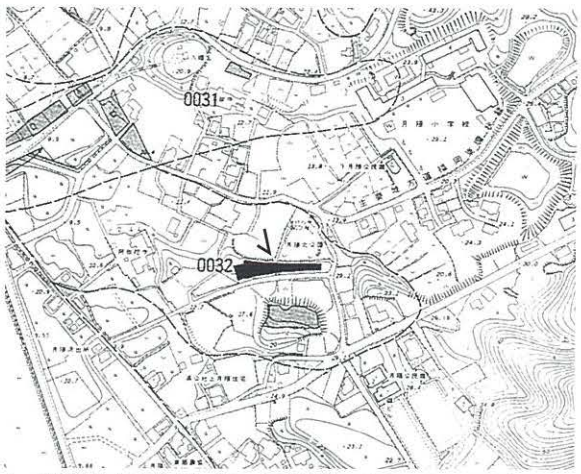
位置・環境　上月隈遺跡群は福岡平野の東側を区切る月隈丘陵から西側に派生する支丘上に立地する。第１次調査はこの丘陵尾根を対象として実施され、弥生時代中期から後期初頭の甕棺墓地及び近世墓地が検出されている。今回の第２次調査区はこの尾根から下った北側緩斜面に位置し、調査区のほぼ中央には浅い谷部が開析する。遺構は花崗岩風化土もしくはその上層に堆積する黄褐色土上面で確認した。その遺構面の標高は約17～19ｍを測る。

検出遺構　検出した主な遺構には竪穴住居、掘立柱建物、溝、土壙等がある。竪穴住居は11軒を確認したが、遺存状況は良好ではなく、壁溝のみの検出例が多い。弥生時代後期初頭から中頃の方形住居を主体とし、古墳時代中期及び奈良時代と考えられる住居が各１軒検出された。掘立柱建物として奈良時代に帰属すると考えられる２×２間の規模（柱間2.1ｍ）を有する１棟を確認した。検出した溝のうち、最も規模の大きなものは幅約３ｍ、深さ約１ｍで、逆台形の断面を有する。「L」字状に北側に折れるが全容は不明である。中世後半期の遺物が出土している。他に瓦器の焼成遺構と考えられるものを１基確認した。還元された円形の焼成部に短い焚口が付く小規模な構造で、瓦器椀・皿と共に焼台と考えられる円筒形の土製品が出土した。

出土遺物　遺物はコンテナ数にして14箱が出土した。弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、輸入陶磁器、石塔等がある。

まとめ　弥生時代の集落の確認は月隈丘陵における当該期の生活遺構と墓地の占地のあり方を考察する上で貴重である。また、中世の溝は山城に関連する堀の可能性が高く、文献史料との対比が望まれる。

調査報告書は1999年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（10　下月隈　0032　1：8000）

2. 調査区西半部全景（東から）

3. 調査区東半部全景（西から）

9806 香椎B遺跡第6次調査（KSB-6）

所在地	東区香椎2丁目	調査面積	300㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	瀧本正志・田上勇一郎
調査期間	980414～980415	処置	工事立会

位置・環境　香椎は福岡市の東部に位置し、周囲を多々良川、香椎潟（博多湾）、立花山、皆打山等の天然の城壁に囲まれている。海岸から1㎞ほど内陸の地には神亀元年（724）に神功皇后を祭神として建立された香椎宮（廟）がある。調査地は、この宮から東北へ300ｍほど離れた山裾に立地し、東西70ｍ・南北60ｍを測る長方形の平坦な敷地である。伝承では、香椎宮（廟）の大宮司（廟司）職を務めた大膳紀宿禰（武内氏）とその子孫が居住したとされている。現在も41代の当主である武内公磨氏とご家族が居住されている。

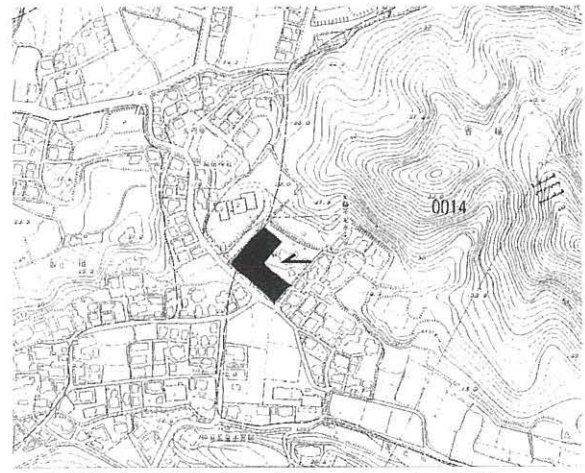
調査は、当初計画になかった大規模な擁壁工事のため、掘削後の範囲立会いであったが、現実的には掘削した包含層からの遺物の採取に止まる。調査地の地表下1.2～1.4ｍには灰色粘質土、黒色粘質土が認められ、これらの土層から大量の遺物が出土していた。

検出遺構　工事の関係から明確な遺構の存在を確認することはできなかったが、遺物の出土状況から少なくとも廃棄土壙、建物等が存在する可能性は極めて高い。

出土遺物　出土遺物は、大半が平安時代末から室町時代の土師器、瓦器、陶磁器、木製品で、コンテナ15箱ほど出土している。

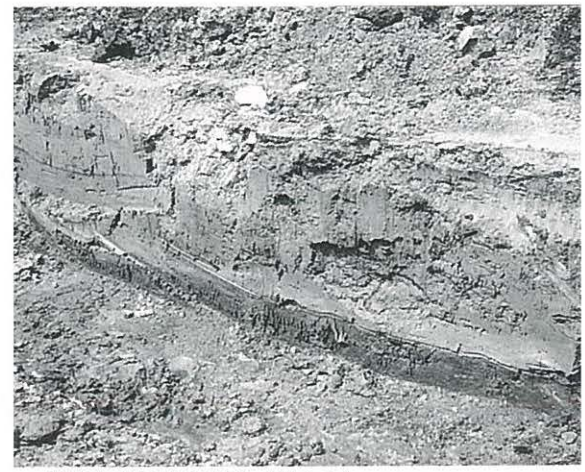
まとめ　掘削土からの豊富な出土遺物は、調査地が古代から特異な性格を有していた伝承を積極的に裏付けるものである。特に大量の土師器皿の出土は、大宮司家の特色を示すものであろう。発掘調査が的確に実施されていたならば性格が解明されたものと考えられ、まことに残念である。このような事例が二度と無いようにしたい。

調査報告書は、2000年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（17　浜男　0014　1：8000）

2．立会調査状況（北から）


3．遺物包含層検出状況（東から）

9807 福岡城跡第41次調査（FUE-41）

所 在 地　中央区城内1-1　　**担 当 者**　田中壽夫　塩屋勝利　池崎譲二
調査原因　公園整備（平和台球場解体）　**処　　置**　埋め戻し保存
調査期間　1998.4.10～10.20　　**調査面積**　230㎡

位置・環境　国指定史跡福岡城跡（舞鶴公園）内に所在した平和台野球場の解体工事にともなう確認調査である。鴻臚館跡跡関連調査では第15次となる。対象地は鴻臚館展示館の北側に接し、鴻臚館関連遺構の存在が考えられるため、解体工事による新たな遺構の破壊を避けるとともに、鴻臚館遺構の遺存状態を確認することを目的として調査を行った。

調査概要　解体工事は概ね次のような手順で行われ、地下遺構に影響が考えられるすべての段階で、立会を行った。

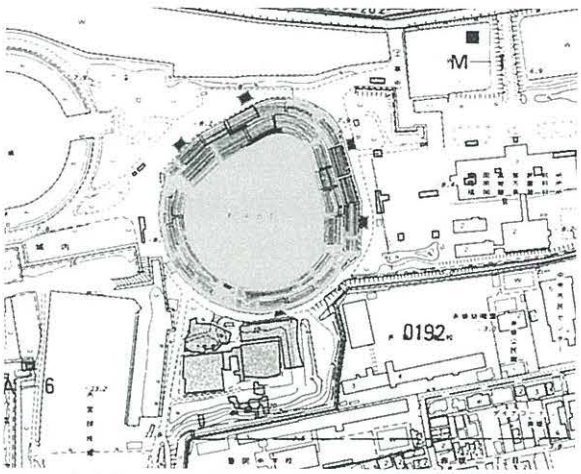
1）電気等切り替えにともなう地下ケーブルおよびハンドホール設置工事（球場外周道路）
2）内野スタンド撤去工事
3）外野スタンド基礎撤去工事
4）グランド基礎撤去工事
5）照明灯撤去工事
6）浄化槽撤去工事

このうち1）の段階では、鴻臚館展示館前から裁判所テニスコート北側までの間は、鴻臚館遺構の存在する可能性が高かったため、教育委員会側で先行してトレンチ調査を行った。

検出遺構　外周道路トレンチ調査1～3トレンチで、地山風化岩の削平面が見られ、特に3トレンチでは、一辺1m近い柱穴が検出されており、また1、2トレンチ間では原位置は留めていないものの、長径1.4m程の玄武岩礎石が出土した。

出土遺物　特記すべき遺物は検出されていないが、内野スタンド盛り土から福岡城関係瓦に混じって、鴻臚館関係の瓦が微量採集されたのみである。

まとめ　内野スタンドの内側部分は盛り土であり、球場建設時の削平を受けていないが、外側部分は地下構造を持つ構造物を作ったもので、照明灯基礎、浄化槽部分と同様に、地下遺構は壊されているものと思われる。



1. 調査地点の位置（60　舞鶴　0192　1：8000）

2. 平和台野球場内野スタンド解体立会（西から）

3. 電気ケーブル等移設によるトレンチ調査（東から）

9808 小田C遺跡第1次調査（KOC-1）

所　　在	西区小田字ミトリ、字木原地内	調査面積	898.1㎡
調査原因	農業集落排水処理施設建設	担当者	池田祐司
調査期間	1998.4.17～7.24	処　　置	記録保存

位置・環境　小田地区は、今津湾に東に開く谷底平野およびその周囲の丘陵部に位置する。小田C遺跡は柑子岳から北に伸びる丘陵の先端部に位置し、この平野の奥部に面する。調査地点は丘陵北斜面の浅い谷の緩斜面上である。調査前は畑として利用されている。1mほどの客土状の堆積と旧耕作土と考えられる暗灰色土を重機で除去し、灰褐色砂質土上面で遺構を検出した。

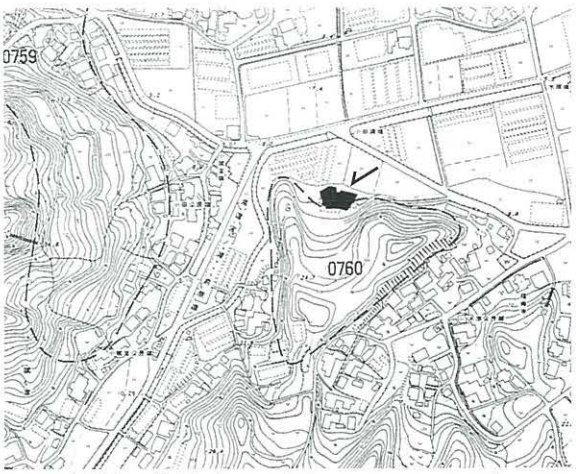
検出遺構　遺構は調査区北東側に建物の柱跡と考えられるピット群が、西側には土壙が集中する。土壙は長方形を呈すものが多く、長軸を東西方向に取るものが目立つ。また、埋土の中に焼土塊、炭を含むものが多く、なかには焼土塊溜まりになるものもある。側壁が焼けた焼土壙もみられる。

調査区北西部は、全体に焼土、炭、黄色粘土が広がり、遺構を覆っていた。土壙集中部の東側には石組みの井戸を検出した。径1.5m、深さ 3.3mを測る。この井戸の東側の調査区中央部には遺構がやや薄い部分がある。調査区中央には南北方向に3本の溝が走る。これら遺構のほとんどが15、16世紀におさまるものと考えられる。

出土遺物　遺物は、コンテナケース約30箱出土した。土師皿、擂鉢、土鍋、瓦質足釜、明代の染付、白磁、李朝青磁、古代須恵器、弥生中期土器、黒曜石等が出土し、量的には土師皿、土鍋が多く、足釜、李朝青磁が目立つ。また、銅銭が出土し、5個、7個とまとまって出土したものもある。

まとめ　遺構の性格としては、立地、遺構の密集の様子、遺物からみて一般の集落とは考え難い。土壙については墓壙の可能性が高いと思われる。

調査報告書は1999年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（137　小田　0760　1：8000）

2. 土師器皿溜まり（北から）

3. 井戸（北から）

9809 井尻Ｂ遺跡群第11次調査（IGB-11）

所在地	南区井尻１丁目13番地	調査面積	690㎡
調査原因	団地建替	担当者	田上勇一郎
調査期間	1998.4.23～6.30	処置	記録保存

位置・環境　調査地点は、御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地上に位置する井尻Ｂ遺跡の東端部で、現標高は11ｍ前後である。発掘区西側３分の１は現地表下80～100㎝で鳥栖ロームが検出された。

残り３分の２は暗茶褐色土と黒色土の遺物包含層である。

検出遺構　古代以降の溝３条、土壙２基、古墳時代前期の井戸１基、土壙１基、弥生時代の掘立柱建物１棟、井戸３基、溝２条、土壙16基が検出された。

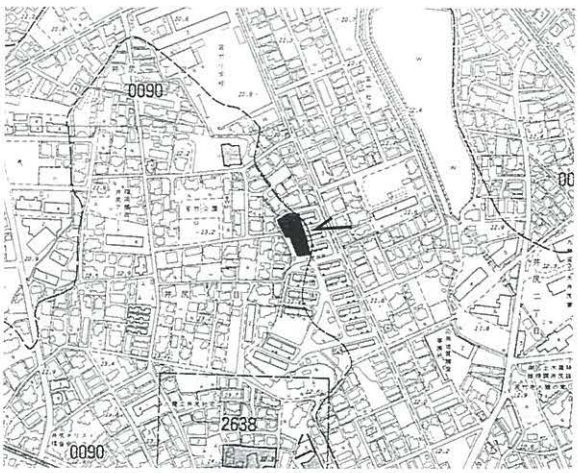
掘立柱建物は１間×２間が確認され、柱穴は一辺60㎝ほどの方形である。北側の柱列には登り口の梯子を立てたと思われる円形の柱穴が存在する。

出土遺物　コンテナケース120箱分の遺物が出土した。

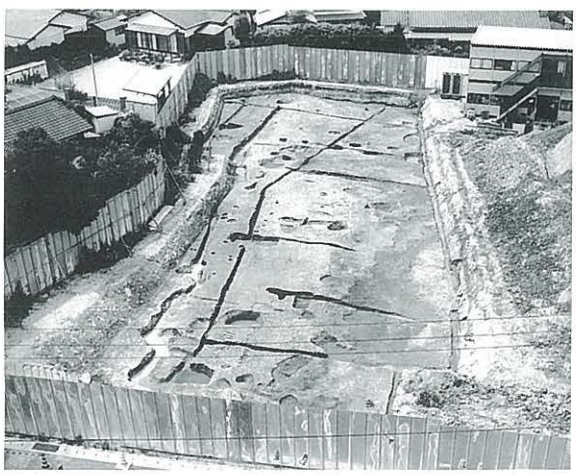
包含層上層の暗茶褐色土からは須恵器、瓦、土師器、中期から後期の弥生土器、中細銅矛の鋳型片が出土した。古代以前の包含層である。下層の黒色土からは中期から後期の弥生土器、石包丁、銅鏃等が出土した。弥生時代後期以前の包含層であるが、弥生時代中期の土器を多量に含んでいる。

まとめ　今回の調査では井尻Ｂ遺跡が所在する台地の東端が確認され、台地の縁辺まで弥生時代の生活痕跡が認められたという成果があった。また、大量の遺物の出土は、調査地点の内側である台地の中央部寄りに、弥生時代の大規模な集落が存在することを示すものとして重要である。

調査報告書は1999年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（25　井尻　090　1：8000）


2．調査区全景（南から）

3．井戸SE07（西から）

9810 立花寺Ｂ遺跡第５次調査（RGB-5）

所在地	博多区立花寺	調査面積	157㎡
調査原因	ポンプ場建設	担当者	瀧本正志
調査期間	1998.5.7～5.21	処置	記録保存

位置・環境　調査地は、御笠川中流域の東岸に位置し、古代～中世の集落遺跡である立花寺Ｂ遺跡の南西辺部にあたる。現況は造成された状況であったが、近年までは水稲耕作が行なわれていた。水田面の標高は10.2ｍを測る。

検出遺構　調査地の土層は、上層から埋土、旧耕作土、旧床土、暗青灰色砂質土、暗茶灰色粘性砂質土、茶灰色粘性砂質土である。遺構は旧耕作地表下0.7ｍの茶灰色粘性砂質土層上面で検出し、その上層の暗青灰色砂質土層は中世の陶磁器の破片を含んでいる。

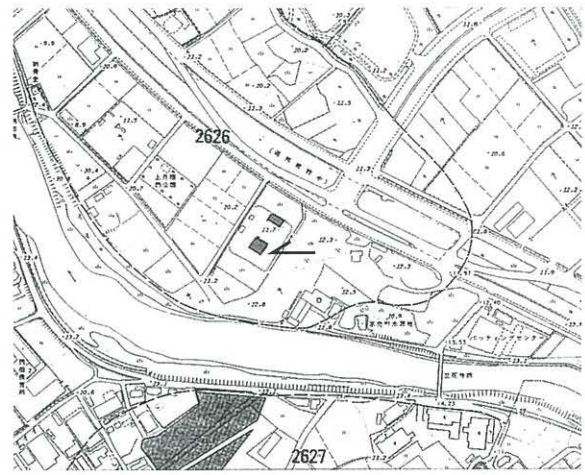
Ⅰ区調査区では、その大半が廃棄自動車の部品を棄てるために掘られた穴により遺構の存在を確認することができなかった。

Ⅱ区調査区では、南北方向に並ぶ杭列と１基の土壙を検出した。杭列は幅0.4ｍ、長さ11ｍにわたり直径５～６㎝の丸太を二列に打ち込んでいる。状況から水田に伴う施設と考えられる。土壙は直径1.2ｍの円形状の穴で、深さは0.9ｍを測る。穴には灰や植物を投げ込んだ状況が認められる。

出土遺物　遺物は、包含層及び土壙内から中世の生活雑器である椀や皿、石鍋等がコンテナに１箱ほど出土した。

まとめ　今回の調査により、調査地周辺における中世の貴重な成果を得ることができた。特に、調査地が立花寺Ｂ遺跡の中心を成す中世集落の範囲には含まれず、境界が国道３号線あたりに特定できたことは極めて有意義な成果と言える。ただし、調査範囲が限定されていたり、出土遺物の状況から調査地の南側には中世集落が展開する可能性を残す。

調査報告書は、2000年度以降に刊行の予定。



1．調査地点の位置（11 金隈　2626　1：8000）

2．第１調査区全景（北から）

3．井戸状遺構（東から）

9811 元岡遺跡群第５次調査（MOT-5）

所在地	西区大字元岡字瓜尾	調査面積	2,500㎡
調査原因	九州大学統合移転	担当者	松村道博
調査期間	1998.4.27～6.23	処置	記録保存

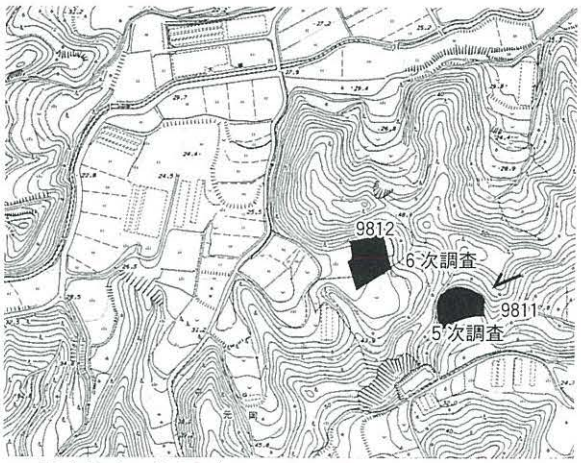
位置・環境　調査地点は、県道桜井太郎丸線の西側の櫛歯状に開析する舌状丘陵に南北をはさまれた丘陵裾部に位置し、標高30ｍを測る。

検出遺構　遺構の数は少ない。丘陵斜面を削り平坦に造成した整地面と土壙３基、自然流路及び古墳時代の包含層がある。

出土遺物　遺物は、土壙と包含層から須恵器、土師器がコンテナ１箱出土している。小破片ばかりであるが古墳時代後期のものであろう。

まとめ　集落の明瞭な遺構は検出できなかった。北側丘陵に位置する石ケ元古墳群からの二次堆積物と考えられる。

調査報告書は2002年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（139　桑原西部　2782　1：8000）

9812 元岡遺跡群第６次調査（MOT-6）

所在地	西区大字元岡字柿ヶ元	調査面積	2,880㎡
調査原因	九州大学統合移転	担当者	松村道博
調査期間	1998.6.30～8.28	処置	記録保存

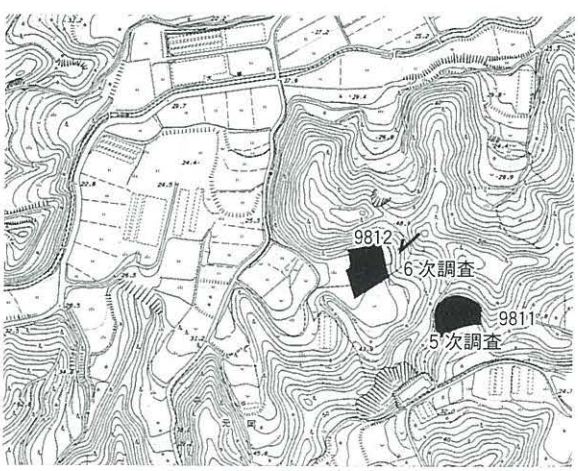
位置・環境　調査地点は、尾根に挟まれ、丘陵裾から谷部に位置し、第５次調査地点とは丁度尾根を挟んでその西側にあたる。現況は数枚の畑地となり標高22ｍ前後を測る。

検出遺構　畑地の開墾時の削平により遺構の遺存は良好ではなく遺構の数は少ない。丘陵斜面に沿って流れる自然流路と裾部に展開するピット群及び古墳時代後期の包含層である。

出土遺物　遺物は、土壙と包含層から須恵器、土師器がコンテナ１箱出土している。小破片ばかりであるが古墳時代後期のものであろう。

まとめ　ピットは小規模のものが確認できただけで建物を復元するまでにはいたらなかった。

調査報告書は2002年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（139　桑原西部　2782　1：8000）

9813 元岡遺跡群第７次調査（MOT-7）

所在地	西区大字元岡字池ノ浦	調査面積	7,500㎡
調査原因	九州大学統合移転に伴う事前調査	担当者	吉留秀敏
調査期間	1998.5.6.～1999.3.31	処置	記録保存

位置・環境　遺跡はJR筑肥線周船寺駅の北西3.4㎞に位置し、糸島半島東側基部にあたる。丘陵は花崗岩基盤であり、小河川により樹枝状に浸食されている。遺跡は北東に開口する谷の最奥部で発見された。この谷は幅60ｍ、奥行約200ｍほどの規模であり、遺跡の範囲は谷の開口部から奥へ150ｍまでである。標高は約20～40ｍである。

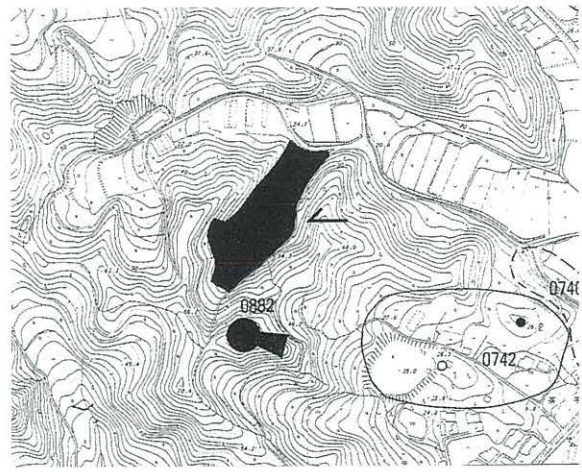
検出遺構　古墳時代後期の集落跡、飛鳥時代～平安時代中頃の大規模な造成、建物群、製鉄関連遺構、貯水遺構等がある。

出土遺物　出土遺物は古墳時代、古代を主体としながら旧石器、縄文、弥生、中近世の各時代資料も少量出土している。

旧石器時代：細石器、剥片
縄文時代：土器（押型文、阿高系）、石器（石斧、石鏃、剥片）
弥生時代：土器（須玖式）、石器（石斧、石包丁、石鏃、剥片）
古墳時代：土師器、須恵器、埴輪
古　　代：土師器（墨書土器含）、須恵器（硯、箆書土器含）、輸入陶磁器、鉄器（刀子、鏃、釘）、石製品（紡錘車、石鍋、権、砥石）、木器（木簡、皿、槽、曲物、箸状、弓状、火切臼、・棒、斎串、鳥形、建築材等）、装身具（玉、横櫛）、製鉄関連遺物（鉄塊、鉄滓、炉壁、羽口等）

以上、出土遺物の合計は約500箱である。

まとめ　「壬辰年」銘を含む７世紀末から８世紀前半の木簡３点が出土し、同時期の遺構群と合わせてこの時期に公的施設として利用されたと考えられる。本調査の成果は鉄生産に関連する初期の律令制地方行政機構の解明に意義をもつものと考えられる。



1．調査地点の位置（129 桑原・130 太郎丸・139 桑原西部・140 元岡　1：8000）

2．調査区全景（南東から）

3．木簡

9814 南八幡遺跡第９次調査（MHM-9）

所在地	博多区寿町二丁目9-30	調査面積	1,752㎡
調査原因	駅舎建替	担当者	小林義彦
調査期間	1998.5.14～9.10	処置	記録保存

位置・環境　調査地点は福岡市の最南端に位置し、東西に延びる低丘陵の西端に立地する。調査区の北東側には浅い谷が北から湾入し、南側は東西方向の谷にむかって緩やかに傾斜している。

検出遺構　現況は宅地。駅舎建設時の削平を受けているが弥生時代と奈良時代の集落跡を検出した。

弥生時代；竪穴住居跡８棟、土壙２基掘立柱建物跡11棟

奈良時代；竪穴住居跡８棟、土壙２基、井戸跡１基

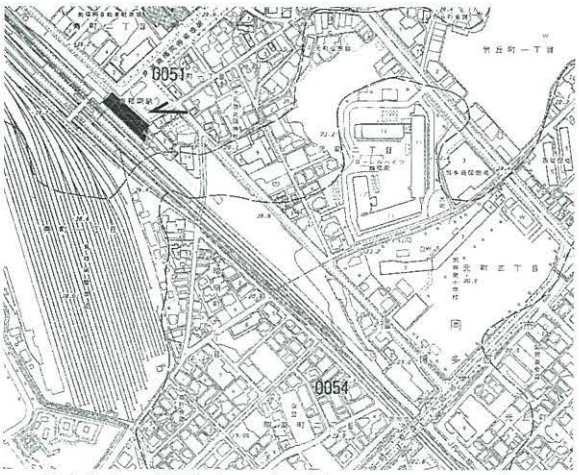
弥生時代の集落跡は、調査区中央の丘陵尾根から南側緩斜面にかけて占地し、掘立柱建物跡が竪穴住居跡に先行して造営されている。竪穴住居跡は、一辺が４～５ｍの方形プランで、主柱穴は２本柱である。壁下には「コ」字形や短冊形のベット状遺構が造られている。この内５号住居跡は、東側に40㎝、西側に30㎝の幅で拡幅が行われ、南壁下の土壙からは煙道状の掘り込みがのびている。掘立柱建物跡は36号建物跡が１間×１間のほかは２間×１間の規模で、柱筋が東西軸と南北軸のものがあり、２時期に亘って存在していたものと考えられる。

一方、奈良時代の集落跡は、南側の緩斜面上に重複して占地している。竪穴住居跡は一辺が2.5～４ｍの方形プランで、壁の中央には竈が付設している。竈は北壁か東壁にあり、時期的な差異を示しているものと考えられる。

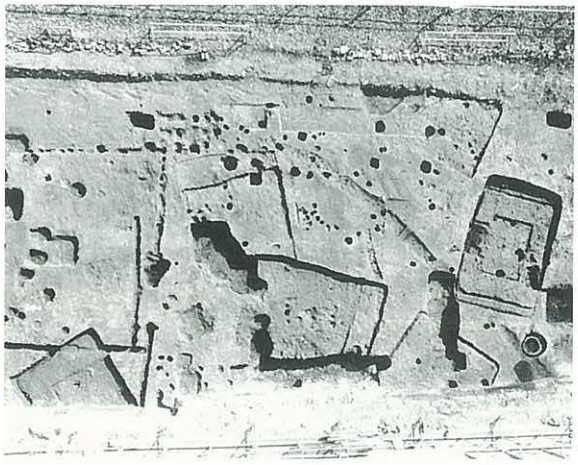
出土遺物　竪穴住居跡や土壙からは、弥生式土器や土師器・須恵器と石器・鉄器がコンテナケース33箱出土した。また、弥生時代の竪穴住居跡からはガラス小玉や管玉と辰砂片が出土した。

まとめ　弥生時代後期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡の検出で遺跡群内での集落域の広がりが明らかになった。辰砂片は市内で３例目である。

調査報告書は2000年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（12　南八幡　0051　1：8000）


2．１～６号住居跡全景（東から）

3．16・19・21・22住居跡群、24号土壙全景（南から）

9815 比恵甕棺遺跡第１次調査（HEM-1）

所在地	博多区山王2丁目2-12	調査面積	198㎡
調査原因	事務所・倉庫建設	担当者	佐藤一郎
調査期間	1998.5.22～6.22	処置	記録保存

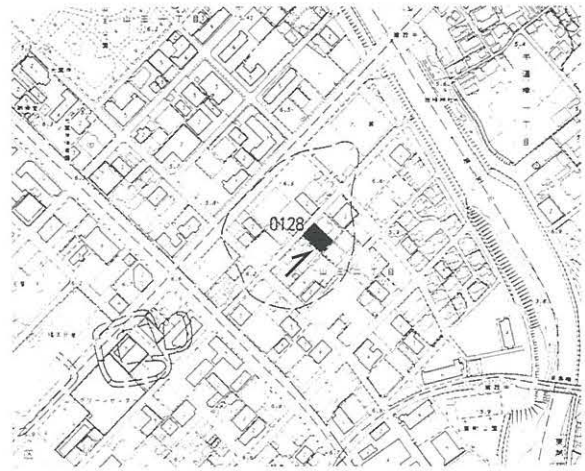
位置・環境　比恵甕棺遺跡は福岡平野のはぼ中央を流れる那珂川と御笠川に挟まれた微高台地上に立地する。調査地区は比恵甕棺遺跡の中央部に位置する。既存の建物の基礎による撹乱が著しく、現地表下30～60㎝のローム層下部で遺構を検出した。標高2.9ｍを測る。

検出遺構　15世紀後半～16世紀前半の溝状遺構２条、14世紀後半～15世紀前半の井戸１基、地下式壙１基、12世紀後半～13世紀前半の土壙１基、６世紀後半の柱穴数個である。

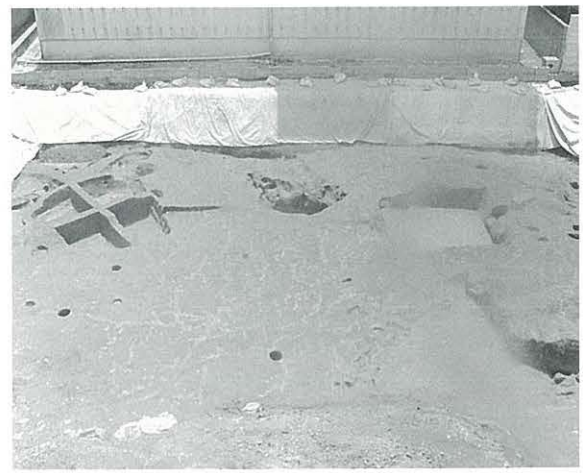
出土遺物　井戸からは完形の青磁椀１、猿の姿を描いた護符状の木製品が出土した。その他、各時期の遺構から弥生土器片（中期中～後半）が出土しており、その中には甕棺片もみられる。

まとめ　調査地区周辺からは甕棺の破片が多数表探されていることから、本調査地を含む径 120ｍの高台の範囲は比恵甕棺遺跡として登録されていた。今回の調査では後世の削平が著しいこともあって、甕棺片の出土はあったが、甕棺墓は検出されなかった。地形の改変を免れた遺跡周辺部に残存している可能性がある。井戸から祭祀に関係する遺物の出土をみたが、戦国期の文書にみえる比恵村屋敷、あるいは地名が由来する比叡山から勧進した山王、日吉神社に関連するものであろうか。

調査報告書は1999年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（37　東光寺　0128　1：8000）



2．調査区全景（北西から）

3．井戸（北西から）

9816 箱崎遺跡群第15次調査（HKZ-15）

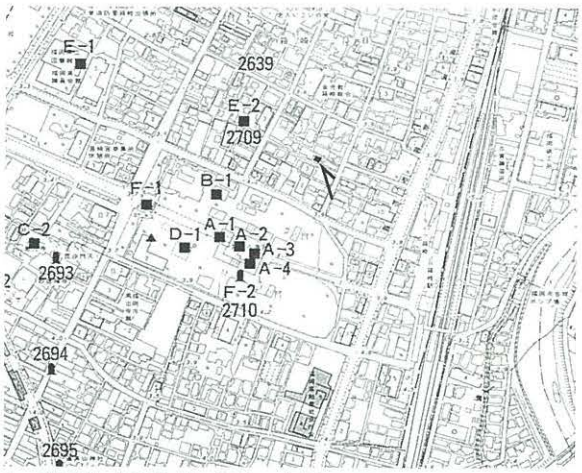
所在地	東区箱崎１丁目2615の一部	調査面積	36.3㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	大庭康時
調査期間	1998.5.25～1998.6.5	処置	記録保存

位置・環境　博多湾を南北にのびる箱崎砂丘の頂部近くに当たる。すぐ南側は、10世紀前半に創建されたという箱崎八幡宮であり、宇美川の河口部に開かれたと推測される箱崎津のすぐ西側に位置する。

検出遺構　遺構は、柱穴・土壙・溝等で、地山である砂丘上面で検出した。溝は、調査区をほぼ南北方向に縦貫する。土壙では、土師器の杯・皿を大量に廃棄したかわらけ廃棄土壙が１基検出された。柱穴の密度は比較的高いが、小範囲の調査の為、掘立柱建物等は復元できなかった。

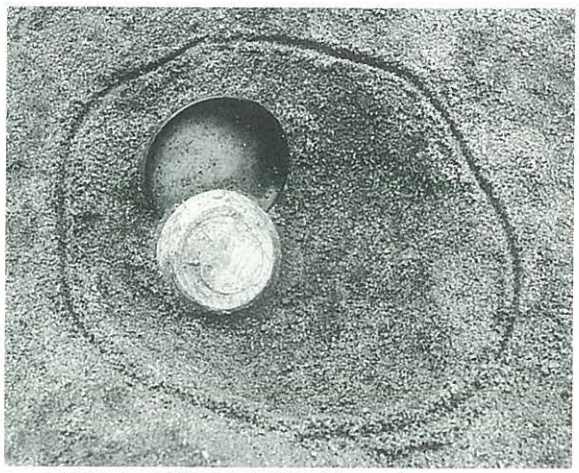
出土遺物　土師器・輸入陶磁器等が、コンテナケース８箱分出土した。楠葉型瓦器椀の出土が目立ったほか、和泉型瓦器椀片も出土している。遺物から見た遺構の時期は、11世紀後半から12世紀代である。なお、基盤砂層中から古墳時代の土師器高杯脚・蛸壷が出土した。流れ込み遺物と判断される。

まとめ　中世初頭の箱崎津の町場を検出したものと思われる。特に畿内型の瓦器が出土している点は、注目される。なお、地山砂層の上面から20㎝程下の砂層中から、円形に焼けた部分が見つかった。人為的な遺構であることは確実で、遺物を伴わないため時期比定はできないが、今後の周辺の調査の課題となろう。



1. 調査地点の位置（034　吉塚　2639　1：8000）

2. 調査区全景（南から）


3. 土師器皿・瓦器皿出土状況（南から）

9817 史跡元寇防塁第７次調査（GKB-7）

所在地	西区小戸５丁目地内	調査面積	110㎡
調査原因	保存整備の事前確認調査	担当者	池崎譲二
調査期間	1998.6.5～8.24	処置	埋め戻し保存

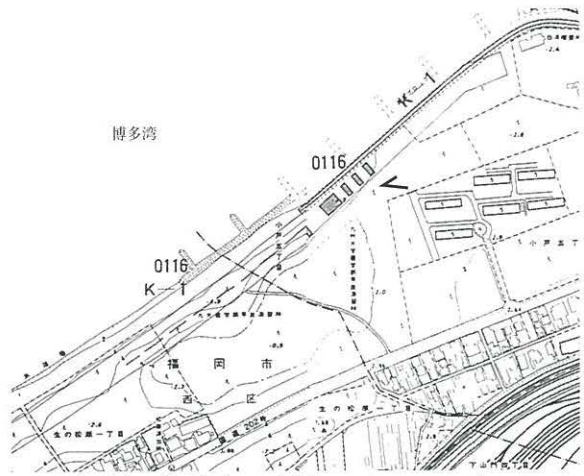
位置・環境　対象地は、早良平野の北端で、長柄川の左岸に形成された２列の砂丘のうち今津湾に北面するもっとも新しい砂丘上に立地する。現況は防風保安林の松林となっており、うち整備されフェンスに囲まれた部分を調査対象とした。この地区の元寇防塁については昭和43（1968）年３月、福岡市教育委員会によってトレンチ調査による発掘が行なわれているが、今回の調査は石積みおよび控えの構造を確認し、保存整備のための基礎的なデータを収集するために行なった。

検出遺構　昭和43年調査時の３本のトレンチを検出し、このトレンチを再掘削をし、防塁の構造を確認した。新期箱崎砂層と呼ばれる地山砂丘上に防塁の構造物は造られているが、北面にのみ石積みをもち、南側は砂と花崗岩由来の風化粘土を互層にして叩きしめた版築状の構造となっている。石積みは地山をわずかに掘り下げて積み上げ、その前面はほぼ垂直に立ち、基底面の幅は約1.3ｍとなっている。版築部分は基底面幅が約３ｍで、南側に30～35°の傾斜で落ち込み、後背地は防塁基底面より相当低くなっている。

石積み、版築部分をあわせると防塁基底面幅は4.3ｍとなる。後背斜面には海からの風成砂が整然とした層理をなして堆積し、防塁が機能しなくなって以降砂に埋没していく過程が観察できる。このため土層の最も良好な状態であったトレンチについては土層の剥取りを行なった。

出土遺物　土師器皿、中国陶磁器の微細な破片がみられたのみである。

まとめ　生ノ松原地区元寇防壁が他地区と構造の違いがあることを再確認したとともに、「蒙古襲来絵詞」に描かれた同地区の状況から、石積み南面に一段低い「犬走り」があることが想定され復元整備にあたっての手がかりが得られた。



1. 調査地点の位置（89　姪浜　116　1：8000）

2. 調査区全景（東から）

3. 防塁土層断面（西から）

9818 那珂遺跡第66次調査（NAK-66）

所在地	博多区東光寺１丁目263-2	調査面積	80㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	瀧本正志
調査期間	1998.6.8～6.25	処置	記録保存

位置・環境　調査地は、福岡市の東南部、春日丘陵が博多湾方向へ延びるに従って低丘陵化した台地上に展開する那珂遺跡群の東北辺に位置する。

調査地の西 250ｍには剣塚北古墳、東光寺剣塚古墳、南400ｍには那珂八幡古墳がある。

これまでの調査から、調査地が丘陵の縁部に位置することが判明しており、現況においても緩やかに東方向に下る地形を呈している。調査地の標高は８ｍを測る。

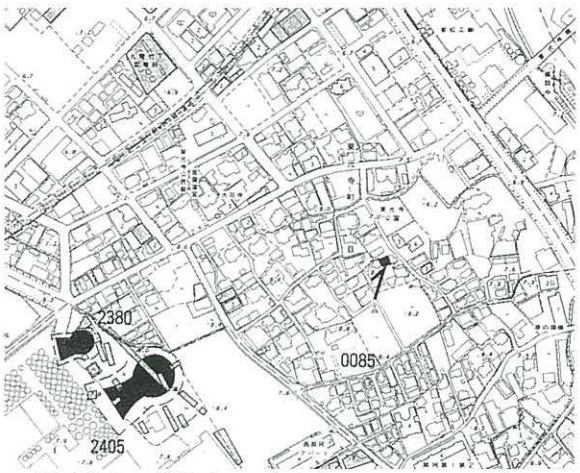
検出遺構　遺構は、地表下0.5ｍの暗黄褐色土（鳥栖ローム）面で検出した結果、古墳時代の竪穴住居跡、溝４条、小穴を発見した。住居跡は方 6.3ｍ以上を測り、西辺の壁際にはベッドと呼ばれる幅1.2ｍの高台の平坦面を持つ。床面中央には２本柱の痕跡を遺す。

出土遺物　出土遺物は、その大半が地山面である暗黄褐色土上面に厚く堆積した黒褐色土の遺物包含層から出土している。

出土遺物の年代は、弥生時代～飛鳥時代と幅広いが、大半は６世紀中期～末を示している。

まとめ　これまで調査地周辺は台地の縁部に位直することから削平が激しくて遺構が良好な状態で残存しているとは考えられていなかった。今回の調査により調査地周辺において古代集落が良好な状態で残存していることは明らかであることから、今後の調査では集落の範囲、規模等を明らかにする必要がある。

調査報告書は、2001年以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（37　東光寺　0085　1：8000）

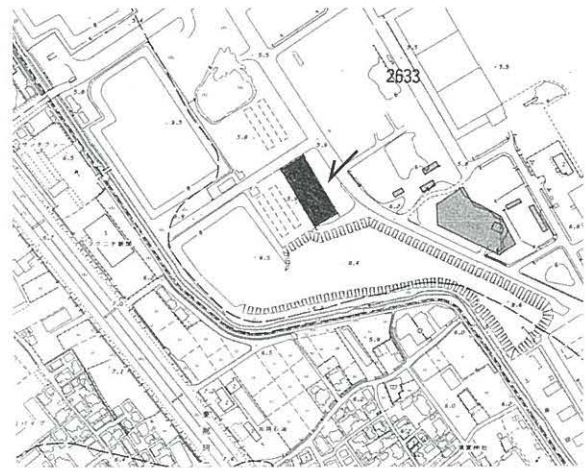
2. 調査区北半部検出状況（東から）

3. 調査区南半部検出状況（北から）

9819 雀居遺跡第13次（SAS-13）

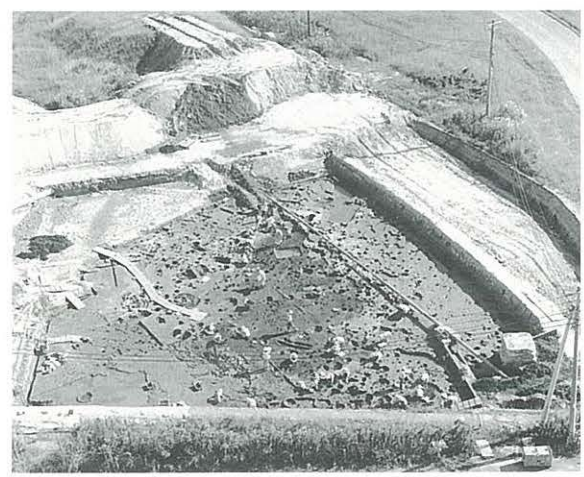
所在地	博多区雀居地内	調査面積	1,700㎡
調査原因	福岡国際空港西側整備	担当者	力武卓治
調査期間	980415～990325	処置	記録保存

位置・環境　国際線ターミナル建設に先立って平成３年から発掘調査を実施してきた。この一帯は、博多湾に向かって北流する御笠川の沖積作用で形成された低平地で、筵のような長方形の水田が見事に並らぴ、その景観が「むしろだ」という地名の由来になったと言われている。周辺には稲作発祥の地である板付遺跡、共同墓地の金隈遺跡等有名な遺跡が分布している。平成10年度の調査区は、平成８年度（10次）、９年度（12次）調査区の東北側に当たっている。



1．調査地点の位置（23　雀居　2633　1：8000）

検出遺構　基本的な土層は、現地表より約1.5ｍ付近に厚く砂層で覆われた奈良～平安時代の水田跡があり、これをⅠ面とした。水田耕作土の下に約50㎝の厚さで黒色粘質土があり、これをⅡ面とした。弥生～古墳時代の遺構・遺物が包蔵されている。さらに下層には、雀居遺跡の基盤地層である青灰色粘質土がある。Ⅰ～Ⅲ面での発掘調査によって表のような遺構・遺物を検出・確認した。


2．調査区全景（北西から）

まとめ　今回も馬鐸や青銅製ヤリガンナ等貴重な遺物が発見され、マスコミだけでなく市民の高い関心を呼んだ。また弥生時代中期前半と思われる掘立柱建物跡を10棟検出したが、あらためて本遺跡が、この地域の拠点的な大集落であることがわかった事は大きな成果である。

表　雀居遺跡第13次調査　検出遺構及び出土遺物一覧表

遺構面	時代	主な遺構	数量	主な遺物
Ⅰ	平安	水田跡	10枚＋α	曲物　木皿　種子
Ⅱ	古墳	土器溜まり	１ヶ所	土師器　ヤリガンナ　馬鐸
		土壙	10基	土師器
		井戸	４基	木製品　炭化米　土師器
		自然流路	１ヶ所	土師器建築材
Ⅲ	弥生	掘立柱建物	10棟	礎板
		家畜小屋	４基	弥生土器
		甕棺墓	４基	成人人骨
		土壙墓	１基	成人人骨　ガラス玉
		土壙	25基	獣骨　鹿角　木製農具

9820 東那珂遺跡第４次調査（HGN-4）

所在地	博多区東那珂２丁目地内	調査面積	384.6㎡
調査原因	道路新設	担当者	大庭康時
調査期間	1998.6.8～8.20	処置	記録保存

位置・環境　福岡平野のほぼ中央部、御笠川東岸の沖積地上に位置する。現地表下には厚い盛り土がなされており、約３メートル程掘り下げて、遺物包含層の上面に到達した。20～40㎝程の包含層を除去すると、青灰色粘土を基盤として遺構が確認できる。この基盤粘土はシルト質で、部分的に砂礫部分が入り込む等、水性堆積層と知れる。

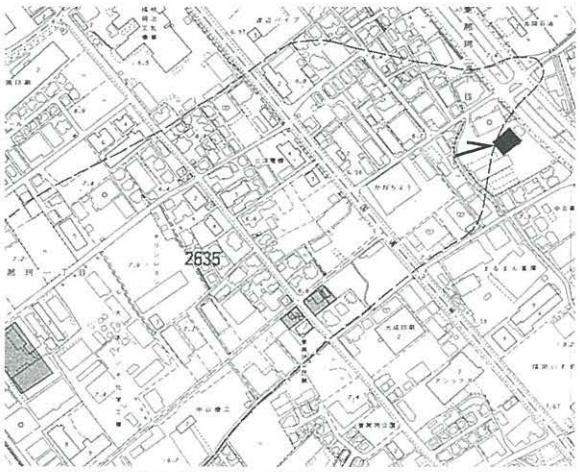
検出遺構　遺構密度は極めて薄いが、柱穴・井戸・土壙・溝を検出した。柱穴には柱根をとどめるものがあった。井戸は２基を調査した。どちらも素掘りで、弥生時代中期後半のものと思われる。

土壙は、縄文時代晩期のものが２基、弥生時代中期後半が１基、その他は時期を特定することとができなかった。

出土遺物　縄文時代晩期土器・弥生時代土器・古墳時代土師器・須恵器がコンテナケース64箱、石器・石製品が１箱出土した。大部分は包含層からのの出土である。

まとめ　発掘調査開始当初は沖積低地であることから水田遺跡を想定していたが、結局、集落遺跡のの一端を検出したものと思われる。調査区南側付近では全く遺構は見られず、遺跡としては北東側に展開するものと推定される。なお、南側の一部で、包含層の中位において、畦畔と考えられる高まりを確認した。７世紀から８世紀にかけて水田化したものと見られる。

調査報告書は2000年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（23　雀居　2635　1：8000）

2. 調査区全景（南西から）

3. 縄文時代晩期土壙（南から）

9821 香椎A遺跡第3次調査（KSA-3）

所在地	東区香椎3丁目3番1号	調査面積	493㎡
調査原因	病院建設	担当者	本田浩二郎
調査期間	1998.7.1～8.6	処置	記録保存

位置・環境　香椎A遺跡は、福岡平野の東部に位置し香椎丘陵を刻む小河川の谷底平野と海岸部の小沖積平野、砂丘性の小規模低地によって形成された香椎平野の南部に広がる。第3次調査地点は遺跡群の占地する丘陵の北端部に位置し、現地表面の標高は17.5～18.5mを測る。

第3次調査地点の現状は病院用地であり過去に三段に造成され、北側に向かって緩やかに傾斜する丘陵端部である。調査は三段の平坦面の上側二段について行った。上側をA区、下側をB区とし試掘成果を参考に表土掘削を行った。

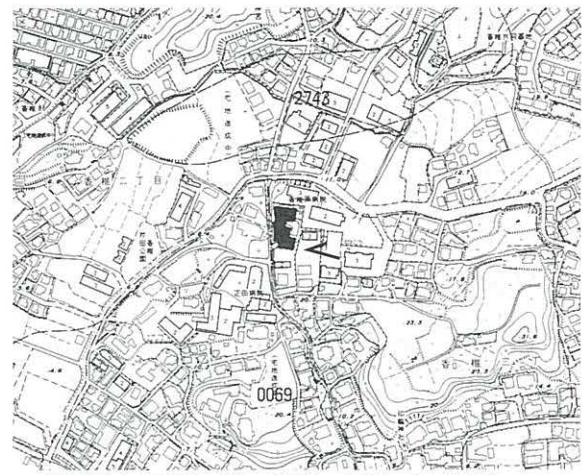
A区では一部が撹乱されていたが、多数の柱穴・土壙等が確認された。B区は過去の造成時に大幅に掘削され、溝の底部等が確認されただけであった。これまで香椎A遺跡では古代以前に遡る遺構は確認されていなかったが、今回の調査では弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての小児用甕棺遺構が検出された。

出土遺物　今回の調査では古式土師器・土師器・須恵器・瓦器・貿易陶磁器・石器等コンテナ3箱が出土した。いずれの土器も小片で磨耗しており、遺存状態はあまり良好ではない。

まとめ　今回の第3次調査では、弥生時代終末期から中世にかけての遺構・遺物を検出した。とくに小児用甕棺の出土は、当時から周辺が生活空間として利用されていたことを示す資料として注目される。

香椎A遺跡では、遺跡の占地する丘陵縁辺部でしか調査が行われておらず、今後の調査で遺跡の全体的な性格が判明されることに期待したい。

なお、調査報告書は1999年度に刊行する予定である。



1. 調査地点の位置（17　浜男　0069　1：8000）

2. 調査区南側全景（北から）

3. 調査区北側全景（西から）

9822 博多遺跡群第109次調査（HKT-109）

所 在 地　博多区博多駅前１丁目155-2
調査原因　ビル建設
調査期間　1998.7.9～11.30
調査面積　301.1㎡（３面）
担 当 者　榎本義嗣
処　　置　記録保存

位置・環境　博多遺跡群は博多湾岸中央部の御笠川と那珂川に挟まれた古砂丘上に立地する。調査区は３列から形成される砂丘のうち、最も内陸側の砂丘列の尾根線上から南東側緩斜面上に位置している。

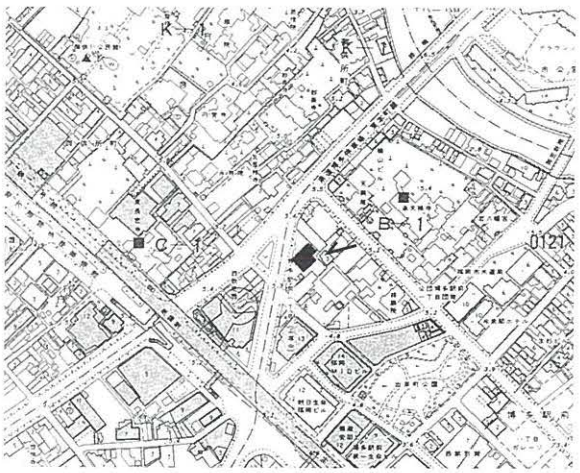
検出遺構　３面の調査を実施した。まず、やや砂質がかった黒褐色土上面を第１面とし、15～16世紀を主体とする遺構を確認した。

主な遺構に井戸、溝、土壙等がある。15世紀後半の溝は幅約２ｍ、深さ 1.3ｍを測り、断面「Ｖ」字形を呈する。平面「コ」字形に石積みを行う土壙が１基認められた。第２面は黒褐色土下層の茶褐色砂質土上面に設定し、11～13世紀の井戸、土壙、木棺墓等を検出した。井戸は12世紀後半代を主体とし、10数基が近接して重複する。数基には井筒の下層に据えた木桶が遺存していた。木棺墓には13世紀中頃の白磁椀、青磁皿が計６個体副葬されていた。第３面の調査は黄褐色砂層（基盤層）上面で実施し、奈良時代の土壙、ピット、古墳時代の墳墓を確認した。墳墓としたものは、墳丘は削平を受け遺存状況の悪い周溝のみが残存するが、前方後円墳と推測されるくびれ部を確認し、５世紀後半代の円筒埴輪片が少量出土した。

出土遺物　コンテナ数にして110箱が出土した。土師器、埴輪、須恵器、瓦質土器、国産陶器、輸入陶磁器、瓦、金属器等がある。

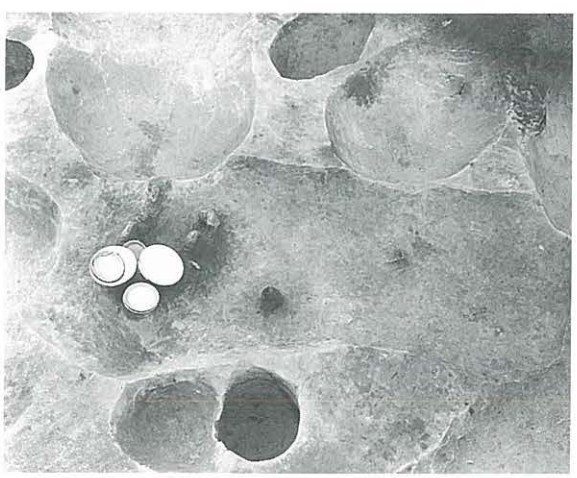
まとめ　当該地は古図等から謝国明が仁治３（1242）年に創建した承天寺域であった可能性が高く、第１面の前述した溝は寺域の区画に関連するものであろう。前方後円墳は調査区西側の第28次調査で確認されている「博多１号墳」に時期的に後続する古墳であると考えられる。

調査報告書は1999年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（49 天神・36 博多駅　0121　1：8000）

2. 調査区南西部第２面全景（東から）


3. 050木棺墓（南西から）

9823 次郎丸遺跡群第4次調査（JRM-4）

所在地　早良区次郎丸4丁目386-1
調査原瞬　宅地造成
調査期間　1998.6.30～7.10
調査面積　104.5㎡
担当者　大塚紀宜
処置　記録保存

位置・環境　室見川中流東岸の低位段丘上に位置する。現地の標高は11mを測り、周囲よりもわずかに高い微高地上に位置している。周囲はこれまでに外環状道路建設に伴う調査を始めとして3次の調査を行っており、本次調査区の北西側を中心に弥生時代中期初頭～中世までの遺構遺物をこれまでに確認している。

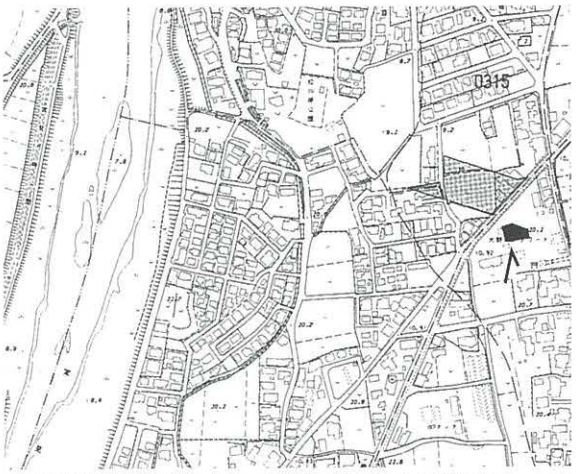
検出遺構　遺構は現地表面から120cm地下の、褐色粘質シルト層上面で検出される。遺構面は検出段階ではほぼ平坦面を為し、検出面以上はほとんどが客土層、撹乱層で、包含層はほとんど遺存しない。検出された遺構の種類は溝、柱穴、土壙で、遺構覆土は暗褐色粘質シルトが大半を占める。柱穴の配置から2棟の掘立柱建物が復元可能である。以下の遺構を含め、遺構番号は柱穴、溝、土壙を含めた各検出遺構ごとに付けており、さらに建物単位で遺構番号を加えている。

SB-94　調査区南西側に位置する。調査区内で梁行2間（3.9m）、桁行3間（6.5m）が確認されている。南西側に桁行がさらに延びる可能性もある。柱穴は直径が30～50cmで、現存する深さは35cm前後である。梁行、桁行ともに各柱間の間隔が等しく、整った配置である。

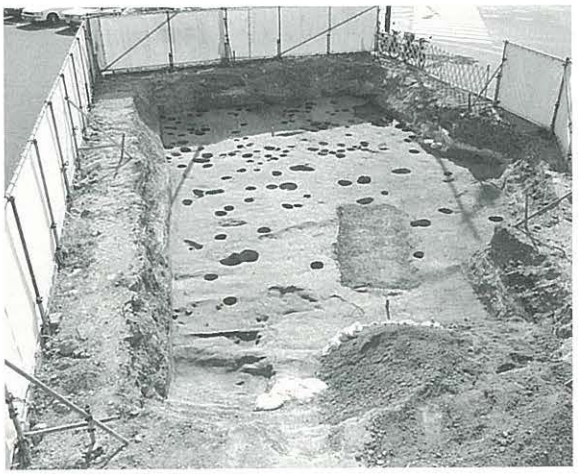
SB-95　調査区南西側に位置する。調査区内で梁行2間（3.2m）、桁行は2間（3.8m）を確認したが、桁行はさらに南西に延びる可能性が高い。柱穴の直径は30～40cmで、SB-01よりも若干細い。またSB-01との前後関係も、切り合い等の確証が無いため不明である。

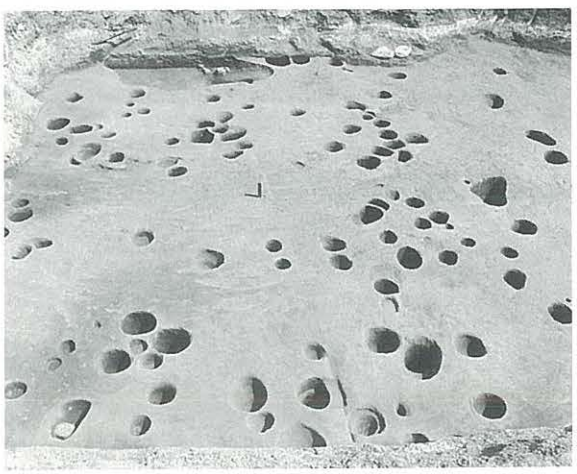
SD-89　調査区東側に位置する。調査区内で全長3.3mを確認し、南側にさらに延びる。断面形はごく浅い皿状を呈する。遺構南東側でSD-91を切る。遺構内からは土師器小片が出土している。

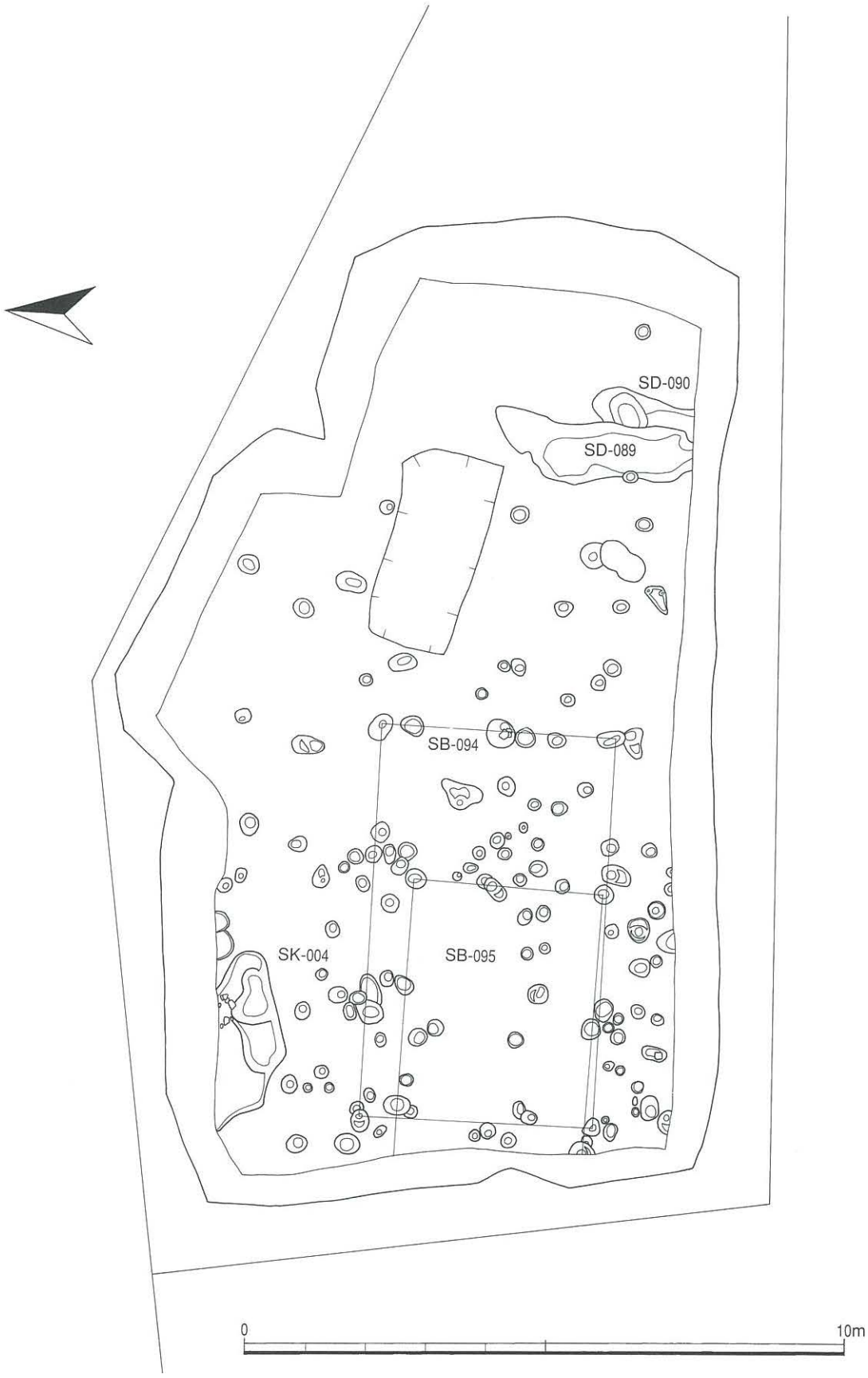
SD-90　調査区東側に位置する。調査区内で全長1.7mを確認し、南側にさらに延びる。南西側半分をSD-89に切られ、半分のみ遺存する。断面はごく浅く、遺構全体がすでに大きく削平されていると見られる。



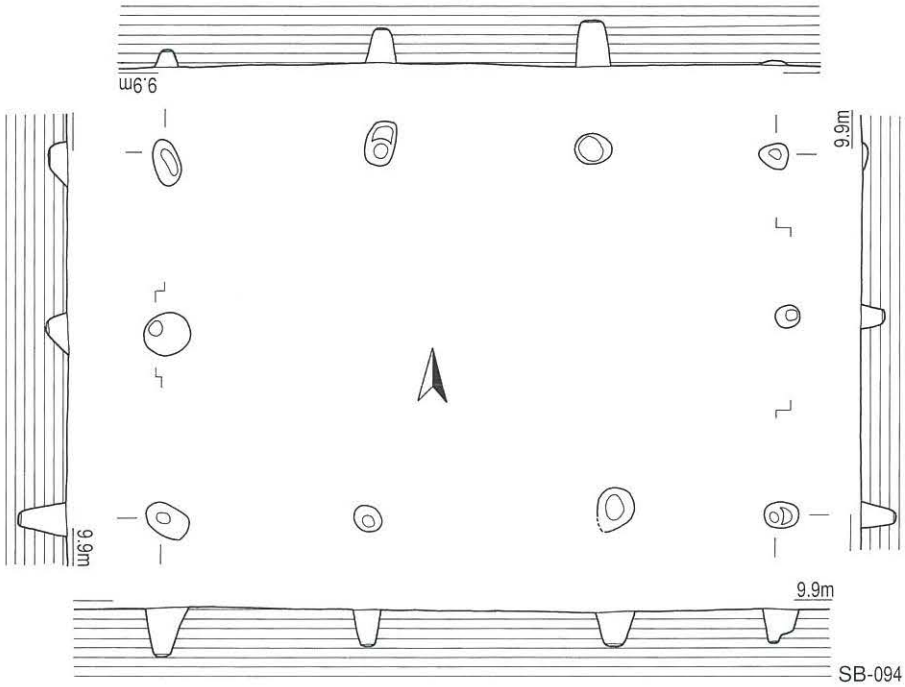
1. 調査地点の位置（92　戸切　0315　1：8000）

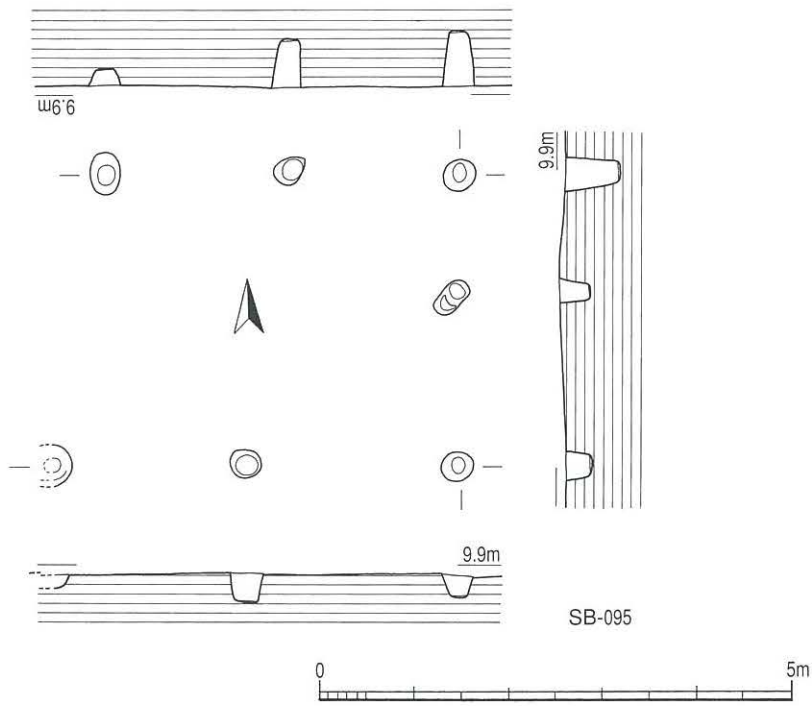

2. 調査区全景（東から）


3. 調査区西側柱穴群（南から）



4．遺構平面図（1：100）

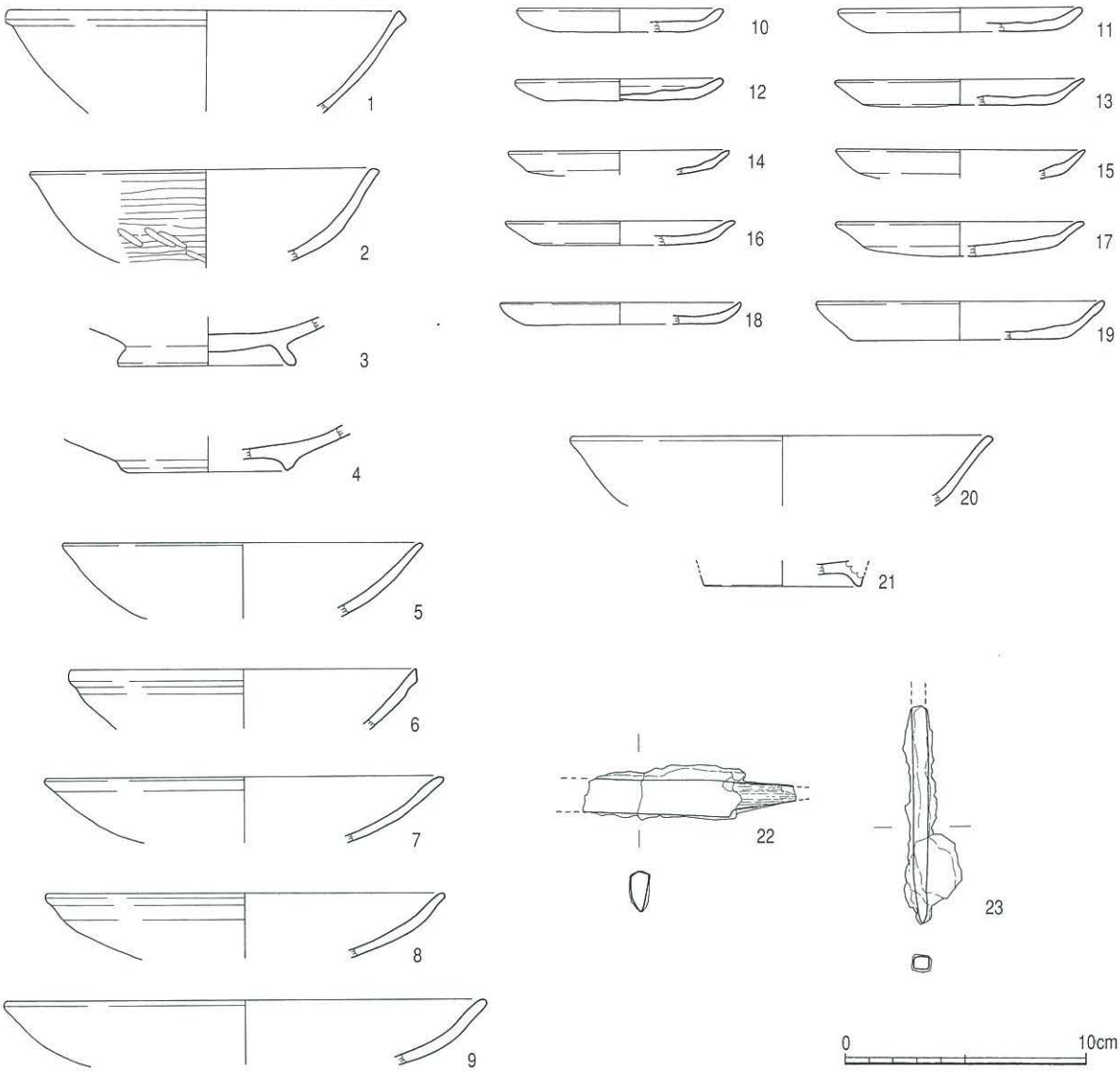




5. SB094・095遺構実測図（1：80）

SK-04　調査区北東側に位置する、不定形の土壙である。遺構北側半分は調査区外に及び、遺構全体の形は不明瞭である。遺構床面は凹凸が目立ち、半円形の石組み状のものが見られる。遺構の性格等は不明である。

このほかに、掘立柱建物の形に沿った柱穴列が認められるが、柱間が２～３ｍと広く、柵列とし



6. 出土遺物実測図（1：3）

ては一部不自然となる。これらの柱穴列は調査区外まで広がる建物の一部である可能性もある。

出土遺物　遺物は柱穴、溝、土壙を始め、表土からも出土しており、総量でパンケース１箱相当である。遺物の時期は中世を中心とし、ごく少量で縄文土器、弥生土器を認める。遺物の大部分は小片で磨滅しており、実測可能な遺物はごく一部である。

１は白磁椀。口線内面に釉薬が厚く垂れた部位がある。口縁は玉縁形に作る。２～４は黒色土器。２は椀で外面は横方向のミガキ、内面はナデ。３は椀底部で高台が明瞭になる。４は椀底部で低い高台をもつ。５～20は土師器。５～８は杯で、いずれも口縁部が外に開き、器高は低い。９～18は小皿。いずれも底部糸切り。完形のものはない。19、20は椀。15は口縁部で口縁は外側に開く。21は底部で、高台は低く貼り付けられる。22は刀子で、柄部分に木質が残る。刃部先端を欠損する。23は釘。錆の付着が著しい。断面形は不整四角形を呈する。

まとめ　本次調査区は北隣の第２次調査で検出された掘立柱建物群に関連すると考えられる建物を検出している。今回検出した掘立柱建物は第２次調査区南側に位置する掘立柱建物群と配置、方向が揃っており、一連の施設であったと考えられる。遺物による時期比定もほぼ同時代のものとみられ、この付近一帯に12～13世紀に当地で開発が進み、整然とした建物群や集落がが存在していたことを示す資料となるものである。

9824 麦野A遺跡群第6次調査（MGA-6）

所在地	博多区麦野3丁目11-29	調査面積	244㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	田上勇一郎
調査期間	1998.7.1～7.16	処置	記録保存

位置・環境　麦野A遺跡は、御笠川西側の南北にのびた台地上に立地する。調査地点は遺跡のほぼ中央部で、標高は15.5mと最も高いところである。30～50cm程、盛り土を下げると鳥栖ロームが現れ、遺構が検出できる。

検出遺構　古代から中世の土壙9基、溝3条、竪穴住居1軒、井戸1基、ピット多数を検出した。ピットは木の根によると思われるものが大多数である。

土壙1基と溝2条が中世後期の遺構である。溝は大溝と小溝が平行している。方向は発掘区の西側にある、台地を縦断する現行の道路と同じである。幅3m、深さ80cmの大溝はこの道路に接しており、現行道路が中世まで遡る可能性がある。

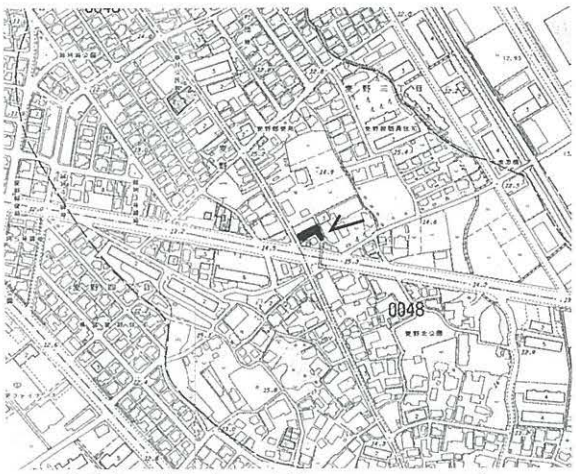
溝1条と土壙1基が10世紀代の遺構である。井戸、竪穴住居は奈良時代のもので、その他の土壙もこの時期のものが多いと思われる。竪穴住居は3×3.7mの長方形で、竈や柱穴は確認されなかった。検出面から床までわずかであり、かなり削平を受けているようである。

出土遺物　コンテナケース1箱分の遺物が出土した。

中世の遺物は土師器の杯・皿、土鍋、白磁椀等、古代の遺物は土師器、須恵器、越州窯系青磁椀、黒色土器、砥石等がある。

まとめ　これまでの麦野A遺跡の調査と同様に、古代と中世後期の生活痕跡が認められた。

調査報告書は2000年度以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（12　麦野　0048　1：8000）

2. 調査区東側全景（北から）

3. 調査区西側全景（東から）

9825 蓮町遺跡第２次調査（HMC-2）

所在地	西区大字周船寺316-2他	調査面積	108㎡
調査要因	鉄道拡幅	担当者	池田祐司
調査期間	1998.8.19～8.25	処置	記録保存

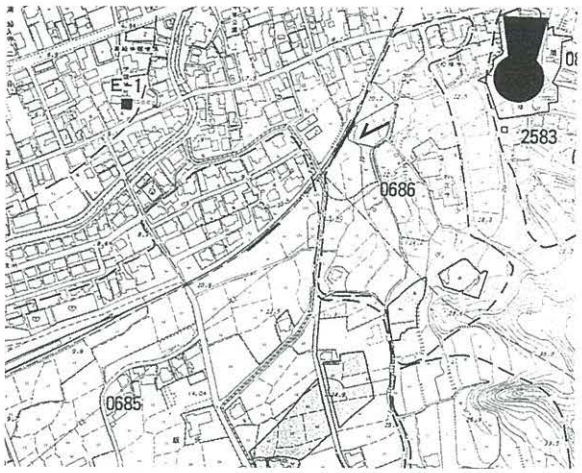
位置・環境　蓮町遺跡は高祖山から北に伸びる丘陵の西側斜面に位置する。調査地点は丘陵の先端部近くにあたり、飯氏川が流れる谷との比高差は小さい。丘陵を横断して幅約３ｍ、長さ36ｍにわたって調査を行った。現耕作土を除去すると、黄茶褐色土、茶褐色砂質土の山土となり、この上面で遺構を検出した。

検出遺構　遺構は、現代の溝の他は約50個のピットである。

土師皿、古墳時代後期の遺物が出土した

まとめ　ピットがあり、大きく２時期に分かれるものと考えられるが、まとまりとしてとらえることができない。おそらくは、畑地造成のおり、大きな削平を受けているものと考えられる。

調査報告書は1999年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（120　周船寺　0686　1：8000）

2. 調査区全景（東から）

3. 調査作業風景（東から）

9825 飯氏遺跡第７次調査（IIJ-7）

所在地	西区大字飯氏356-1地内	調査面積	412㎡
調査原因	鉄道拡幅	担当者	荒牧宏行・池田祐司・久住猛雄
調査期間	1998.7.15～9.15	処置	記録保存

位置・環境　飯氏遺跡は高祖山の北側山麓に広がる扇状地上に位置する。調査地点は遺跡の北側先端近くに位置し、扇状地を横断して幅約３ｍ、長さ138ｍにわたって調査を行った。客土、旧耕作土を除去すると、暗褐色の遺物包含層が広がり、その下の黄褐色砂質シルト層上面で遺構を主に検出した。

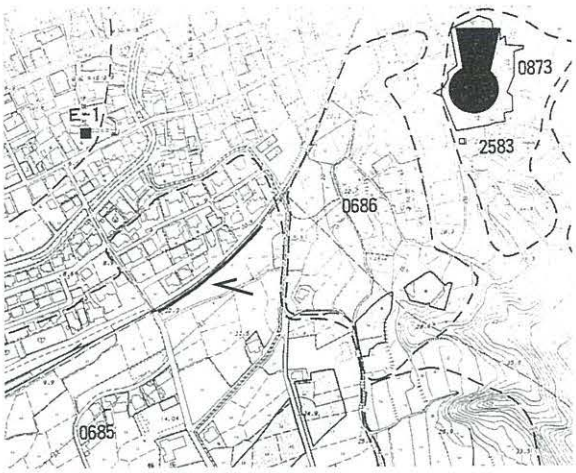
検出遺構　遺構は弥生時代のものとして調査区に直交する溝２本、ピット群があげられる。溝はSD04が幅約2.5ｍ、深さ1.3ｍを測り断面「Ｖ」字形を呈し、SD08は幅約2.5ｍ、深さ１ｍを測り断面は緩やかな「Ｕ」字形を呈す。間隔は約11ｍである。両者から弥生中期後半の遺物が大量に出土した。調査区中央には方形の大型のピットが集まる。調査区内で検出したほとんどのピットから弥生中期後半の土器が出土している。

中世初頭の遺構としては、幅１ｍの溝が２ｍの間隔をおいてほぼ並行して走り、ヘラ切り底の土師器皿、越州窯系青磁等が出土した。中世後半期の遺構としては、土壙、井戸、ピットがあげられる。土師器皿、龍泉窯系青磁等が出土している。

出土遺物　遺物は、コンテナケース約45箱が出土した。そのほとんどがSD04・08出土の弥生土器である。

まとめ　弥生時代の２本の溝については、形状、遺物の出土状態から集落の環壕とされているものと同様の性格になると考えられる。また、大型の掘り方を持つピットも同時期のものと考えられ溝に囲まれた集落が広がるものと考えられる。

調査報告書は1999年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（120　周船寺　0685　1：8000）

2．調査区東半部全景（東から）

3．SD08遺物出土状況（南西から）

9826 内野遺跡群第３次調査（UCN-3）

所 在 地　早良区早良８丁目、大字西地内
調査原因　圃場整備
調査期間　1998.7.19～10.26
調査面積　1,700㎡
担 当 者　大塚紀宜
処　　置　記録保存

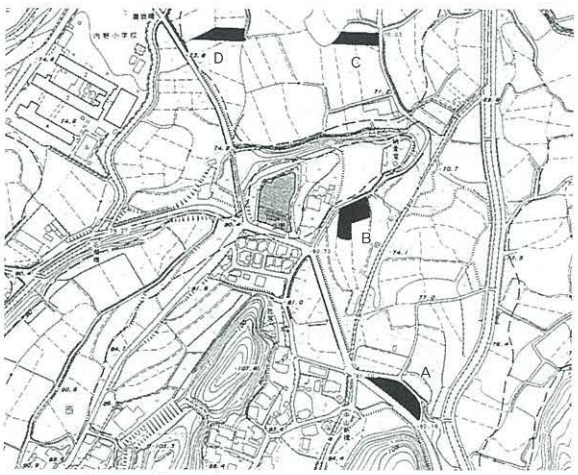
位置・環境　室見川上流東岸域の扇状地上に位置する。標高は70～80ｍを測り、南から北に緩く傾斜する。現況は水田として開削されている。

検出遺構　調査対象区は４地点に分散する。Ａ区では地表下40～55㎝で明褐色粘質土層の遺構面となり、調査区西側を中心に遺構が分布する。溝、土壙の他に建物跡と見られる柱穴も検出される。Ｂ区では明褐色粘質土層上面で焼土壙、土壙、溝を検出する。焼土壙は台形、長方形の２種類あり、製炭用と考えられる。Ｃ区は表土直下の灰褐色粘質土上面で遺構面となる。柱穴の他に風倒木と見られる不整形の土壙を検出する。Ｄ区では焼土壙、柱穴の他に風倒木状の土壙を検出している。

出土遺物　Ａ区では出土遺物は11～13世紀を中心とし、青磁、白磁片や土師器破片等が出土する。一部弥生前期の遺物も含まれる。Ｂ～Ｄ区では同様に中世を主体とする遺物が出土しているが、遺物量は極めて少ない。また調査区全体を通じてわずかだが縄文時代とみられる石器が出土している。

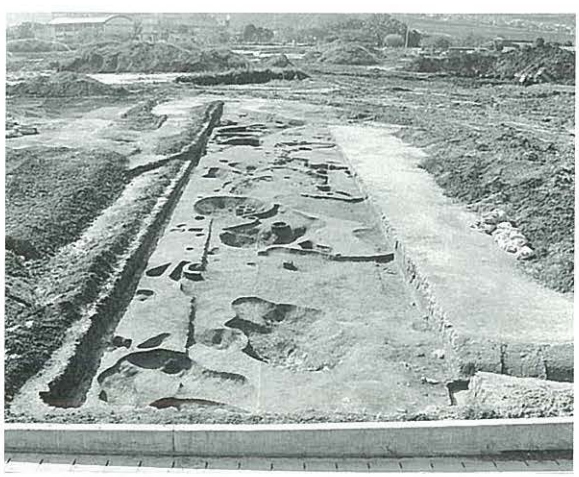
ま と め　Ａ区で検出された遺構群は、調査区の南側の段丘上に広がると見られる集落の北端部の様相を示し、本次調査区西側の峯遺跡群で検出された集落とほぼ同時期に集落が存在していたことを示す資料となる。北側扇状地中位部分では遺構の密度は低くなり、居住域外と見られる。

調査報告書は1999年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（早良17　内野　0803　1：8000）

2．Ａ区全景（東から）


3．Ｃ区全景（東から）

9827 博多遺跡群第110次調査（HKT-110）

所在地	博多区店屋町152他３筆	調査面積	186㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	田上勇一郎
調査期間	1998.8.24～11.3	処置	記録保存

位置・環境　調査地点は博多浜と息の浜をつなぐくびれ部の、博多浜側の付け根にあたる。現在の標高は5.0m前後である。

これまで、西に近接する第14次調査地点では、最下層の泥炭状土層から12世紀前半の自磁の集積が検出され、南に近接する第77次調査地点では８～９世紀の遺構が検出されている。

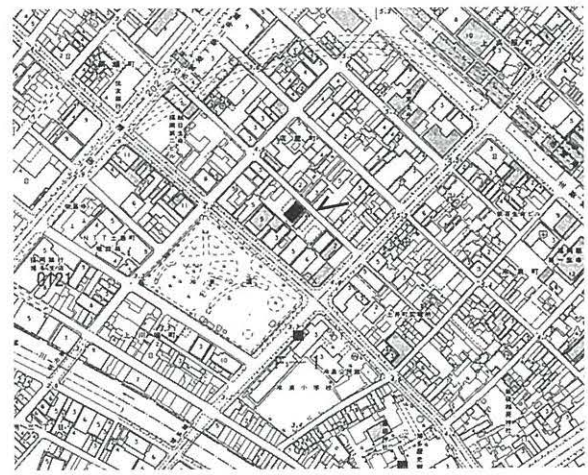
検出遺構　４面の調査面を設定し遺構調査を行った。井戸、土壙、ピットが検出されている。第１面は標高3.7～3.9mで、炭化物を多く含む灰褐色土を基本とする。近世の遺構を調査した。一部灰褐色土と炭化物の互層の整地がみられた。

第２面は整地層を除去した灰褐色砂質土で、標高は3.5m。15～16世紀の遺構がみられた。第３面は標高2.9mで、一部黄褐色砂があらわれ、12～13世紀の遺構を調査した。第４面は基盤の黄褐色砂で標高2.3～2.9m。緩やかに北西に傾斜している。12世紀の遺構を検出した。

出土遺物　遺物はコンテナケース 120箱分出土した。第１・２面からは鉄滓が多量に出土した。それに加えて鞴の羽口等も見つかっている。近世から戦前まで続いた鋳物工場の遺物である。また、土壙からは、肥前染付や唐津焼が一括廃棄された状態で発見されている。そのほか青磁の椀・皿、赤絵皿、粉青沙器等15～16世紀の中国・朝鮮からの輸入陶磁器が出土している。第３・４面からは青磁・白磁の椀・皿、土師器の杯・皿が多く出土している。

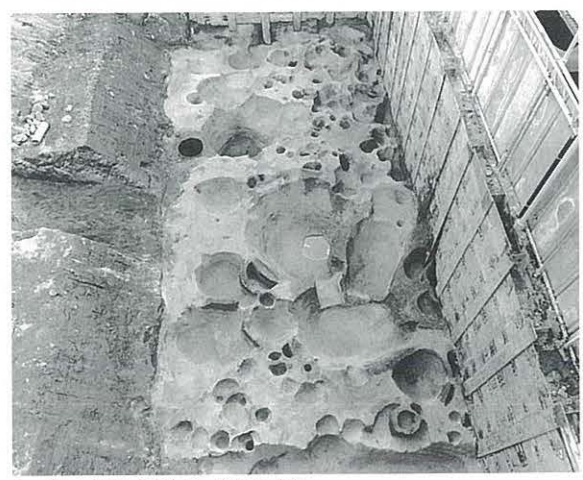
まとめ　12世紀以降、近世までの遺構、遺物を検出した。第14次調査地点のような泥炭状土層はみられず、波打ち際は第14次調査地点との間に存在するようである。また、８～９世紀代の遺構がみられず、第77次調査地点がこの時期の北限となるようである。

調査報告書は1999年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（49　天神　0121　1：8000）

2. 第４面南側全景（東から）


3. 第４面北側全景（東から）

9828 下月隈C遺跡群第4次調査（SHC-4）

所在地	博多区月隈4丁目	調査面積	10,000㎡
調査原因	調節池建設	担当者	瀧本正志
調査期間	1998.9.1～1999.3.25	処置	記録保存

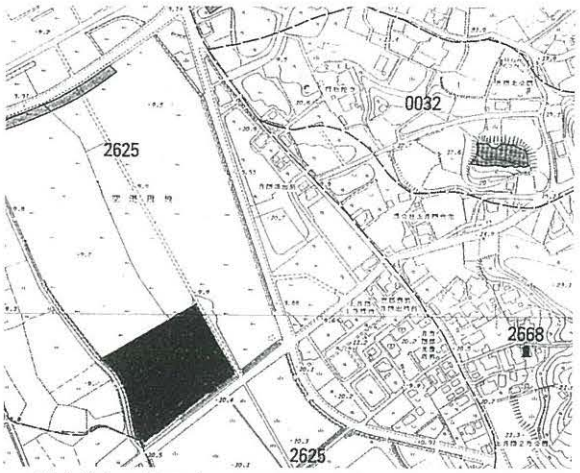
位置・環境　調査地周辺は、御笠川の沖積作用によって形成された低地で、東を月隈丘陵、西を春日丘陵に挟まれている。調査地は、福岡空港の南側に位置し、弥生時代～中世の集落遺跡である下月隈C遺跡の中央部にあたる。現況は造成された状況であったが、近年までは水稲耕作が行なわれていた。現況面の標高は10m前後を測る。

検出遺構　調査は4回にわたり地下を掘り下げ、それぞれ弥生時代前期～後期、古墳時代、奈良時代、鎌倉時代の遺構を発見した。弥生時代では河川・堰と掘立柱建物や井戸からなる集落、古墳時代では水田、奈良時代では河川と水田、鎌倉時代では堀・掘立柱建物や井戸からなる集落であった。

出土遺物　遺物は、弥生時代前期～12世紀までの土器・陶磁器、石器、木製品等の多種多様な遺物を発見し、コンテナで213箱を数える。特に弥生時代後期の河川と堰からは、土器や木製農耕具の他に当時の建物に使用した柱や梁などの建築部材が大量に出土した。中でも、高床式建物の部材は、これまでに類例が無い形態である。

まとめ　今回の調査により、調査地周辺における弥生時代～中世の状況を明らかにする貴重な成果を得ることができた。特に、調査地及び調査予定地において弥生時代の人々の生活の跡が良好に残っていることが判明するとともに、これまでの考えよりも早くから弥生人が低地に進出していたことを明らかにしたことは極めて有意義な成果と言える。さらに、今後の調査においても建築部材が出土することは明らかで、弥生時代の建物が明らかになる可能性がでてきた。

調査報告書は、2001年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（10 下月隈・11 金隈　2625　1：8000）

2. 弥生時代遺構面全景（北から）

3. 堰検出状況（西から）

9829 元岡遺跡群８次調査（元岡古墳群Ａ群）（MOK-A）

所在地	西区大字元岡字大坂・板瓜尾	調査面積	古墳１基
調査原因	九州大学統合移転	担当者	松村道博
調査期間	1998.9.16～12.25	処置	記録保存

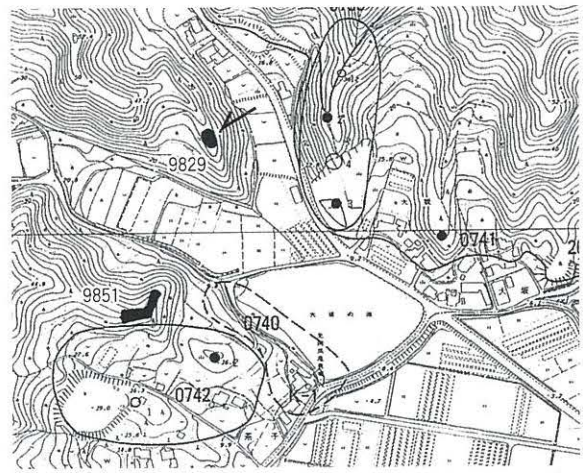
位置・環境　調査地点は、県道桜井太郎丸線の西側、石力元古墳群から南東に派生する丘陵先端部に１基だけ独立して立地する。標高32ｍ前後をを測る。

検出遺構　内部主体に横穴式石室を持つ古墳時代後期の円墳である。古墳は二段築成、一段目は削り出しで楕円形をなす。二段目は円形で径15ｍを測る。石室石材は近世の石抜きによりほとんど残っていない。側壁の一石とその近くの床石だけが遺存していた。掘り方から石室の全長は4.8ｍ、玄室幅1.84ｍ、長さ2.83ｍを測る。

出土遺物　遺物は、石室の中からの出土はほとんどなく後世に石室から掻き出され西側墳丘裾から須恵器、土師器がコンテナ２箱出土している。

まとめ　古墳は出土遺物から６世紀後半の古墳時代後期の円墳である。

報告書は2002年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（129 桑原・130 太郎丸　1：8000）

9830 田島A遺跡第2次調査（TZA-2）

所在地	城南区田島1丁目405	調査面積	24㎡
調査原因	自動販売機設置	担当者	加藤隆也
調査期間	1998.9.1～9.11	処置	記録保存

位置・環境　調査地点は樋井川の西側中位段丘に位置し、南北に延びる台地の東側斜面にあたる。南側隣接地は第1次調査地点である。現況は宅地であり、標高は約6.6mを測る。

検出遺構　60cm～1.5mの盛り土、遺物包含層を除去したローム層上面にて調査を行った。石蓋土壙墓1基、貯蔵穴1基、溝、柱穴を検出した。石蓋土壙墓は周辺で見つかっている3基のうち最も規模が大きく、溝で区画していたと思われる。墓壙は二段掘りであり、1段目は東西2.8m、南北1.8mを測る隅丸長方形を呈する。2段目は長さ1.6m、幅27～40cm、深さ50cmを測る。玄武岩の板石4枚と同石材の小石で2段目を被い、隙間を白色粘土でふさいでいる。蓋石の内部全面に赤色顔料がみられ、床面の東側には枕状の白色粘土がみられる。墓壙も東側が広くなっていることから、被葬者の頭位方向は東位と推定される。貯蔵穴は調査区の東側で検出された。断面形はフラスコ形をしており、上の入り口部は径約60cmを測り、1.6m下の床面部は長さ1.6m、幅1.3mの隅丸長方形を呈する。遺物は床面から弥生時代の土器が出土している。

まとめ　主な検出遺構は石蓋土壙墓と貯蔵穴である。石蓋土壙墓は家族墓的な様相をもっており、墓壙の重複がないことから、隣接して次々に造られていったことがわかる。また、使っている石材の多くが玄武岩でこの周辺では採集できないことから、この集団では蓋石を一定の場所から供給していたことを示している。貯蔵穴は台地の落ち際に複数造られており、その背景に弥生時代の集落の広がりが考えられる。

調査報告書は2000年度に刊行予定である。

1. 調査地点の位置（62 小笹　0199　1：8000）

2. 調査区全景（南西から）

3. 石蓋土壙墓51検出状況（南から）

9831 福岡城跡第42次調査（FUE-42）

所在地	中央区城内1-1	調査面積	対象30,000㎡（トレンチ930㎡）
調査原因	確認調査	担当者	塩屋勝利・池崎譲二
調査期間	1998.9.22～1999.1.29	処置	埋め戻し保存

位置・環境　国指定史跡福岡城跡（舞鶴公園）内に所在した平和台野球場の解体工事終了後に行った球場跡球場跡地の試掘調査で、平成11年度以降に実施する本格調査の予備調査である。鴻臚館跡関連調査では第16次となる。

試掘対象は球場跡地のうち特にグランド部分について実施した。なお、解体作業の段取り上、球場跡地の北半と南半の２期に分けて実施し、1.5ｍ幅のトレンチを北半に４本、南側に６本設置した。

検出遺構　本調査に期するため球場解体による埋立土のみを除去し、下面の状況を確認した。

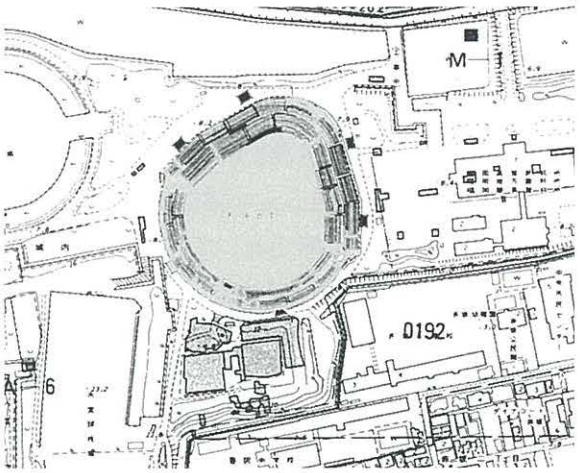
グランド内は球場建設時に掘り下げられており遺構の遺存状況は必ずしも良好ではないと考えられていた。しかし、グランド中央部では球場建設以前の戦災焦土が残っており、球場建設による削平はグランド全体におよんでいないことがわかった。また、岩盤の状況から、グランド南側に東西に延びる谷が想定され、谷北側にもある程度の平場の存在することがわかった。

さらに谷の埋め土中に多量の鴻臚館関連の瓦を含む粘土ベルトが３条検出されている。時期は明確でないが柱穴状、礎石抜き跡状の遺構も確認されている。

その他、球場関係埋設管、旧陸軍連隊関係建物、福岡城道路面等の遺構も確認された。

出土遺物　確認調査のために遺物は取り上げておらず、特記すべき遺物はないが、鴻臚館関係の瓦が多数含まれている粘土ベルトがあった。

まとめ　試掘調査の結果、球場建設による鴻臚館遺構の破壊は壊滅的ではなく、予想以上の遺存状態であり、本調査が期待される。



1．調査地点の位置（60　舞鶴　0192・0193　1：8000）

2．（トレンチ配置状況　西から）

3．（遺構・遺物出土状況南トレンチ３　北から）

9832 有田遺跡第190次調査（ART-190）

所在地	早良区有田１丁目10-7	調査面積	27.2㎡
調査原因	車庫建設	担当者	米倉秀紀・本田浩二郎
調査期間	1998.8.24～8.27	処置	記録保存

位置・環境　調査地点は有田台地の最高所から東に約200ｍ東に下った緩斜面上に位置する。南側隣接地では中世の溝等が見つかっている。

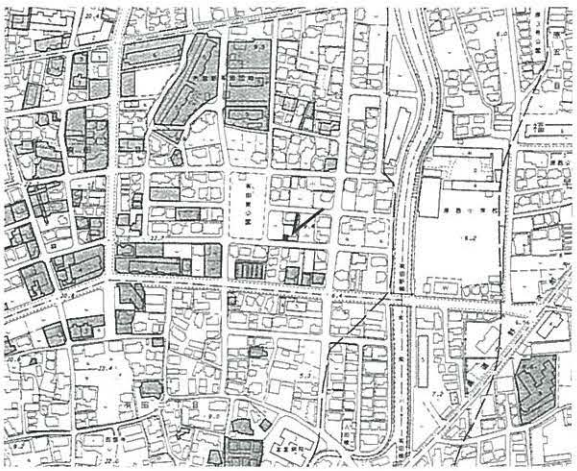
検出遺構　検出した遺構は中世未の壕１条、時期不明の溝１条、方形の竪穴住居跡のごく一部（？）１軒である。

出土遺物

中世の壕から陶磁器、土師器等コンテナ半分と板碑３点が出土した。その他に古墳時代の土師器等がごく少量出土した。

まとめ　今回の調査は車庫建設に伴う調査であったため、調査面積が極めて狭く、中世の壕も全部を掘りあげることができなかったが、既調査地点から続く壕を確認し、板碑３点が出土する等の成果を上げることができた。

調査報告書は1999年度に刊行予定。



1. 調査地点の位置（82　原　0309　1：8000）

2. 調査区全景（北西から）

3. 板碑出土状況（北東から）

9833 高畑遺跡第17次調査（TKB-17）

所在地	博多区板付６丁目地内	調査面積	2063.5㎡
調査原因	道路新設	担当者	大庭康時
調査期間	1998.9.1～1999.3.26	処置	記録保存

位置・環境　福岡平野のほぼ中央部、御笠川左岸に形成された低台地の東側沖積地に当たる。調査地点の西は、高畑遺跡の低丘陵、東側は那珂古川の流路となる。

調査地点の西端には丘陵裾部がかかり、そこから東に向かって暗褐色粘土層が延びる。調査区の東端近くでは那珂古川の氾濫により、暗褐色粘土層は削り流され粗砂が厚く堆積している。

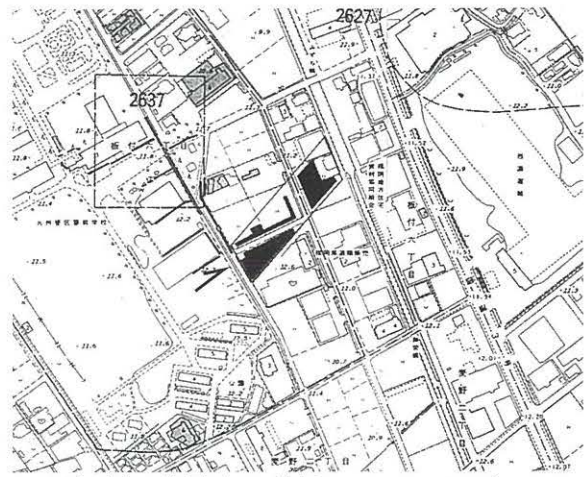
検出遺構　丘陵裾部からは、８世紀代の溝（川？）が検出された。この溝からは、人面墨書土器・木製人形・木簡・墨書須恵器等が出土しており、祭祀に関わるものと思われる。

暗褐色粘土の下には、遺存状態は悪いが、夜臼式～板付１式期の土壙が見られた。ただし、遺構密度は極めて薄く、暗褐色粘土堆積以前に削り取られているものと思われる。暗褐色粘土層の上面は、古代未の水田となっている。また、これを削り流している東側の川岸付近から中世初め頃の瓦器椀・陶器瓶が出土しており、水田の下限が中世初頭にあることを示している。調査区東部の川は、埋積過程でたびたび水田化されている。

出土遺物　土器・須恵器・陶器がコンテナ76箱、石器・石製品が２箱、木器・木製品が31箱出土している。

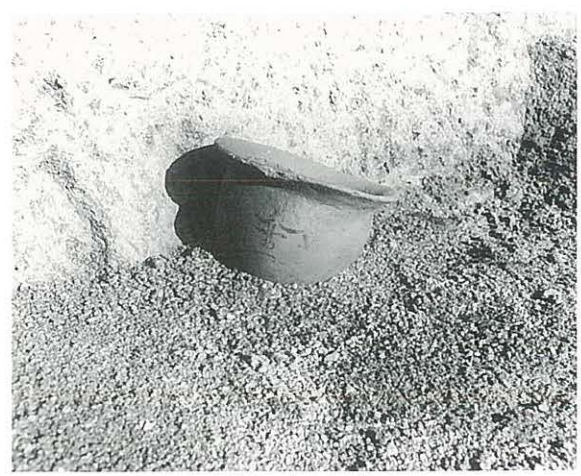
まとめ　古代寺院と推定されている高畑遺跡の東の端から、東の低地部分の水田部にかけて検出したものである。特に、人面墨書土器等が出土した溝は、高畑遺跡第８次調査で多数の木簡・斎串・墨書土器が出土した律令期の大溝に繋がるものである。ただし、第８次調査の結果推定された高畑廃寺の位置からは大きく南、すなわち上流側に外れており、その性格に関しては今後予定されている西側隣接地から台地上の発掘調査に期待したい。

調査報告書は2000年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（25　井尻　0095　1：8000）

2．奈良時代大溝（北西から）


3．人面墨書土器出土状況（西から）

9834 比恵遺跡群第66次調査（HIE-66）

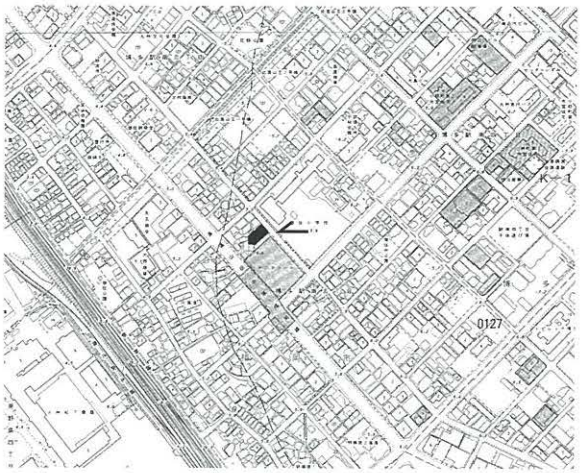
所 在 地　博多区博多駅南５丁目70-2　　**調査面積**　212.3㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　井上繭子
調査期間　1998.9.25～10.7　　**処　　置**　記録保存

位置・環境　比恵遺跡群は御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵の北端部分に立地する。本調査区は比恵遺跡群の西寄りに位置する。遺構面は現地表下約80㎝、標高約５ｍの鳥栖ローム上面である。調査区北側はロームが北へ向かって傾斜し、上面に包含層が堆積していた。台地の縁辺部にあたると思われる。

検出遺構　弥生時代中期及び古墳時代以降の井戸各１基（SE01・SE03）、古墳時代前期・中期の土壙各１基（SK01・SK02）、弥生時代終末から古墳時代初頭の時期と思われる墓壙１基（SK05）、その他ピットが検出された。

出土遺物　SE01からは弥生時代中期の袋状口縁壺が数個体投棄された状態で検出された。SE03からは、古墳時代以降の時期と思われる須恵器片が出土した。SK06からは布留式の甕や壺、器台等が大量に廃棄された状態で、SK02からは古墳時代中期頃の小型丸底壺や広口壺等が数個体完形で出土している。SK05では弥生時代終末から古墳時代初めにかけての時期と思われる大型の甕形土器と器台とが据え置かれたような状態で出土した。遺物量はコンテナ11箱程度である。

まとめ　本調査区は、６世紀後半から７世紀前半の倉庫群と柵状遺構が検出された第８次調査地点の北西に位置する。しかしながら本調査区からは第８次調査地点につながる遺構は検出されなかった。検出遺構は上記のように弥生時代中期から古墳時代にかけての時期にわたる。遺構数は少ないが遺構の残りは比較的良い。第８次調査地点とのつながりは確認されていないが、南西に接する第60次調査地点で検出されている集落、墓壙等との関係が伺われる。



1．調査地点の位置（37　東光寺　0127　1：8000）

2．SE01（南西から）

3．SK02（西から）

9835 五十川遺跡第6次調査（GJK-6）

所 在 地 福岡市南区五十川2丁目537-1　　**調査面積** 127㎡
調査原因 倉庫増設　　**担 当 者** 小林義彦
調査期間 1998.9.24～9.30　　**処　　置** 記録保存

位置・環境　五十川遺跡は福岡平野の中央部を貫流する那珂川右岸の洪積台地上に立地する。この台地は須玖丘陵から井尻を経て那珂、比恵へと長く延びており、縁辺には小規模な谷が入り組んで複雑な地形をなしている。

調査地点は、五十川遺跡の立地する丘陵のほぼ中央部に位置し、北東側には小さな谷が貫入している。

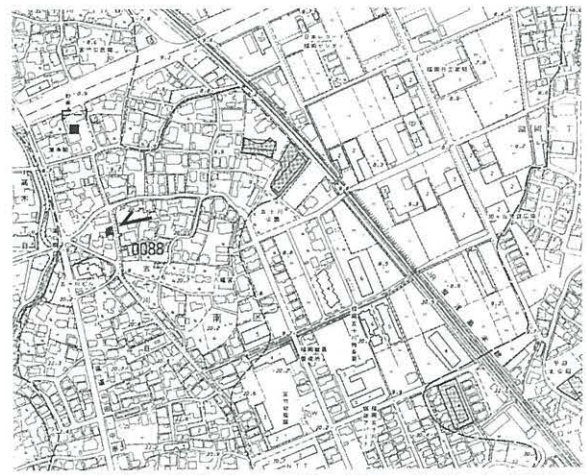
検出遺構　現況は宅地で、調査区の北側は近世以降の開墾によって大きく削平されており、遺構は希薄である。これに対して、南西側は比較的良好な状態で遺存している。遺構は、掘立柱建物跡1棟と土壙4基のほかに多数のピットを検出した。年代的には近世の大型陶器甕を埋置した2号土壙を除いては出土遺物がなく明確ではないが古代から中世と考えられる。

このうち掘立柱建物跡は、桁行2間（3.6m）、梁行1間（2.7m）の南北棟の建物跡である。また、土壙のうちの1号土壙は、長さ70㎝、幅30㎝の浅い凹レンズ状の焼土壙で、壁面は焼け、覆土中には多くの炭片が混入していた。11号土壙は、長さ100㎝、幅65㎝、深さ60㎝の隅丸長方形プランの土壙である。

遺物は出土していないが、覆土から弥生時代の可能性も考えられる。

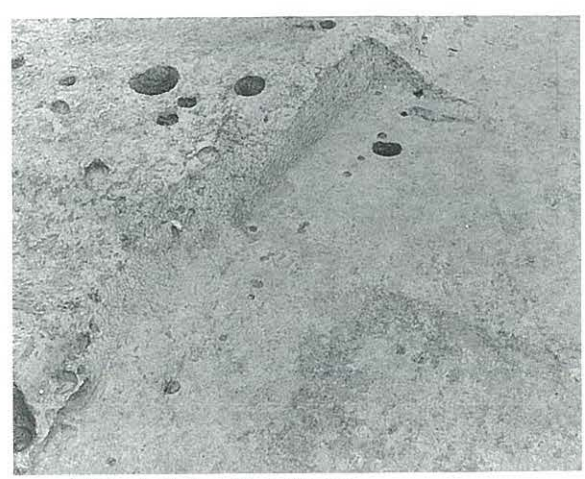
出土遺物　遺物は少なく、近世陶器甕のほかには須恵器や土師器の小片がコンテナケース1箱ほど出土した。

ま と め　調査区が狭小なために遺構の拡がりは明らかでないが、隣接する第8次調査区のデータを勘案すると、堀を巡らした小規模な居館を中心とて中世の集落が拡がっていたものと推察される。



1．調査地点の位置（24　板付　0058　0088　1：8000）

2．1区南側全景（北東から）


3．14号掘立柱建物全景（東から）

9836 博多遺跡群第111次調査（HKT-111）

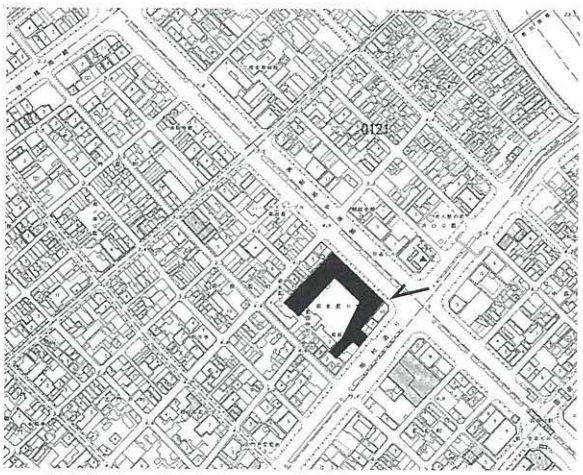
所 在 地　博多区奈良屋町　　**調査面積**　4,800㎡
調査原因　学校建替　　**担 当 者**　佐藤一郎・井上繭子
調査期間　1998.10.1～（調査継続中）　**処　　置**　一部現状保存及び記録保存

位置・環境　本調査地は博多湾に面した「息浜」と呼ばれる砂丘上に位置する。調査地区は豪商神屋宗湛屋敷跡推定地に隣接し、東40ｍで第５次、南西西50ｍでは第42・60次調査が行われている。

調査区域を４分割し、平成10年度は西側のⅠ区、東側のⅡ区の調査を行った。

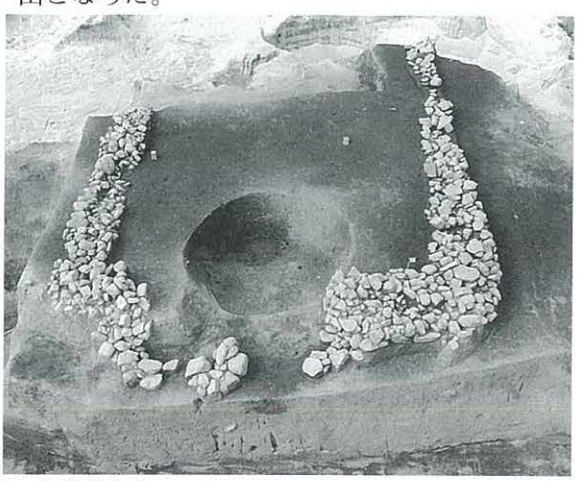
検出遺構　Ⅰ区の中央では旧校舎基礎の撹乱を受けていたが、遺構は現地表下1.4ｍの暗黄褐色砂質土（16世紀の遺物包含層）上面から確認された。包含層上面では土壙６基、石基礎２棟分を検出。遺構の時期は16世紀末以降である。包含層下面の黄白色砂上面（標高約３ｍ）では石積土壙34基、井戸２基、土壙68基、柱穴を検出した。遺構の時期は16世紀。土壙SK104からは、土師器小皿・杯が10枚単位で重なり出土。出土総数72点。

Ⅱ区は、現地表下約１ｍの暗褐色砂質土（15～16世紀の遺物包含層）上面で第１面の遺構面となる。遺構は、土壙、石積土壙、柱穴等が検出された。井戸には木桶の井筒を用いているものと石組のものがあった。15世紀頃が主体となる。北東側は小学校のプールがあったところでセメントミルク工法により現地表下約２ｍまで地盤強化されており、黄白色砂上面での遺構検出となった。



1．調査地点の位置（48　千代博多　0121　1：8000）

2．１区全景（北から）


3．石基礎全景

4．石積土壙全景

出土遺物　遺物は主に包含層や土壙から多量に出土した。土師器小皿・杯、備前焼擂鉢・壷・甕、唐津焼椀・皿・片口、輸入陶磁器では龍泉窯系青磁椀・皿、景徳鎮系青花椀・皿、漳州窯系青花椀・皿・盤、同五彩椀、朝鮮王朝粉青沙器椀・皿、銅銭は 700枚以上出土、他に銅製刀装具類、簪、笄、 鉛製燭台、茶臼、瓦類も多量に出土し、富裕な階層が受容したものとみられる。

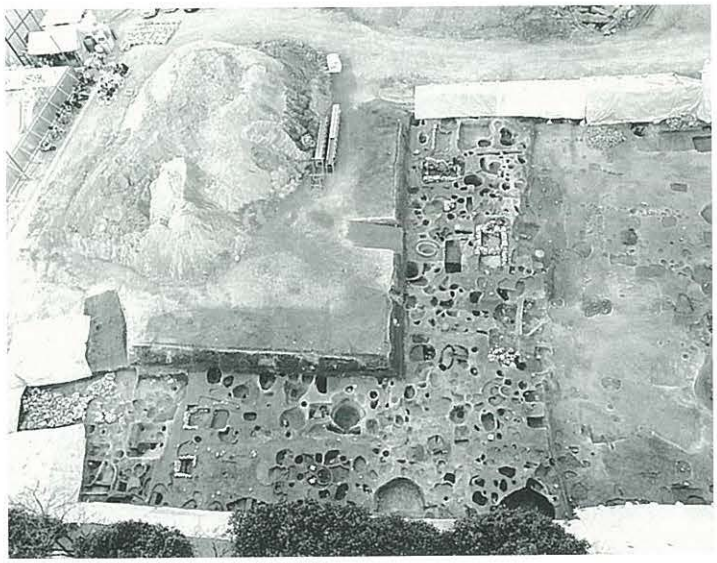
ま と め　豊臣秀吉の命による博多復興が推進される最中、天正16（1555）年と推定される神屋宗湛宛の筑前領主小早川隆景書状によると、「分際之者」はすべて「瓦」で屋根を葺くように命じている。多量の瓦類の出土は、輸入陶磁器や金属製品と共に本調査地に富裕な商人が居を構えていたとする物的証拠となろう。

また、Ⅱ区はⅠ区に比較して検出遺構の時期は古い。これは、砂丘が沖の方に延びていき、それに伴い、居住地が広がっていったためと考えられる。

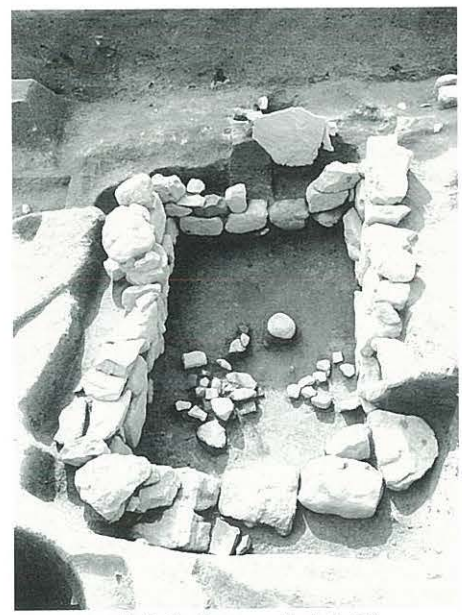
調査報告書は2001年度に刊行予定である。

5. 遺物出土状況

6. Ⅰ区出土の中国産青花・五彩



7. Ⅱ区第１面全景（南東から）



8. Ⅱ区石積土壙（SX27　北東から）

9837 五十川遺跡第７次調査（GJK-7）

所在地	南区五十川２丁目6-18	調査面積	779㎡
調査原因	専用住宅建替	担当者	小林義彦
調査期間	1998.10.1～11.10	処置	記録保存

位置・環境　五十川遺跡は、福岡平野の中央部を貫流する那珂川右岸の洪積台地上に立地する。この台地は須玖丘陵から井尻、那珂を経て比恵へと延び、縁辺には小規模な開析谷が入り組んで複雑な地形をなしている。第７次調査区は、五十川遺跡の立地する丘陵のほぼ中央部に位置し、北東側には小さな谷が北から貫入している。この台地上には弥生時代から古代の遺構が密に分布している。

検出遺構　発掘調査では古代から近世までの土壙や溝を検出した。

古代；土壙２基

中世；土壙５基、濠２条、溝２条

近世；溝１条

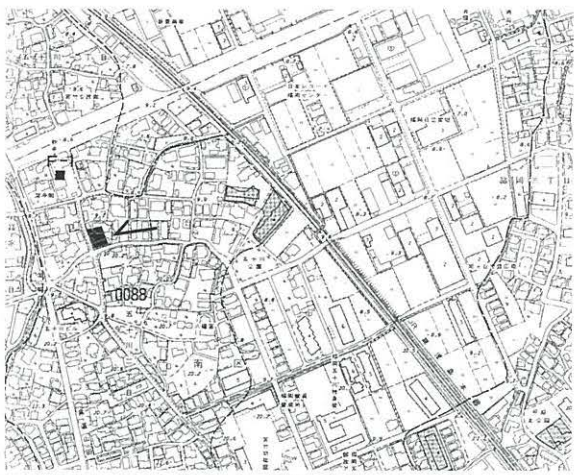
古代の土壙は、長径3.2m、短径２m、深さ60cmの小判形をした大型のもので、壁面がやや内側に膨らむ浅いフラスコ状をなしている。

中世の濠は南北方向と東西方向のものがある。このうち南北濠は、幅が２～2.5m、深さが1.3mで、断面形は「V」字状をなす。削平面を加味すると幅は３～3.5m、深さは２m以上になろう。一方、東西濠は、幅が2.5m、深さは１mで濠底の広い箱形の断面形をなす。

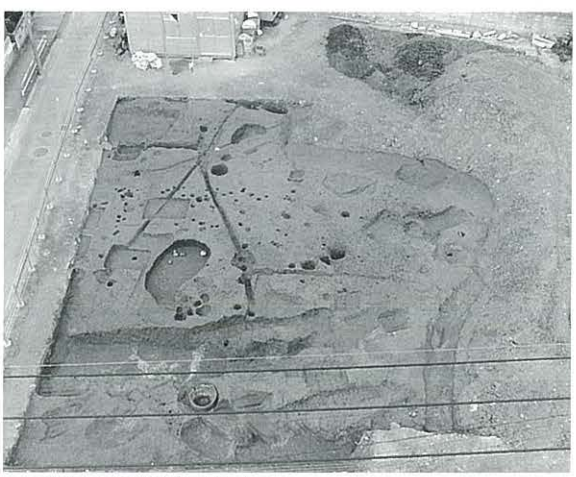
また、近世の溝は一辺が５mの「コ」字状溝で、南側の溝には陶器甕や瓦質甕が一面に敷き詰められていた。建物跡の雨落ち溝と考えられ、２間×２間規模の建物跡が想定される。

出土遺物　遺物は比較的少なく、須恵器や土師器、瓦質土器がコンテナケースに11箱、近世陶磁器が３箱出土した。

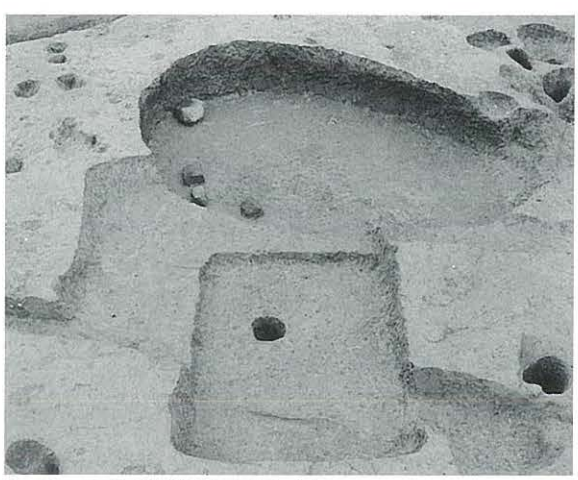
まとめ　遺構の中で中世の濠は、南北濠と東西濠が５mほどの土橋状の空間をおいて「T」字状に直交しており、中世館跡を巡る濠の一部と考えられる。



1. 調査地点の位置（24　板付 0088　1：8000）



2. 調査区西側全景（南から）



3. ９～11号土壙全景（西から）

9838 笹原遺跡第３次調査（SSB-3）

所在地	博多区諸岡６丁目地内	調査面積	1,610㎡
調査原因	道路建設	担当者	長家　伸
調査期間	1998.10.18～1999.1.16	処置	記録保存

位置と環境　笹原遺跡は春日丘陵から南に延びる洪積台地の一部とこの周囲に広がる沖積地上に立地する。遺跡の主体は台地上に広がっており現在までの調査で、弥生時代以降の遺構・遺物を確認している。

検出遺構　申請地は諸岡川の左岸沿いに位置し調査前現況は水田で、標高は10.9ｍである。遺構面は低位段丘面をおおう黄砂堆積物で構成されている。また調査区東側の旧諸岡川の法面付近はアカホヤ火山灰に覆われている。

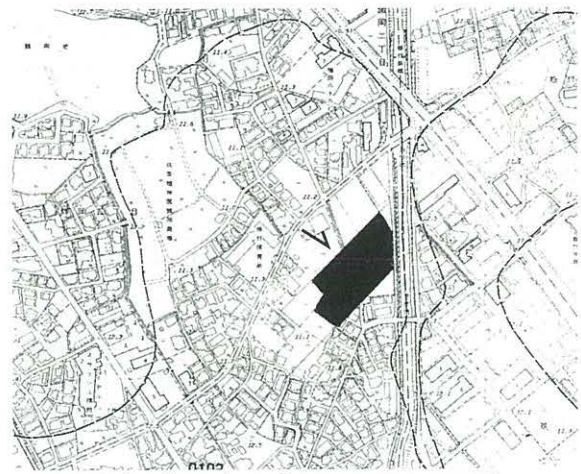
遺構面の標高は10.2～9.6ｍで調査区東側の諸岡川に向かって徐々に低くなっている。

検出遺構は溝・土壙・水田に伴う畦畔等であるが、遺構密度は希薄で時期も不明瞭である。また遺構検出面には厚さ10～20㎝の包含層が堆積し土師器・瓦器・黒曜石等が出土している。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ１箱である。土師器・瓦器・黒曜石の細片のみである。

まとめ　今回の申請地は台地の南端部分から南に落ち込んだ沖積地に位置し、遺構・遺物は極めて散漫であった。

調査報告書は2000年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（25　井尻　0103　1：8000）

2. 東側調査区全景（南から）

3. 東側調査区土層断面（北東から）

9839 コノリB製鉄遺跡第1次調査（KCB-1）

所在地	西区拾六町団地内	調査面積	1,500㎡
調査原因	団地建替	担当者	池田祐司
調査期間	1998.10.19～12.28	処置	記録保存

位置・環境　本調査区は早良平野の西北、叶岳から北東に広がる丘陵の東側の裾部に位置する。現況では平地であるが、造成前は東側に北東へ延びる丘陵があり、西側の丘陵とに挟まれた按部を形成していた。北側の鉄滓散布地で知られるコノリ池を頭とする狭い谷と、南に広がる広い谷の谷頭にあたり、標高15m前後を測る。

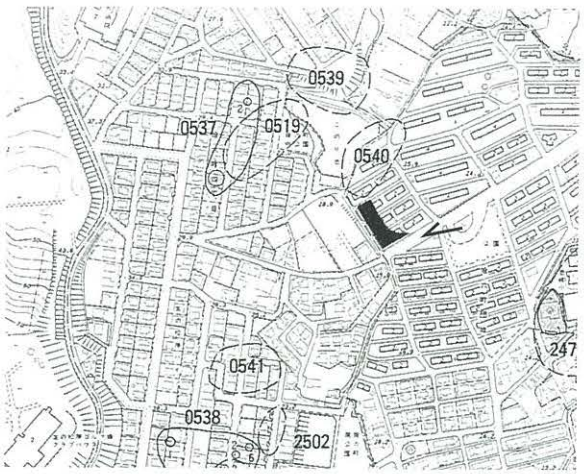
検出遺構　狭い谷状の地形に中世後半の井戸、溝、鍛冶関連遺構、中世、古代の土壙、ピット等を検出した。また、谷斜面は、古代、弥生時代中期の遺物包含層が広がる。

出土遺物　遺物は弥生時代中期を中心とする土器、石包丁、石斧等の石器、6世紀から8世紀代の須恵器、土師器、明代の染付等の陶磁器等である。

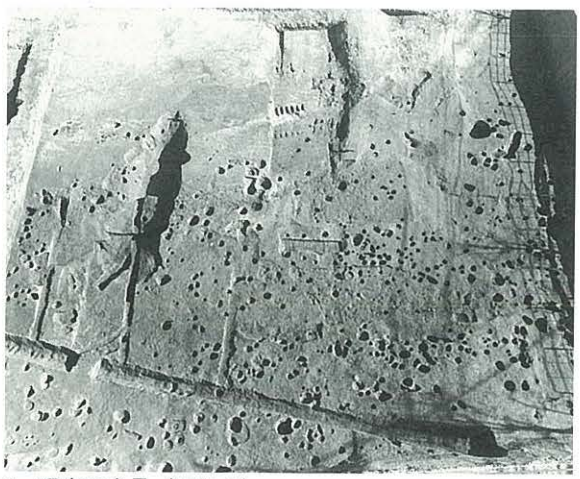
また、縄文時代のものと考えられる石斧も出土している。須恵器では盤口壺が出土した。古代の遺物包含層からは鉄滓が多く出土した。

まとめ　遺物量に比べて遺構は少ない。遺物の多くは周辺からの流れこみと考えられ、比較的緩やかな西側丘陵の斜面に、弥生時代から古代の遺構が広がるものと考えられる。

調査報告書は2001年度以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（105　拾六町　0540　1：8000）


2. 調査区全景（西から）

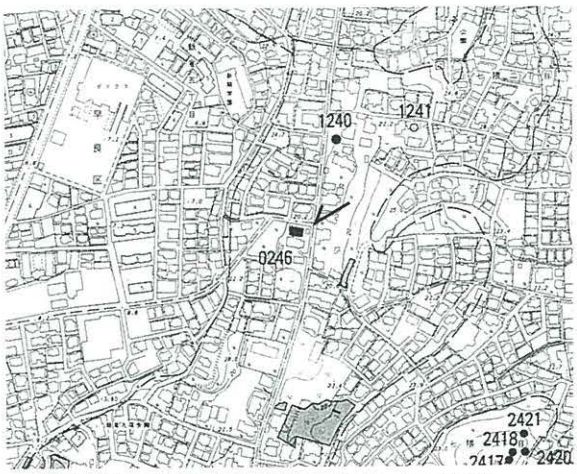
3. 井戸（東から）

9840 飯倉C遺跡第4次調査（IKR-4）

所在地	城南区飯倉6丁目1-3	調査面積	126.6㎡
調査原因	専用住宅建設	担当者	池田祐司
調査期間	1998.10.9～10.10	処置	現状保存

1．はじめに

平成11年7月29日、河埜和夫氏より、専用住宅建設に伴い埋蔵文化財事前審査願が提出された。埋蔵文化財課は申請地が飯倉C遺跡内に位置するため基礎掘削時に工事立会を行ったところ、すでに遺構面が露出し、遺構を確認した。このため、急遽10月9日、10日に発掘調査を行った。



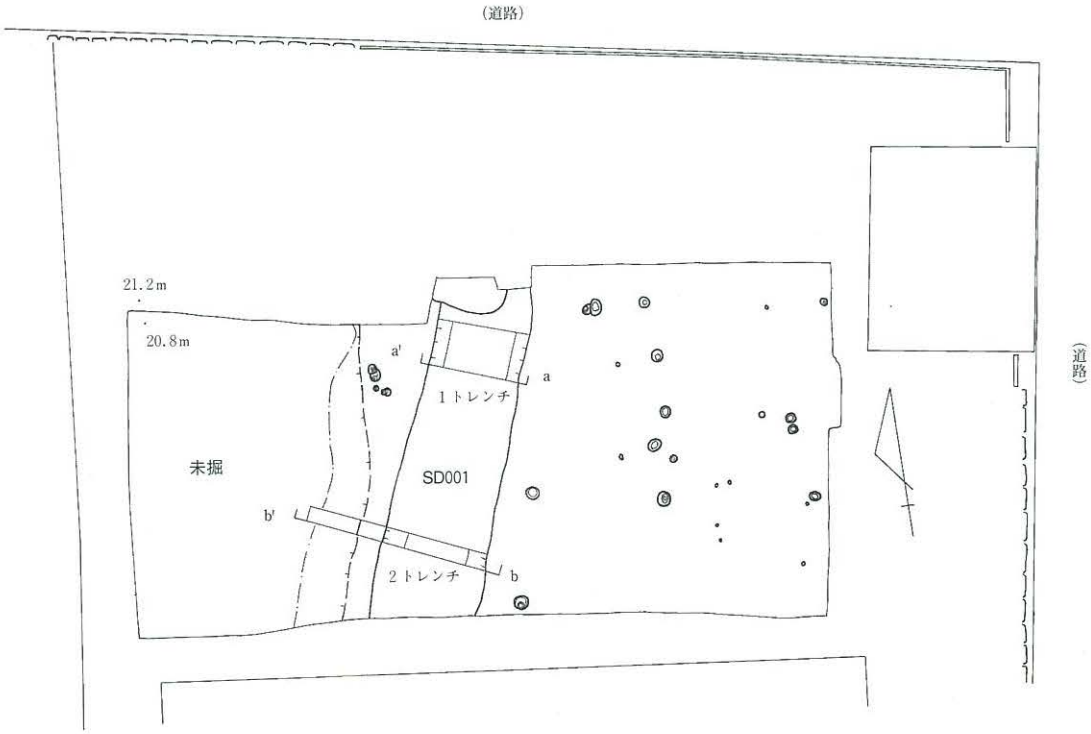
1．調査地点の位置（73　茶山　0246　1：8000）

2．遺跡の立地

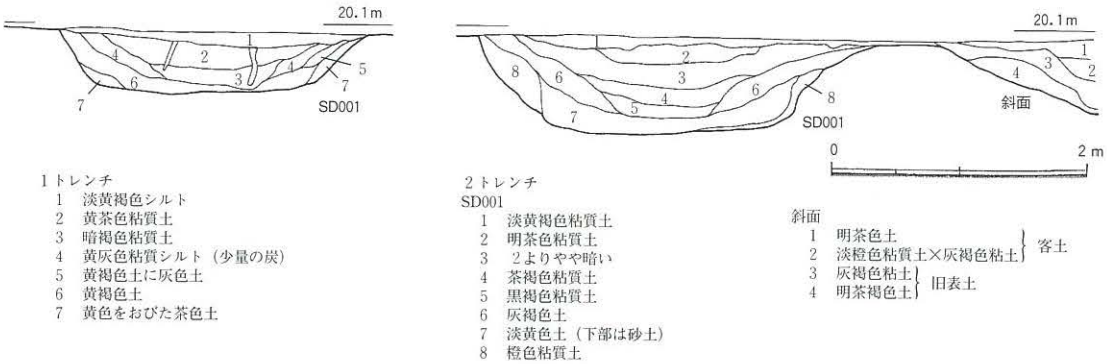
飯倉C遺跡は油山の西麓から八つ手状に派生した低丘陵上に位置し、これまで3次の調査で弥生時代を中心とした集落跡が確認されている。調査地点はこの丘陵のほぼ頂部から西側斜面への落ち際にあたり、標高21mを測る。

3．遺構と遺物

調査の開始時すでに土取りにより現地表より約60センチが削平されていた。壁面の土層は丘陵頂部（東）側で地表下約30㎝で地山の平坦面となり、過去の造成の跡が窺える。斜面（西）側は真砂土により盛土されており削平は遺構面まで及んでいない。調査は削平により遺構面が露出した部分について行った。



2．遺構配置及び周辺測量図（1：200）



3．1トレンチ・2トレンチ土層断面図（1：60）

検出した遺構はピットと1条の溝である。

ピットは深さ20～50cmとしっかりし、径10cmほどの柱痕跡が見られるが、建物としては展開しない。遺物は弥生時代と考えられる土器片が少量出土している。

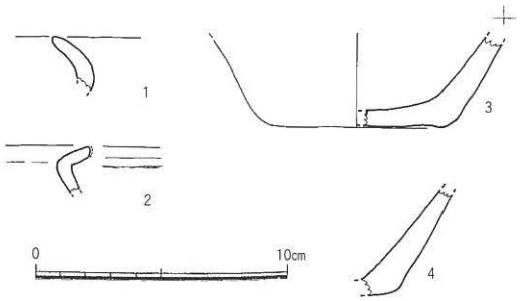
1はピット出土の小土器片で、袋状口縁壷の口縁部になると考えられる。

SD001　丘陵の落ち際に沿って直線的に走る溝で幅2.5mを測る。調査は、工事によるこれ以上の掘削がないことと、遺構の掘削の予定建築物に与える影響を考慮し、2本のトレンチを入れるに留めた。溝の掘り方は断面逆台形を呈し、北側の2トレンチで深さ50cm、南側の1トレンチで75cmと、1トレンチ部分が深く、底面は傾斜すると考えられる。埋土は淡黄褐色から淡茶色の粘質土、シルトで、レンズ状の堆積を呈す。底より10cmほど上には暗褐色から黒褐色土が見られ、遺物は主にこの層から出土した。

出土した遺物は弥生時代中期後半と考えられる土器が少量で、いずれも器面の残りが非常に悪い。2は逆L字形に屈曲する口縁部片で無頸壷になるものと考えられる。3、4は平底の甕の底部で、3は淡黄褐色、4は暗灰色を呈す。

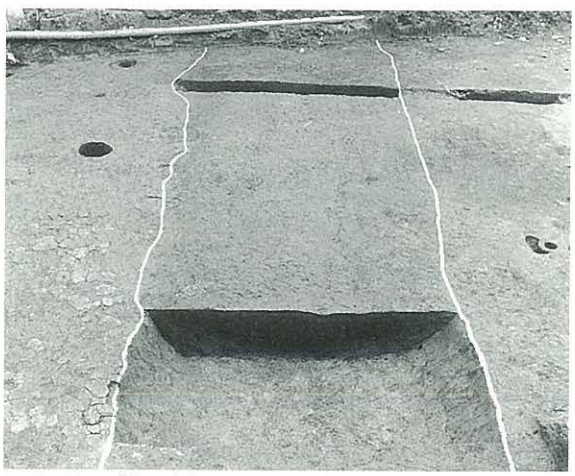
4．まとめ

検出した溝は丘陵上に営まれた集落を囲む可能性が考えられる。周辺の調査では第3次調査で弥生時代後期後半の溝が検出されており集落の存在を示唆してる。丘陵頂部は大きく削平を受けており遺構の残りは悪いと考えられるが、本調査区の様な斜面付近では良好な残りが期待できる。また、今回の調査では、SD001はトレンチを入れたのみで、現状保存を行い、西側の斜面は未掘である。



4．出土遺物実測図（1：3）

5．調査区全景（東から）



6．SD001（北から）

9841 笹原遺跡群第２次調査（SSB-2）

所　在　地　博多区諸岡５丁目20・23・24番　　**調査面積**　654㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担　当　者**　本田浩二郎
調査期間　1998.10.21～11.30　　**処　　置**　記録保存

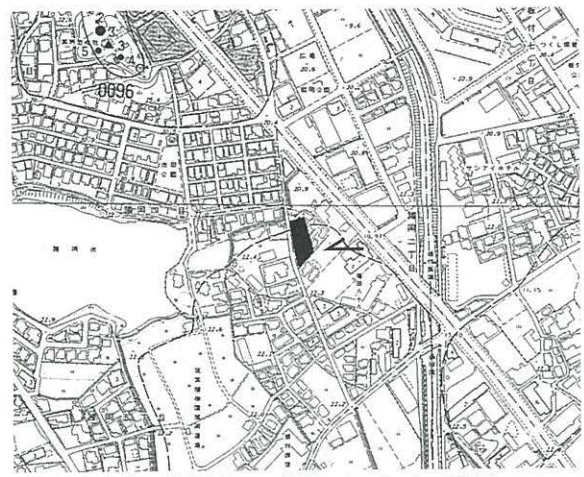
位置・環境　笹原遺跡群は、背振山系から流れ出る那珂川と牛頸・四王寺山地から流れ出る御笠川によって形成された福岡平野の那珂川下流右岸に位置している。両河川間を春日市白川水源に源を発し、北西に流れる御笠川に合流する諸岡川は、牛頸山麓から北に伸びる台地を開析し、河道周辺に谷底平野を形成している。笹原遺跡群は台地に挟まれた谷底平野上に立地し、その名の示すとおりもとは笹の生い茂る原野であった。低湿地であったために新田開発に着手されたのが、寛永９年（1639年）である。第２次調査地点は笹原遺跡の北西端部の諸岡川の旧河道から逸れた小高い台地上に位置している。現地表面の標高は12ｍ前後を測る。

検出遺構　調査地点の現状は宅地であり、遺構面となる鳥栖ローム層まで重機により掘削を行い、調査を開始した。遺構面は調査区中央部分が過去の開発により大幅に掘削されており、遺構は検出されなかったが、調査区縁辺部では古墳時代前期の竪穴住居８軒と掘立柱建物１棟、古代の溝２条、多数の柱穴・土壙が検出された。

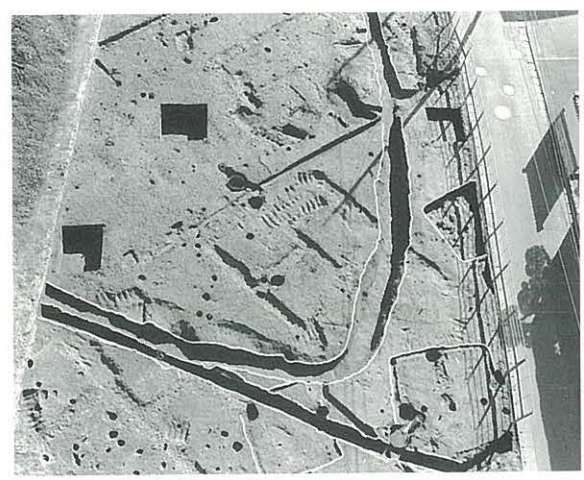
出土遺物　第２次調査では、旧石器時代の石器１点・弥生時代前期の土器・石器・古墳時代の土器・古代から中世にかけての瓦器、土師器等コンテナケース４箱分が出土した。

まとめ　今回の調査では旧石器時代から古代・中世にかけての遺構・遺物が検出された。笹原遺跡群の北西に隣接する諸岡遺跡群においても同時期の遺構群が検出されており、一連の集落遺跡として捉えることができよう。また、古代の溝は遺跡中央部を囲むように掘削されており、何らかの施設の存在が考えられる。

調査報告書は1999年度に刊行する予定である。



1．調査地点の位置（25　井尻　0103　1：8000）


2．調査区全景（北から）

3．SC07完掘状況（北から）

9842 梅林遺跡第２次調査（UBY-2）

所 在 地　城南区梅林４丁目402-1
調査原因　外環状道路・地下鉄３号線建設
調査期間　1998.8.18～12.11
調査面積　2,258㎡
担 当 者　井澤洋一
処　　置　記録保存

位置・環境　標高約 600ｍを測る油山から北方向に派生する標高30～40ｍの丘陵は、更に東や西方向に枝状の舌状台地を分岐している。遺跡は、その丘陵の一つ、標高約24ｍ上に立地する。東に七隈川、西に稲塚川に挟まれた地域である。

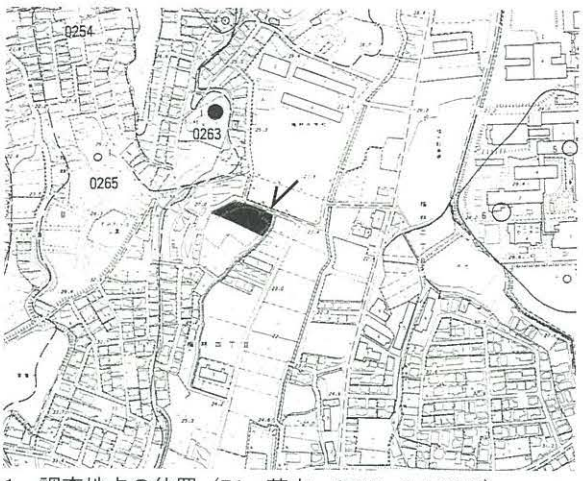
当該地より西へ約400ｍの地点には、６世紀の前方後円墳である梅林古墳、または、東方に100ｍの地点では、梅林遺跡第１次調査地点が存在する。

検出遺構　遺構は、縄文時代の土壙17基、落とし穴９基、古墳時代の掘立柱建物５棟、竪穴式住居跡６軒、鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物１棟、江戸時代の水田跡１面である。

出土遺物　縄文時代の打製石鏃、石斧、石鎗、古墳時代の須恵器杯・蓋・甕、土師器・甕・鉢・高杯・瓶、鉄滓、奈良時代の須恵器杯・蓋・甕・高杯・壷、土師器椀、皿、中世の土師器皿・杯、中国製青磁椀・白磁椀等が出土。

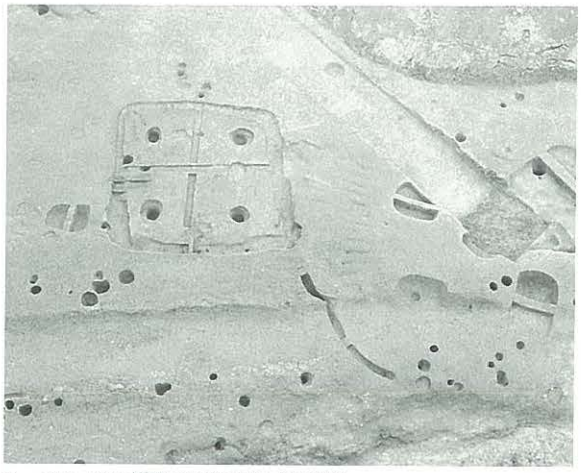
ま と め　当該地の北側には、七隈川の開析によって形成された低湿地が存在することから、動物の水飲み場所として最適な環境にあったと考えられる。落とし穴の存在は、狩り場と考えて良いであろう。

オンドル遺構については、西新町遺跡や小郡市干潟遺跡等県内でも数多く発見されているが、その多くが「L」字形カマドである。煙道が全周する例は、国内はもとより韓半島においても発見例がない。床暖房というオンドルの概念からすれば初源的な遺構と考えられ、韓半島における渡来人の故地を知る大きな手掛かりと成り得る。



1．調査地点の位置（74　茶山　2775　1：8000）

2．１区全景（南西から）


3．オンドル構造の住居跡（SC06）

9843 梅林遺跡第３次調査（UBY-3）

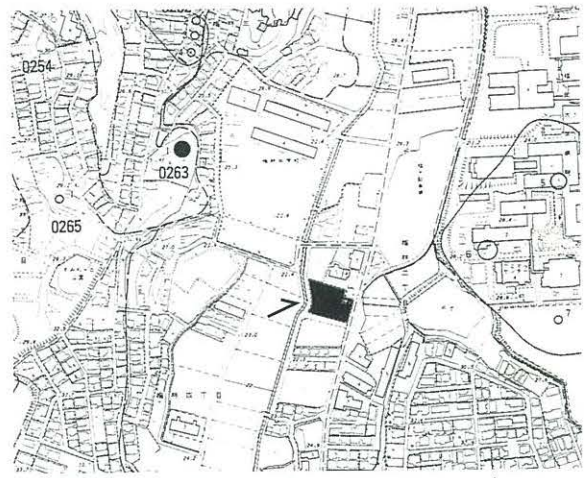
所在地	城南区梅林３丁目455-7他	調査面積	約2,267㎡
調査原因	外環状道路Ⅲ工区、地下鉄３号線建設	担当者	井澤洋一
調査期間	1998.4.2～7.14	処置	記録保存

位置・環境　標高約600ｍを測る油山から北方向に派生する標高30～40ｍの丘陵からは、更に東方向や西方向に枝状に舌状台地を分岐している。当該地は、七隈川の開析谷に立地し、遺構面の標高は19,45～20,64ｍを測る。当該地より西へ約400ｍの地点には、６世紀の前方後円墳である梅林古墳が存在する。

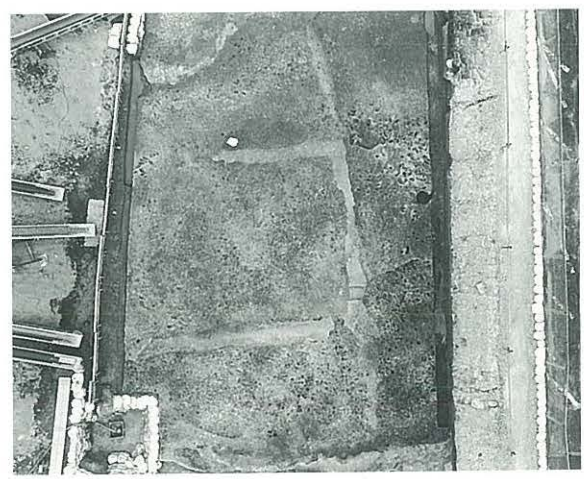
検出遺構　七隈川の自然堤防に挟まれた狭隘な谷地形に古墳時代から戦国時代に亘る水田跡や、水路、畦畔、及び道路（里道）等の遺構を発見した。遺構は、古墳時代～江戸時代の溝跡23条、古墳時代～江戸時代の畦畔跡19条、古墳時代～江戸時代の水田跡６～８面、室町時代～戦国時代の道路（里道）跡１条、古墳時代～戦国時代の土壙２基、中世の自然堤防１条である。

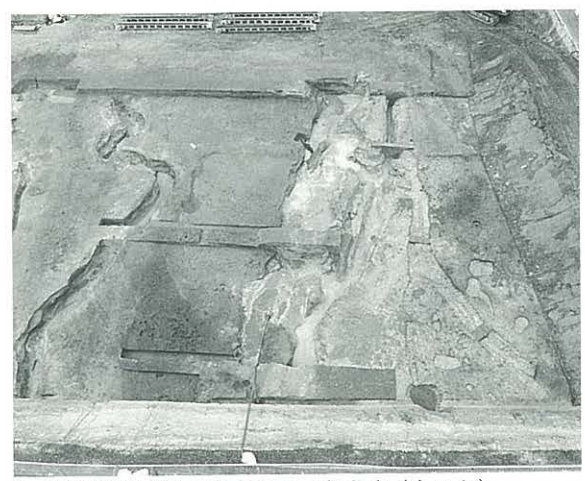
出土遺物　縄文時代の打製石鏃・石斧、古墳時代の須恵器杯・蓋・甕、土師器・甕・鉢・高杯・甑、奈良～平安時代の須恵器杯・蓋、土師器椀、皿、鎌倉時代～江戸時代の土師器皿・杯、瓦質土器、土師質土器、中国製青磁椀・白磁椀、国内産染付等が出土した。

まとめ　七隈川の右岸の自然堤防と舌状台地との間に古墳時代～江戸時代の水田面が形成されていることが判明した。水田開発の時期は、古墳時代と考えられるが、水田に伴なう溝が、古墳時代の居館を区画する溝を切って掘削されていることから、少なくとも６世紀後半以降と考えられる。又、水田耕作地は、数回に亘って東西方向に規模を拡大しており、七隈川の治水や灌漑用水の整備に伴って耕地面積を拡大していくことが明らかとなった。



1．調査地点の位置（74　茶山　2775　1：8000）


2．北側調査区第３面畦畔（東から）


3．南側調査区第４面水田跡・水路跡（南から）

9844 姪浜遺跡群第４次調査（MNH-4）

所在地	西区姪浜３丁目3393	調査面積	119㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	米倉秀紀
調査期間	1998.11.04～11.26	処置	記録保存

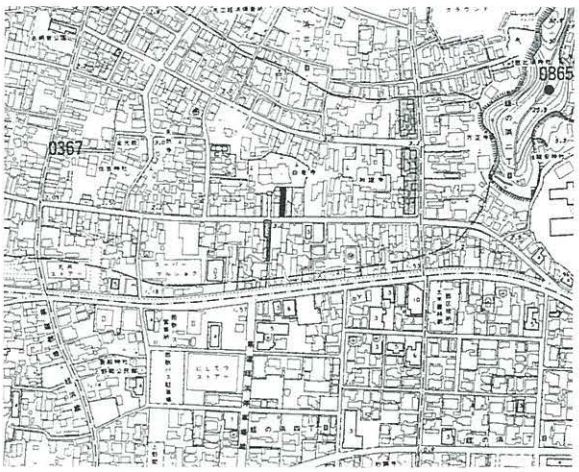
位置・環境　姪浜遺跡群は博多湾岸沿いに連なる砂丘の一つに立地する。調査地点は旧唐津街道沿いの第１次調査地点北側に隣接する。砂丘のもっとも高い地点にあり、周辺では弥生時代の甕棺等が発見されている。

検出遺構　検出した遺構は弥生時代中期後半の甕棺４基、弥生時代後期の大型土壙２基、江戸時代の井戸３基、時期不明の木棺墓１基、他に土壙数基である。甕棺は１基が成人棺で、３基が小児棺である。成人棺の１基は合わせ口と考えられるが、時期不明の木棺墓に切られていた。小児棺のうち１基は単棺で、棺の周りを板石で囲んでいた。残りの小児棺２基は合わせ口である。後期の大形土壙は用途は分からないが、上層を中心に大量の遺物が出土した。

出土遺物　２基の大型土壙から、コンテナ70箱近い遺物が出土した。そのほとんどは弥生時代中期～後期の土器で、赤彩土器も多く含んでいる。またミニチュア土器・滑石製石製品等の祭祀遺物や石錘や石斧等の生活遺物も出土した。他の出土遺物は、宋銭、若干の中世遺物、江戸時代の陶磁器・瓦等で、総量でコンテナ90箱が出土した。

まとめ　姪浜遺跡群は西新・藤崎遺跡と同じ博多湾岸沿いの砂丘上の遺跡ではあるが、調査回数が少なく、実体はよくつかめていないが、これまでの調査で、漢式三角鏃や弥生時代の製塩土器等が出土している。今回の調査では、現時点ではこれらの遺物は確認できていないが、出土遺物が多いため、今後の整理に期待したい。また江戸時代の井戸は、唐津街道沿いの町家に伴うものと考えられる。

調査報告書は2000年度以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（89　姪浜　0367　1：8000）

2. 調査区全景（南から）

3. 板石に囲まれた甕棺

9845 博多遺跡群群第112次調査（HKT-112）

所在地	博多区博多駅前２丁目175	調査面積	50㎡
調査原因	警察署庁舎建設	担当者	田上勇一郎
調査期間	1998.11.11～12.13	処置	記録保存

位置・環境　調査地点は博多遺跡群の南西隅に位置し、房州堀の推定地にあたる。現地表は標高4.5ｍ前後である。房州堀とは「筑前国続風土記」に16世紀末に大友氏の家臣臼杵安房守が掘らせたと伝えられる博多の南境を巡る堀であり、これまで第47次調査で北側の肩を、第57次調査で堀の内部を調査している。

検出遺構　近代の石垣と石組みが検出され、その下方、地表下2.5ｍから堀の堆積土と思われる粗砂混じりの暗青灰色土と堀の南側の立ち上がりと思われる部分を検出した。

堀の南側の立ち上がりは緩やかで、一段テラスがあり、小さな溝が平行している。堀の深さは70㎝程度で浅い。北側の立ち上がりは南肩から14ｍでは検出できず、かなりの幅があるようである。

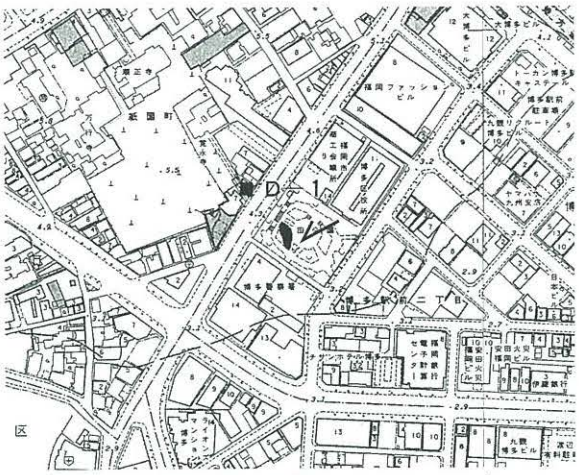
堀より下の層は粗砂とシルトの互層であり、河川の堆積状況を示している。

出土遺物　出土遺物はコンテナケース12箱分である。堀の堆積土には中世から近世までの遺物が含まれていた。堀より下の層からは弥生土器から白磁椀まで出土している。

まとめ　土層観察と出土遺物より、今回の調査区は12世紀頃まで河川であったが、その後安定し16世紀に堀が築かれた。近代になって北側を埋め立て、石垣で護岸を行った。その後、さらにすべてを埋め立て、段差に石組みを築いたと考えられる。

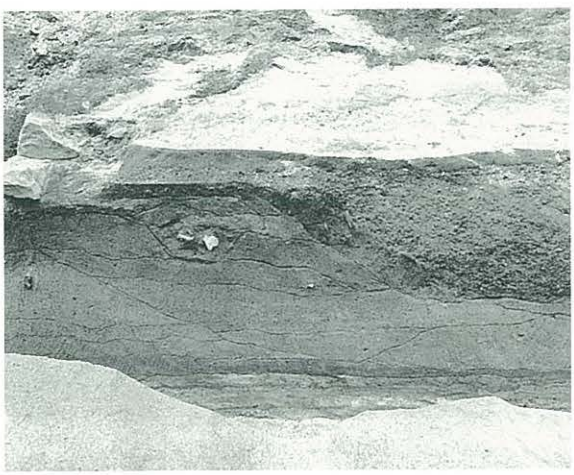
推定位置より15ｍほど南にずれているが、堀の幅や方向、出土遺物から房州堀を検出できたと考えている。

調査報告書は1999年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（49　天神　0121　1：8000）

2．調査区全景（北から）


3．堀南肩土層（東から）

9846 五十川遺跡群第８次調査（GJK-8）

所在地	南区五十川２丁目555	調査面積	18㎡
調査原因	個人専用住宅建替	担当者	小林義彦
調査期間	1998.11.6～11.10	処置	調査後消滅

位置・環境　五十川遺跡群は、福岡平野の中央部を貫流する那珂川右岸の洪積台地上に立地する。この台地は奴国王墓のある須玖丘陵から井尻を経て那珂、比恵へと延びており、縁辺には小規模な開析谷が入り組んで複雑な地形を形成している。この台地上では、旧石器時代から中世までの遺構や遺物が確認されているが、弥生時代から古墳時代、古代にかけての遺構が濃密に分布している。

第８次調査区は、五十川遺跡群の立地する丘陵のほぼ中央に位置する。発掘調査は、道路の拡幅によって消失する西縁部の幅１ｍ、長さ18ｍの範囲でトレンチ状に実施した。

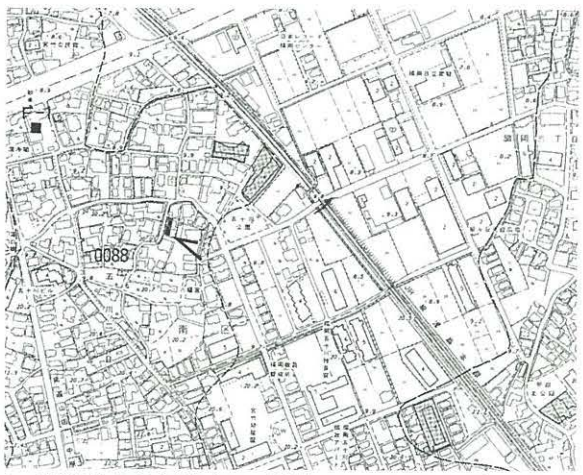
検出遺構　発掘調査では、古代のものと考えられる土壙と柱穴を検出した。

古代；土壙１基、柱穴

土壙は、長さ142㎝、幅60㎝で、平面形は隅丸の長方形をなしている。底面は北側が一段低くなる２段掘りの構造をなし、深さは11～20㎝を測る。また、柱穴の中には掘立柱建物跡と考えられるものがある。棟筋は明らかでないが、柱間は2.1ｍで、約７尺である。柱穴は、直径が25～35㎝で、深さは30～40㎝のしっかりしたものである。

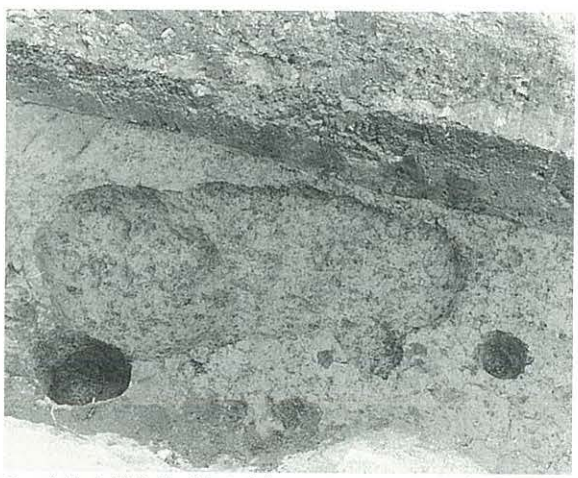
出土遺物　調査範囲が狭小なために遺物は少ないが、古代の土師器片等がコンテナケースに約１箱ほど出土した。

まとめ　発掘調査で検出した遺構は、土壙１基とピットのみで遺構の拡がりや詳細は明らかでないが、弥生時代から古墳時代の遺物が出土していないことや周辺域の調査データからすると、周辺の台地上には古代から中世の遺構が拡がっているものと推察される。



1．調査地点の位置（24　板付　0088　1：8000）

2．調査区全景（南から）


3．１号土壙全景（南から）

9847 有田遺跡群第191次（ART-191）

所在地	早良区小田部３丁目402-2	調査面積	169.5㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	久住猛雄
調査期間	1998.12.7～12.18	処置	記録保存

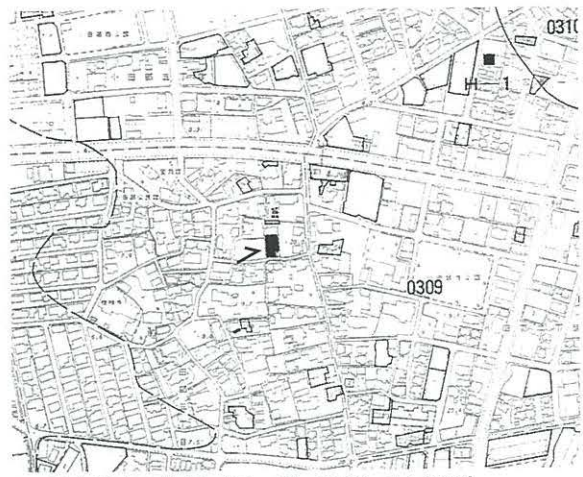
位置・環境　有田遺跡群は早良平野中央の八ツ手状に侵食された洪積台地上に立地する。調査地は、遺跡群の中央やや北寄りに位置する。周囲の調査では、北に接して第93次調査がなされているが、比較的調査の少ない地区である。なお調査地点付近の現標高は10.5ｍ前後である。

検出遺構　厚さ10ｍ前後の表土直下でローム面となり、遺構が検出された。かなりの削平が考えられ、遺構密度は薄く、土壙・柱穴を若干検出した。柱穴は総じて小規模で、調査面積も限られ、建物の復元は困難である。遺物の出土傾向から、多くの遺構は近世以降と思われるが、暗褐色や黒褐色を呈する一部の柱穴は、周辺の調査や出土遺物から、古代～中世の遺構と推定される。

出土遺物　古代～中世の遺物には、古代の須恵器・土師器、中世の土師器（坏・皿）・陶磁器（白磁等）・瓦器等があるがすべて比較的小さな破片で、総量も少ない。弥生土器の破片も僅かにあるが、遺構に伴うものではない。他に近世以降の陶磁器・瓦質土器等がある。遺物の総量はパンコンテナケース２箱分の量である。

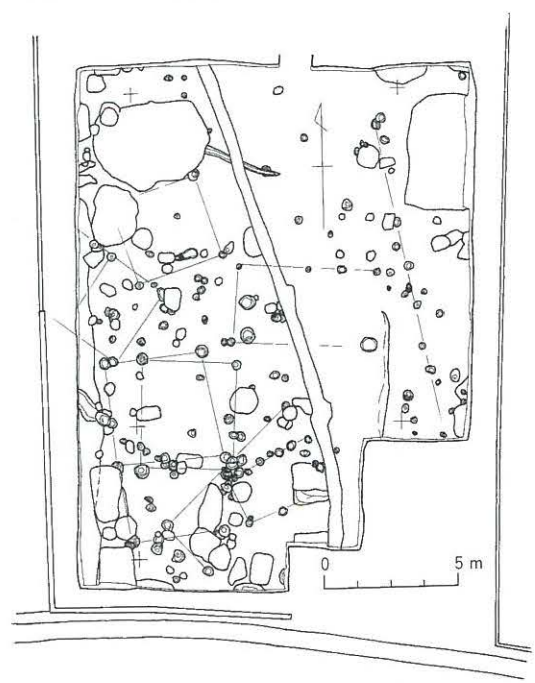
まとめ　以上、本調査地点では、古代・中世・近世の集落の展開が確認され、有田遺跡群の土地利用の変遷の一端が明らかになった。

調査報告書は2001年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（82　原　0309　1：8000）

2. 調査区全景（北から）



3. 調査区平面図（S≒1：300）

9848 堅粕遺跡群第10次調査（KKS-10）

所在地	博多区吉塚一丁目9-7	調査面積	100㎡
調査原因	専用住宅建替	担当者	小林義彦
調査期間	1998.12.7～12.11	処置	記録保存

位置・環境　堅粕遺跡群は、福岡平野の東部を北流する御笠川の河口右岸に弧状に形成された砂丘上に立地し、この砂丘上には古代から中世の集落跡が営まれている。第10次調査区は、古砂丘の東部に位置し、中世の建物跡や土壙等の集落遺構を主体とする第９次調査区の東に隣接している。

検出遺構　調査地は、既存の建物によって著しく攪乱されていたが、表土層下30～40㎝の標高3.5ｍの砂丘面上で土壙とピットを検出した。

中世；土壙５基、柱穴

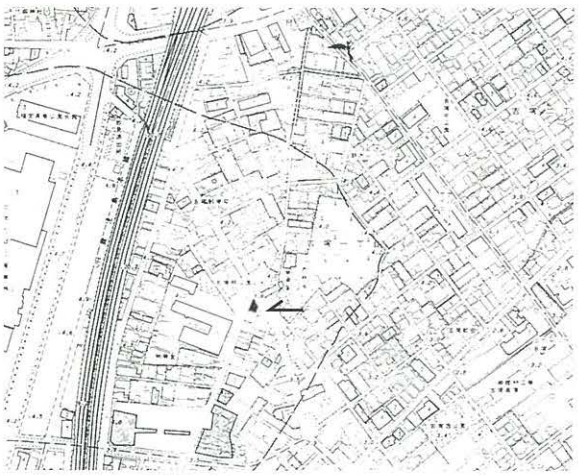
５基の土壙のうちで、調査区の中央に位置する１号土壙は、直径が2.75ｍの円形プランをした大型のもので、深さは90㎝である。壁面は急峻に立ち上がり、底面は浅い凹レンズ状をなしている。上層面は近代の攪乱を受けていた。

２号土壙は、長さが190㎝、幅が120㎝の隅丸長方形プランを呈するもので、深さは31㎝である。底面は平坦で、中央部は浅く凹む。

３号土壙は、長さ230㎝、幅155㎝の長方形プランをなし、深さは40㎝である。底面は凹レンズ状で、中央部には直径35～50㎝、深さ30㎝のピットがある。

出土遺物　土壙からは土師器片や陶磁器片が出土しているが、量的には少ない。また、弥生式土器片２点も出土している。

まとめ　検出した土壙群は、いずれも中世のものと考えられ、西隣する第９次調査区を中心とする砂丘上一帯には中世の集落域が拡がっていたものと考えられる。また、２基のピットからは弥生式土器片が出土しており、周辺域には弥生時代の遺構が拡がる可能性も示唆される。



1. 調査地点の位置（35　吉塚　0122　1：8000）

2. 調査区全景（西から）

3. １号土壙全景（西から）

9849 下月隈鳥越遺跡第2次調査（STO-2）

所在地	博多区大字下月隈904-1他	調査面積	226㎡
調査原因	空港整備	担当者	榎本義嗣
調査期間	1999.1.6～1.29	処置	記録保存

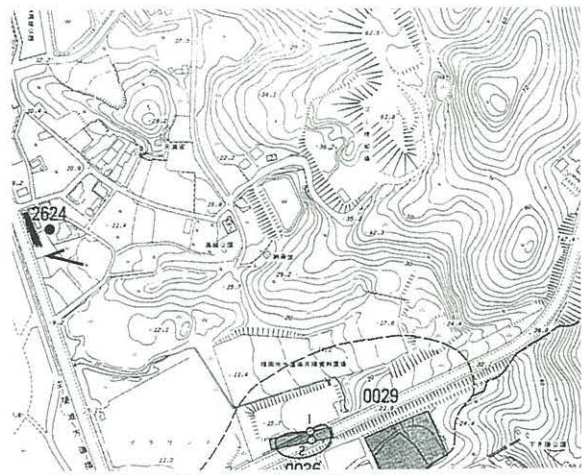
位置・環境　下月隈鳥越遺跡は福岡平野の東側を画する月隈丘陵から北西に派生する舌状支丘端都及び沖積地に立地する。今回の調査区は丘陵端部に位置するが、宅地造成による削平を受けている。遺構は標高約9.3ｍを測る第三紀層風化土上面で検出した。

検出遺構　6条の溝を確認した。いずれも重複が認められるものの、方位をN-30°-W前後に有し、並走するものである。この溝のうち、SD021、SD026は比較的規模の大きなもので、021は幅1.6～2.0ｍ、深さ0.6ｍを測り、断面逆台形を呈する。また、026は第1次調査で確認されたSD001の延長と考えられる溝で、調査区南西部でその東肩を検出した。幅は推定約2ｍ前後、深さは1.2ｍを測る。なお、021は026を切っている。他の4条は幅0.5～0.8ｍ、深さ0.1～0.2ｍ程度の小規模な溝である。

出土遺物　各溝ともに遺物は少量かつ細片で、コンテナ1箱未満の出土量にとどまった。土師器、須恵器がある。

まとめ　今回の調査で得られた出土遺物は時期比定の材料とはならないが、前述した第1次調査SD001からは8世紀前半の遺物が出土している。また、その方位が条里方向に合致することから水田用水路あるいは区画としての機能が類推されている。今回の調査で検出した複数の溝も同様の方位を有し、重複関係にあることから当初のSD001（第2次SD026）に規制を受けながら、継続的に掘削を行ったものと考えられる。

調査報告書は2000年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（10　下月隈　2778　1：8000）

2．調査区全景（北から）

3．溝土層断面（北から）

9850 中山遺跡範囲確認調査（NAY）

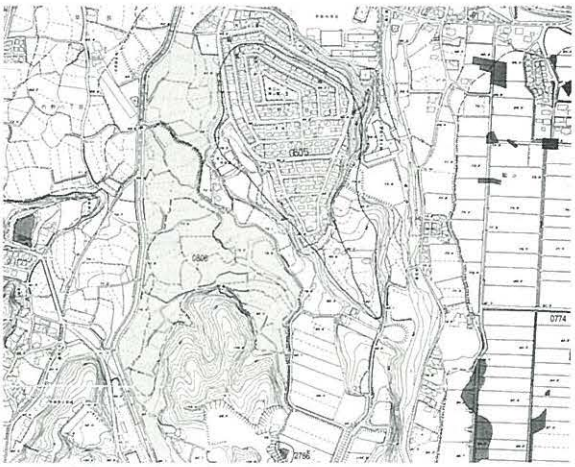
所 在 地　早良区内野７丁目、大字西地内　　**調査面積**　550.5㎡
調査原因　圃場整備事業に伴う範囲確認調査　　**担 当 者**　大塚紀宜
調査期間　1998.12.7～12.25　　**処　　置**　埋め戻し保存

位置・環境　試掘調査対象地は室見川上流東岸域の扇状地上にあたる。東側を舌状に北に延びる丘陵によって区切られ、西側は大谷川で区画される。現況は水田で、削平は少ないと思われる。今回の調査は1999年度実施予定の本調査に伴うもので、調査区内の遺構の有無と調査対象範囲を確定することが目的であった。

検出遺構　調査区全体にわたって、72本の試掘トレンチを設定して調査を行った。その結果対象区内の数地点で遺構が検出された。検出した遺構の種類はピット、土壙、焼土壙が中心である。遺構面は明褐色～薄褐色粘質土上面で、遺構覆土は薄灰色粘質土のものが主体となる。遺構の分布は山際の比較的高所と、やや低位の斜面部分に広がっている。

出土遺物　出土遺物の量は各試掘トレンチを通じて少なく、青磁小片、土師器小片、縄文土器小片、黒曜石が検出されているが、その多くが１～２㎝大で磨滅しており、詳細のわかるものが少ない。

まとめ　対象区内には散漫であるが、広い範囲にわたって遺構が分布することが判明した。遺構の時期は中世を主とするものと考えられ、小規模な散村が存在していた可能性がある。縄文時代の遺物が出土していることから、同時期の遺構の存在も考えられる。



1. 調査地点の位置（早良　17　内野　0806　1：15000）

2. 調査対象地区遠景（南から）

3. 23トレンチ（東から）

9851 元岡遺跡群第９次調査（MOT-9）

所在地	西区大字元岡字瓜尾	調査面積	190㎡
調査原因	九州大学統合移転	担当者	松浦一之介
調査期間	1998.11.2～12.10	処置	記録保存

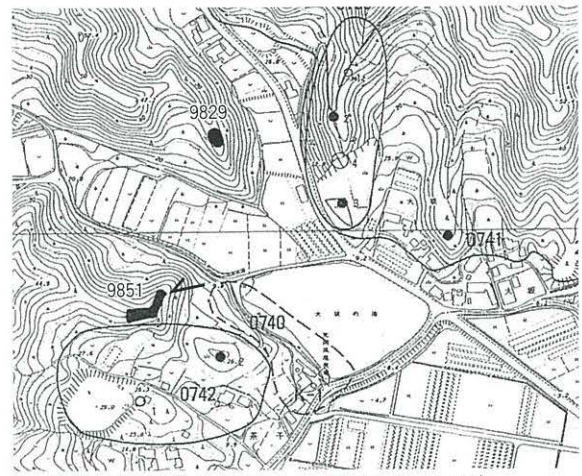
位置・環境　調査地点は、県道桜井太郎丸線の西側の櫛歯状に開析する標高30～40ｍ程度の舌状丘陵上に立地している。

検出遺構　路査では５基の古墳が推定されたが、発掘調査の結果古墳ではなく、弥生時代の竪穴住居跡２棟と近世墓４基を検出した。

出土遺物　出土遺物は、住居跡から弥生後期の年代を示す土器が少量と、近世墓から陶磁器、銅銭、煙管等が出土している。総量はコンテナ箱に２箱である。

まとめ　住居跡は削平のため規模が判然としないが、２棟とも長方形プランを呈する。近世墓の墓壙はいずれも改葬済であったが、元岡称念寺の旧墓地であることが判った。

調査報告書は2002年刊行予定である。



1．調査地点の位置（129　　2782　1：8000）

2．１号竪穴住居跡完掘状況（西から）

9852 大橋E遺跡群第6次調査（OHE-6）

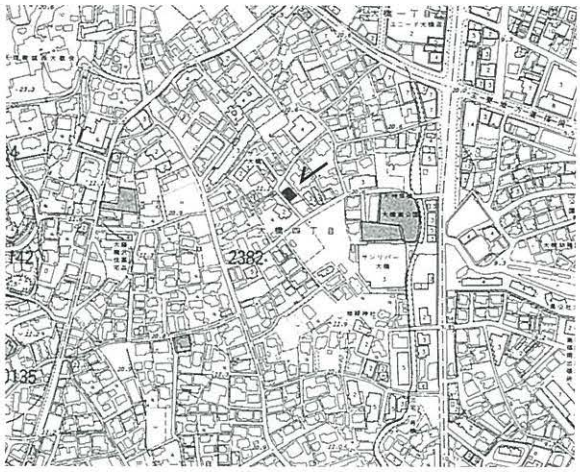
所在地	南区大橋4丁目670-8	調査面積	48㎡
調査原因	個人専用住宅建築	担当者	本田浩二郎
調査期間	1999.1.7～1.18	処置	記録保存

位置・環境　大橋E遺跡群は、福岡市南区大橋4丁目付近に所在する遺跡で、これまで5次にわたる発掘調査が行われている。遺跡群は福岡平野を貫流する御笠川の西岸500ｍほどに位置しており、現地表面の標高は約10ｍを測る。これまで行われた調査では縄文時代後期から中世にかけての遺構・遺物が検出されているが、遺跡の詳細な性格はいまだに明確ではない。第3次調査では出土遺物から周辺に官衙施設の存在が想定されているが、位置等は特定されていない。

検出遺構　調査地点の現状は宅地であり、現地表面の標高は10ｍ前後を測る。遺構面となる黄褐色シルト層まで重機による掘り下げを行い、調査に着手した。発掘調査は地下室建設予定部分のみを対象として行った。遺構面には大きな撹乱はなく、良好な状態で遺存していた。検出した遺構は井戸1基、建物としてはまとめられない柱穴群等である。

出土遺物　遺物は中世の貿易陶磁器、土師器等が1箱出土した。いずれの土器も細片資料であり、遺存状態は良くない。

まとめ　第6次調査地点は調査面積が狭かったこともあり、建物の復元も不可能で遺構全体の性格は把握できなかったが、中世期には集落が展開していたことが判明した。遺構面とした黄褐色シルト層は河川による二次堆積層で、その下には数ｍに及ぶ粗砂層が堆積していた。第4次調査では、この黄褐色土層から縄文時代後期の土器が出土しているが、本調査地点では検出されなかった。また、第2次調査で可能性があげられていた官衙施設に関連する遺構・遺物の検出はなかった。



1. 調査地点の位置（39　三宅　2382　1：8000）

2. 調査区全景（北から）

3. 井戸検出状況（北東から）

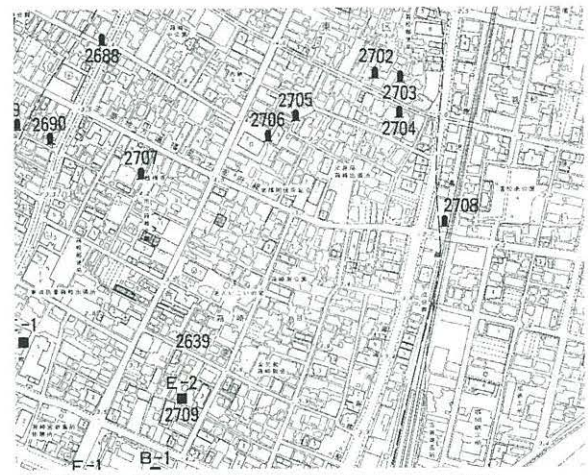
9853 箱崎遺跡第16次調査（HKZ-16）

所在地	東区箱崎１丁目2725	調査面積	56㎡
調査原因	共同ビル建設	担当者	力武卓治
調査期間	1999.1.18～1.29	処置	ビル建設で破壊

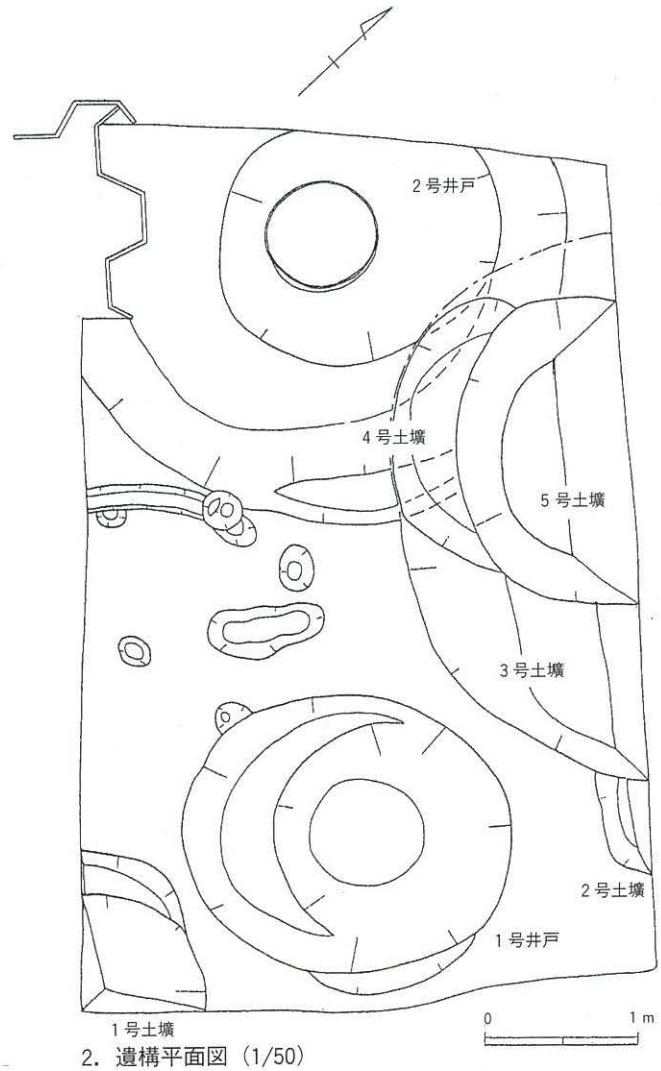
位置・環境　博多湾の東岸には、東西約500ｍ、南北約１kmの南北に細長い砂丘がある。この砂丘に点在する遺跡を箱崎遺跡と呼んでいるが、今回の調査は16次にあたる。砂丘のはぼ中央には、923年創建という筥崎宮があり、今回の調査地点は、筥崎宮から北に約130ｍに位置している。調査区のすぐ西側は、平成３年９月にすでに発掘調査（第５次調査）が行われている。

検出遺構　第５次調査では、掘立柱建物、柵列、井戸、土壙等の遺構が検出され、出土遺物の検討から鎌倉～江戸時代にかけての年代が考えられている。今回は小面積ということもあって、井戸２基、土壙５基、小ピット６個、溝１条にとどまった。２基の井戸はいずれも直径約2.5～3.5ｍの円形に掘り込み、壙底に直径約80cmの桶を据えている。５基の土壙は、発掘区壁に入り込んでいるので全形がわからないが、井戸の可能性が高い。

まとめ　中国陶磁器、国産陶磁器を初めとして石製品、金属製品等多様な遺物がコンテナ20箱出土した。第５次調査と合わせて筥崎宮を中心にして形成された町家のようすが一層明らかになったのは成果の一つである。特に漁網の石錘や鉄製ヤス（？）が出土したことは、海岸部に立地する本遺跡の特徴を示すもので、当時の生業を想像することができよう。



1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　1：8000）



2．遺構平面図（1/50）

9854 元岡遺跡群第10次調査（MOT-10）

所　在　地　西区大字桑原字柳ヶ浦　　調査面積　1,336㎡
調査原因　九州大学統合移転　　担　当　者　松浦一之介
調査期間　1999.1.6～3.31　　処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は、今津湾に向かって東走する大原川上流の右岸に位置し、河川によって開析された標高20ｍ程度の谷部に立地する。

検出遺構　近代の水田に伴う溝が検出されたのみで、遺構は確認されなかった。

出土遺物　須恵器、土師器、青磁の細片が出土したほか、神子柴型と考えられる局部磨製石斧１点と、砂礫層から剥片尖頭器１点が出土した。総量はコンテナ１箱分である。

まとめ　出土した遺物は二次堆積と考えられる。
調査報告書は2001年度に刊行予定である。

1．調査区全景（東から）

9855 元岡遺跡群第11次調査（MOT-11）

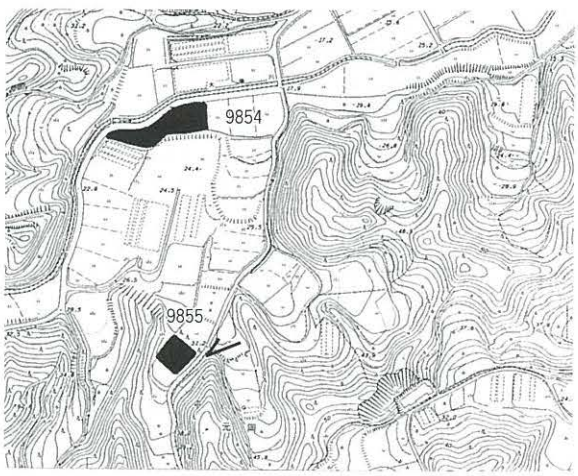
所　在　地　西区大字桑原字柳ケ捕　　調査面積　1,240㎡
調査原因　九州大学統合移転　　担　当　者　松村道博
調査期間　1999.1.6～3.20　　処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は、第10次調査の南300ｍの位置にあり標高30ｍの谷部にある。

検出遺構　丘陵西側斜面にピット群、溝状遺構３条及び古墳時代後期の土器溜りと包含層を確認した。土器溜りは丘陵裾に幅１ｍ、長さ10ｍの範囲に確認出来た。掘り込みはなく包含層の上部が削平された可能性もあるが、その部分だけにまとまって出土したので土器溜りとした。

出土遺物　土器溜りから須恵器、土師器と共に鉄製「鍬先」、鉄鏃が各１点出土した。遺物総量はコンテナ６箱分である。

まとめ　西側の丘陵裾部は現代の開墾により大幅に本来の地形を損なっているのでそのところに集落が営まれていた可能性がある。
調査報告書は2002年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（129　桑原　2782　1：8000）

9856 麦野C遺跡群第5次調査（MGC-5）

所在地	博多区麦野6丁目12-5他	調査面積	871.1㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	本村浩二郎
調査期間	1999.1.25～1999.5.21	処置	記録保存

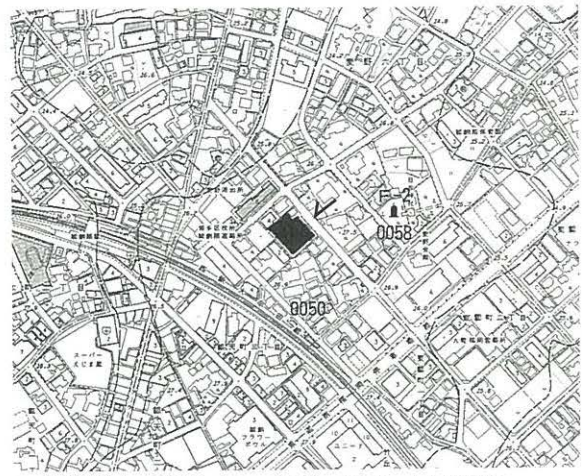
位置・環境　麦野C遺跡群は、東を大野城市、西を春日市に挟まれた福岡市の最南端に位置する。地理的には春日丘陵の東辺にほぼ平行して延びる台地上に立地している。この台地には北西方向から多くの谷が入り込んでおり、数条の舌状台地状の地形をなす。周辺には麦野A・B遺跡群、南八幡遺跡、雑餉隈遺跡等が展開するが、これらの遺跡群の地形的な境界は現在のところ判然としない。

検出遺構　麦野C遺跡群での発掘調査は、本調査で5次を数える。これまでの調査で検出された遺構・遺物は旧石器時代から中世後半期にまで多岐にわたる。第5次調査地点の現状は宅地であるが、これまで大幅な地下げを受けておらず、周辺よりも1m以上高く残されている。調査区の現地表面の標高は18mを測る。調査は遺構検出面となる鳥栖ローム層までを重機により掘り下げて行った。調査の結果、大別して三時期の遺構を確認した。第一に弥生時代前期末の小児用甕棺、中期未から後期前半にかけての竪穴住居6軒以上、第二に古代の竪穴住居跡45軒以上、第三に中世の土壙墓、方形竪穴状遺構、溝3条である。

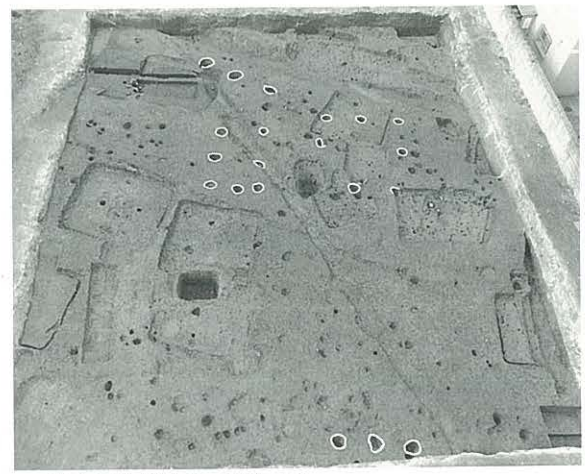
出土遺物　遺物は弥生土器、石器、土師器、須恵器、貿易陶磁器、鉄器等コンテナで47箱分が出土した。

まとめ　弥生時代に属する遺構はこれまで麦野C遺跡群では確認されておらず、はじめての検出となった。古代の住居群は、短期間のうちにほぼ同じ場所に数回にわたって建替えられており、何らかの社会的規制の存在が想定される。これらの住居は竈の有無、設置箇所から数時期に分類される。周辺の調査においても同時期の住居群が確認されており付近一帯に集落が展開するものと考えられる。

なお、調査報告書は1999年度に刊行の予定である。



1. 調査地点の位置（12　麦野　0050　1：8000）


2. 調査区北側全景（西から）

3. 調査区南側全景（北から）

9857 部木古墳群第２次調査（HEK-2）

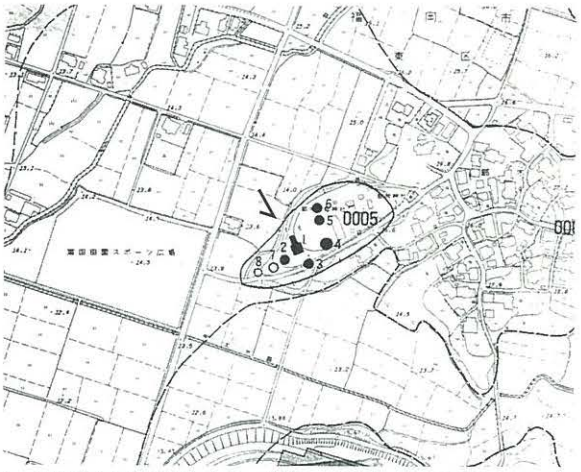
所在地	東区蒲田３丁目761～765番	調査面積	4,500㎡（発掘面積10㎡）
調査原因	重要遺跡確認調査	担当者	長家伸
調査期間	1999.1.18～3.5	処置	現状保存

位置・環境　部木古墳群は三郡・若杉山地から西側に伸びる台地の西側端部にあたり、砂礫台地が沖積扇状平野に落ち込む先端部分に立地している。古墳群は８基が確認されており、１号墳については前方後方墳として知られている。今回の調査は古墳群全体の現況測量調査と１号墳の確認調査を目的として行った。

検出遺構　調査はまず現況の下草除去から行い植林樹木を除いた清掃作業後に踏査・測量を行った。この結果、従来８基からなる古墳群とされていたが、西側先端部分で更に１基高まりを確認し古墳の可能性が高いため９号墳とした。１号墳は現況で墳長23ｍ、後方部幅16ｍ、前方部幅6.5ｍを測る前方後方墳と確認できた。前方部前面を除いた墳丘周辺には周濠・周堤が形成されており、周堤まで含めた全長は30ｍである。また１号墳の墳丘確認を目的として前方部から周堤を含めたトレンチ調査を行った。これによると5～15㎝の表土を除去するといずれも地山の礫まじりの暗赤褐色土が露出した。一部のトレンチ調査であるため明確にはしがたいが、前方部は基本的に地山の削り出しにより成形されたと考えられる。

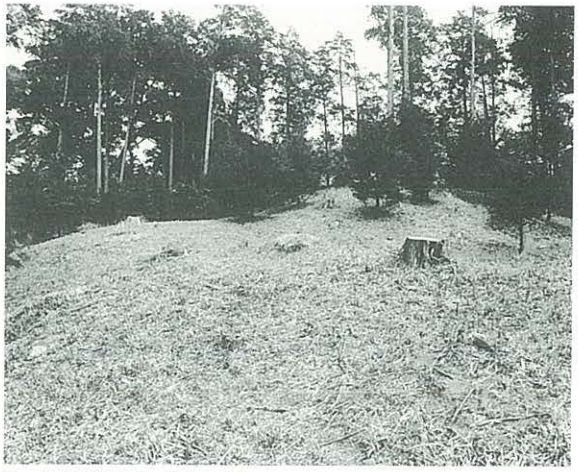
まとめ　遺物がトレンチ内の黒曜石剥片１点のみで、古墳群の時期は不明瞭であるが、対象地内で石材が全く確認できず円墳が比較的低平なものであること等から埋葬主体が木棺直葬の可能性も考えられ、前方後方墳である１号墳を中心とした古墳群の形成が古墳時代前期に遡る可能性もあろう。

調査報告書は1999年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（2　蒲田　0005　1：8000）

2. 調査区全景（北から）



3. １号墳全景（西から）

9858 那珂遺跡群第67次調査（NAK-67）

所在地	博多区那珂一丁目148	調査面積	1,420㎡
調査原因	社員住宅建替	担当者	小林義彦
調査期間	1998.1.18～6.30	処置	記録保存

位置・環境　那珂遺跡群は、福岡平野の中央部を貫流する那珂川右岸の洪積台地上に立地する。この台地上には、弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡や貯蔵穴等の集落跡と甕棺墓や方形周溝墓、前方後円墳等の墳墓群が濃密に分布している。第67次調査区は、標高９ｍの丘陵上にあり、旧地形から約１ｍほどが削平されている。

検出遺構　第67次調査では、弥生時代前期から中期の集落跡や墳墓群と古墳時代の集落跡の２時代の遺構を検出した。

・弥生時代前期から中期

貯蔵穴17基　甕棺墓15基　土壙墓8基

土壙20基　落とし穴１基　環濠１条

・古墳時代

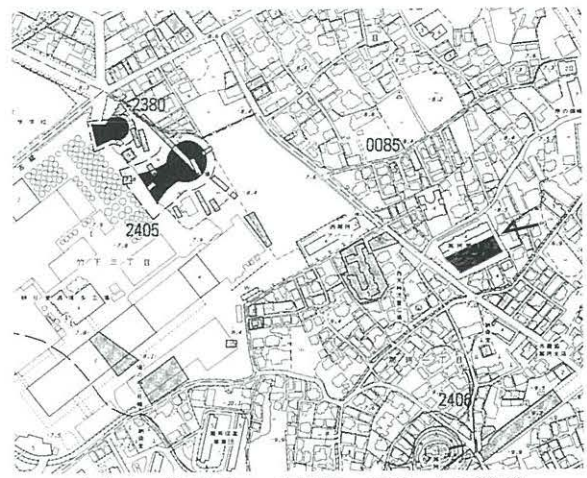
竪穴住居跡12棟　掘立柱建物跡３棟

弥生時代の遺構は、前期後半から中期前半の環濠や貯蔵穴と中期後半の甕棺墓群からなる。このうち環濠は濠幅が4.5ｍ、深さが２～2.5ｍの「V」字溝で北西部に陸橋がある。環濠の内法は東西が60ｍ、南北が80ｍの楕円形に復原される。また、貯蔵穴は、環濠の内外で検出されている。一方、甕棺墓は環濠の北と西の２ケ所で検出されている。

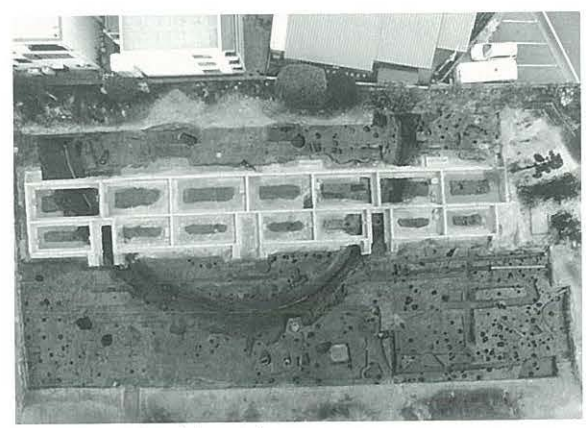
古墳時代の遺構は、竪穴住居跡と掘立柱建物跡があり、前期と後期の２時期に大別される。前期の住居跡は、壁下にベット状遺構が巡る。一方、後期の住居跡は壁際にカマドを付設している。

出土遺物　遺物は、各遺構から弥生式土器や石器、土製品、土師器、須恵器等がコンテナケースに70箱出土した。

まとめ　環濠集落の発見は、那珂丘陵で２例目であり、時期的にも第37次調査の二重環濠に続き、丘陵内での拠点の移動が想起される。



1．調査地点の位置（37　東光寺　0085　1：8000）


2．調査区全景（南から）

3．５・６号甕棺墓（東から）

9859 博多遺跡群第113次調査（HKT-113）

所在地	博多区下呉服町2-29	調査面積	190㎡
調査原因	社屋建設	担当者	力武卓治
調査期間	1999.2.8～4.26	処置	記録保存

位置・環境　博多遺跡群は、博多駅を南端にして西の博多川、東の石堂川に挟まれた範囲を呼んでいるが、3列の砂丘からなり、海岸部から「息の浜（おきのはま）」、2、3列目を「博多浜」と呼んでいる。今回の調査地点は、「息の浜」の北東縁に当たり、試掘調査の土層観察からも中世末から近世の遺構の存在が期待された。

検出遺構　発掘作業は、試掘調査結果を踏まえて13×19mの調査区を設定し、バックフォーで深さ－180mまで掘り下げて遺構検出作業を行った。

この結果、上下2枚の遺構面があり、1面では、石組土壙16基、井戸4基、瓦溜め1基、2面では、石組土壙2基、土壙26基、ピット等の遺構を検出した。

石組土壙は、一辺約150～180㎝、深さ約50～100㎝の方形土壙の四壁に人頭大の自然角礫を数段積み上げている。2列に整然と並んでおり、その方向は、「太閤町割り」と同じである。井戸は、井筒に瓦と桶の2様がある。1号と2号は切りあっており、桶井筒の方が古い。

瓦溜めは、多量の瓦を投棄しているが、軒先瓦、道具瓦が少なく、屋根全体ではない。土壙は、主に2面で検出したもので、貝殻や馬と思れる骨を捨てた土壙があり、当時の食生活や信仰等を知ることができる。

まとめ　遺構の方向、出土遺物から、「太閤町割り」以降の年代が考えられ、「息の浜」における町家の形成解明に重要である。なお旧町名は「鏡町」で、御神鏡を鋳造したり研磨する職人が居住していたことに由来するという。出土遺物の中に青銅鋳造に用いたと思われる坩堝（るつぼ）や青銅片が数点あり、町名の由来を裏付けるのかもしれない。

調査報告書は1999年度に刊行予定である。

1. 調査地点の位置（48　千代博多　0121　1：8000）

2. 整然と並んだ石組土壙（北から）

3. 井戸掘り下げ作業（東から）

9860 浦江遺跡確認調査（URA）

所在地	西区大字浦江地内	調査面積	3146.4㎡
調査原因	圃場整備事業に伴う事前確認調査	担当者	池田祐司・大塚紀宜
調査期間	1998.2.15～3.31	処置	調査後埋め戻し保存

位置・環境　調査対象地は室見川西岸の河岸段丘先端部から中位斜面部分に広がる段丘面で、東に緩く傾斜する。浦江遺跡群として現在までに４次の本調査を行っており、弥生時代甕棺墓、古墳時代の小型円墳、古代の集落等を検出している。

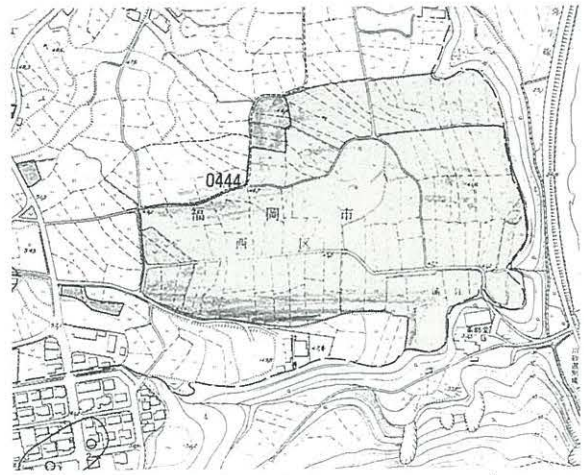
検出遺構　調査区全体の遺跡の分布状況を確認する調査として、調査対象地内に92本のトレンチを設定定し、試掘調査を行った。その結果、東側の台地先端部に当たる部分で遺構・遺物ともに密に検出される。検出した遺構は甕棺墓、ピット、溝等で、耕作土直下での検出が多い。甕棺墓は台地東端の室見川に面した地区で検出される。

対象地西側では削平が著しく、遺構・遺物ともに検出量は少ない。特に南西側では埋没谷があると見られ、地盤が軟弱になる。

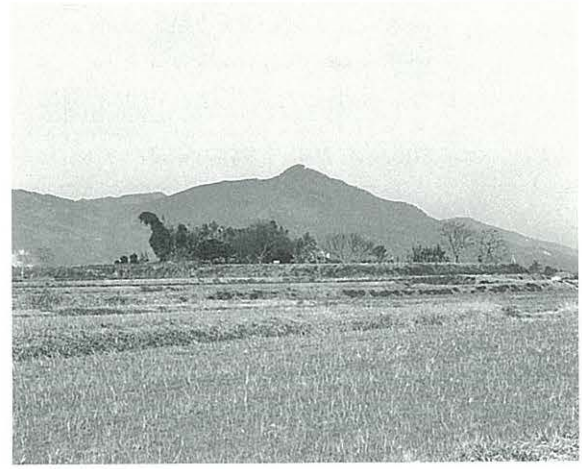
また調査対象地の中央の独立段丘は古墳の可能性があるため確認調査を行った。確認調査は伐採後、周辺の1/100平板図測量及びトレンチ調査を行った。各トレンチとも表土直下で地山面が検出され、削平を大きく受けていることが確認できた。段丘最高面で中世末～近世の大型の土壙を２基検出した。１基は径２ｍの円形、もう１基は2.1ｍ×1.8ｍの方形を呈する。段丘中段ではピットを検出した。

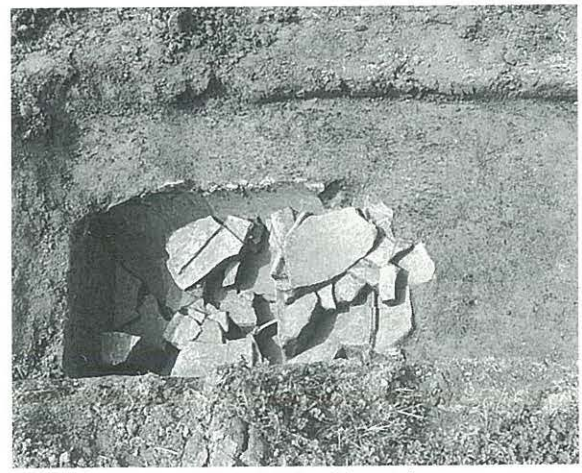
出土遺物　総量でパンケース１箱相当の遺物を採集する。遺物は弥生中期と中世の遺物が主になり、古墳関係の遺物は少ない。遺物の出土は台地東側の遺構密集地区で多い。中世遺物は浦江谷第１次２区の中世墓群と関連があるとみられる。

まとめ　段丘東側で遺構の密度が高く、特に東端地区で甕棺墓群が分布すると考えられる。独立段丘については段丘周辺を含め、古墳を裏付ける直接の遺構・遺物は出土しないが、大型土壙を含め、遺構の存在が確認されている。



1．調査地点の位置（94　金武　0444　1：8000）


2．調査地区遠景（南から）


3．35トレンチ甕棺墓出土状況（東から）

9861 那珂遺跡群第68次調査（NAK-68）

所在地	福岡市博多区竹下５丁目94	調査面積	599㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	久住猛雄
調査期間	1999.2.12～3.31	処置	記録保存

位置・環境　那珂遺跡群は那珂川と御笠川にはさまれた洪積台地上に立地している。調査地点は、遺跡群の中央やや南寄りに位置する。周囲では、北東200ｍに那珂八幡古墳が、北500ｍには東光寺剣塚古墳が立地している。調査地周囲の現状は宅地で、現標高は8.6ｍ前後で、南および東に向かって若干高くなっている。

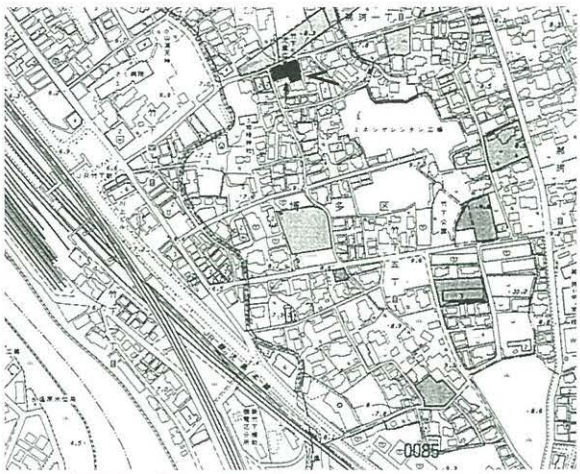
検出遺構　現地表下の厚さ40～70㎝前後のバラス・客土・旧表土を除去したところで橙色の鳥栖ローム面となり、この面で遺構を検出した。調査地は遺構の深さやローム土の特徴から１ｍ近い削平が考えられ、また近代以降の撹乱が著しく、遺構の残存状況はあまり良好とは言えなかった。

しかし、次のような各時期の遺構が検出され、本来は濃密な遺構の分布があったと想定できよう。検出した遺構は、中世末期の大溝・地下式土壙、古代の井戸２基、弥生～古墳時代・古代の柱穴多数（建物６棟以上を復元）、土壙（各時期）、時期不明の竪穴住居１棟（貼床のみ残存）等である。

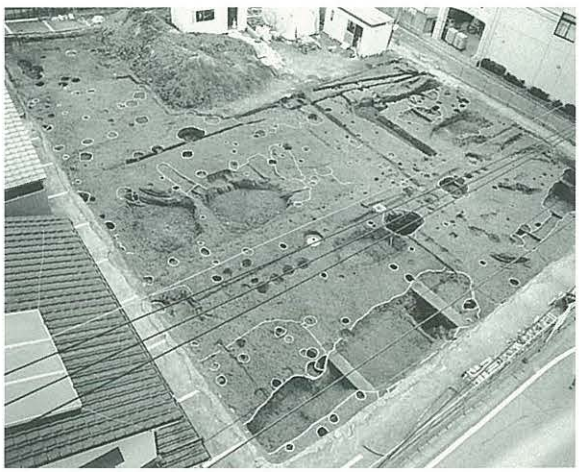
出土遺物　遺物は、奈良時代末の井戸（SE05、方形板組）からきわめて多量の土師器・須恵器が出土したのが特筆される。良好な一括資料と言えよう。その他、平安時代初めの井戸と中世の大溝から比較的多数の遺物が出土しているが、他の遺構からの出土は散漫である。出土遺物には、弥生時代から古代の土器（弥生土器、土師器、須恵器）、中世の陶磁器・土師器、古代～中世の瓦が多数占める他、鉄製品、鉄滓、斎串状木製品等がある。

調査区の南東拡張区では、柱穴掘方一辺70㎝以上で、柱間が３×２間以上（３×４間か）の大型掘立柱建物が検出された。倉庫ないし官衙関連建物であろう。６～７世紀のものと考えられるが、「那津官家」や「筑紫大宰」との関連を含めて、今後の周辺の調査は注意を要すべき地区であろう。

調査報告書は2000年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（38　塩原　0085　1：8000）


2. 調査区全景（北東から）

3. 南東拡張区SB07大型建物（南から）

9862 諸岡Ｂ遺跡群第20次調査（MRB-20）

所在地	博多区諸岡２丁目５、７	調査面積	207.6㎡
調査原因	自宅兼賃貸共同住宅建設	担当者	大庭康時
調査期間	1999.2.1～2.17	処置	記録保存

位置・環境　本調査区は、諸岡Ｂ遺跡群が占地する諸岡川西岸の中位段丘面の東側斜面に位置する。周辺の既往の調査で、旧石器時代から中・近世に及ぶ遺構・遺物の存在が確認されている。

検出遺構　検出面は、現地表下数cm～30cmと浅く、撹乱等で消滅した遺構も少なくないものと推測される。

検出した遺構は、井戸・土壙・柱穴・溝等である。遺物の出土は少なく、柱穴の中には時期を決めがたいものもあるが、おおむね中世から近世にかけての遺構を発掘調査したものと考えられる。

13世紀頃と思われる井戸は、細竹を方形に立て並べて井側とするが、深く、半ば調査区外に出ていたため、最下部まで完掘できなかった。

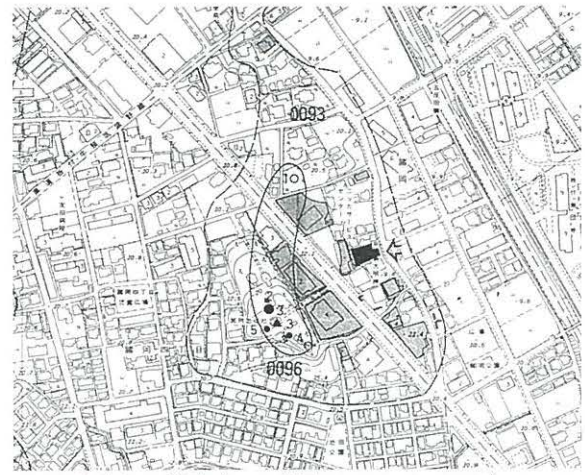
調査区東辺近くで検出した16世紀代の溝は、過去の調査区の同時期の溝とつながり、台地の裾を巡るものであろう。

土壙では、14世紀前半頃の廃棄土壙を１基確認している。

出土遺物　土器・陶磁器がコンテナケース２箱、木杭等の木製品が２箱出土している。

まとめ　中世集落の一端を調査したものと考えられる。現況で、第１次調査地点である西側の隣接地とは３ｍ以上の崖をなし、調査区の西側３分の２ほどでは鳥栖ローム層は完全に削平されていた。それにもかかわらず、この部分でも中世の柱穴が遺存しており、この削平＝造成が中世に遡ることが考えられる。古代以前の遺構・遺物がまったくみられないのは、このためであろう。

調査報告書は2000年度以降に刊行予定である。



1．調査地点の位置（25　井尻　0093　1：8000）

2．調査区全景（北から）

3．中世井戸井側（南から）

9863 上月隈遺跡群第３次調査（KTG-3）

所在地	博多区月隈３丁目地内	調査面積	170㎡
調査原因	公園建設	担当者	榎本義嗣
調査期間	1999.2.15～3.31	処置	記録保存

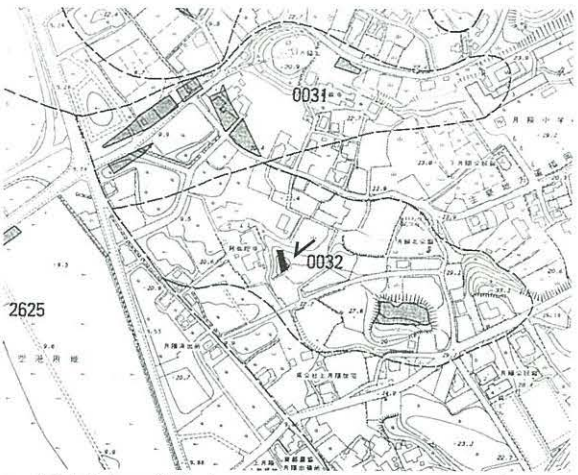
位置・環境　上月隈遺跡群は福岡平野の東側を画する月隈丘陵から北西に派生する支丘上に立地する。今回の調査区は丘陵端部の尾根線西側斜面の一部に位置し、標高約18～20ｍを測る。当該地は旧地形が遺存するものの、周辺は土取りによる地形の改変がすすみ、調査区周囲は西側斜面を除き、崖面を形成する。花崗岩風化土を基盤とするが、腐植土下には赤黄褐色粘質土が堆積する。

検出遺構　弥生時代の甕棺墓９基、土壙墓10基、古墳時代の竪穴住居１軒、中世後半期の溝３条が主な検出遺構である。甕棺墓はすべて中期後半の立岩式に該当するもので、調査区内では尾根線上に２基ずつが並列し分布する。この墓域中の北端に位置する７号甕棺墓（単棺）の棺内には赤色顔料が塗布され、中細銅剣１口、ガラス製管玉20数個が副葬されていた。この墓壙は他の甕棺墓と隔絶した規模を有し、約2.5×３ｍの長方形プランで、底面までの深さは約３ｍを測る。また、口縁部の周囲には粘土による目張りを行い、木蓋を施したと考えられる痕跡が確認できた。土壙墓は１基のみが甕棺墓に切られるものの他は重複せずに分布する。丘陵高所では尾根線に並行し、端部に位置するものは直交方向に占地する。中世の溝は山城関連の堀切りと考えられ、１条は尾根上で「Ｌ」字状に折れる薬研堀である。

出土遺物　コンテナ数にして41箱が出土した。弥生土器、甕棺、須恵器、輸入陶磁器等がある。

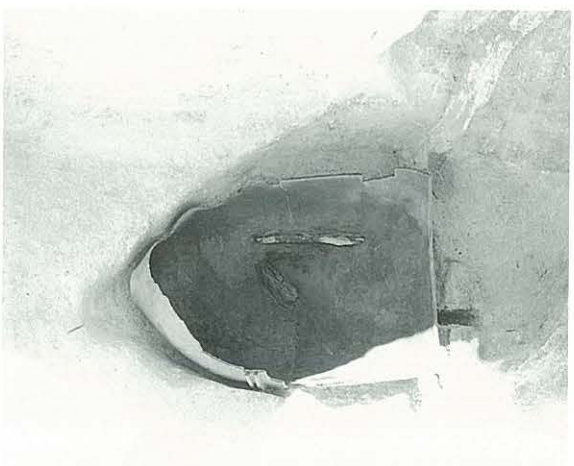
まとめ　７号甕棺墓の確認は福岡平野の社会構造を考察する上で注目される。また、中細銅剣の副葬例は少数であり、その生産を含めた北部九州内での在り方については検討の必要がある。

調査報告書は1999年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（10　下月隈　0032　1：8000）

2. 調査区全景（北から）



3. ７号甕棺墓（東から）

9864 箱崎遺跡第17次調査（HKZ-17）

所在地	東区箱崎１丁目20-19	調査面積	40㎡
調査原因	社屋建設	担当者	長家　伸
調査期間	1999.3.8～3.31	処置	記録保存

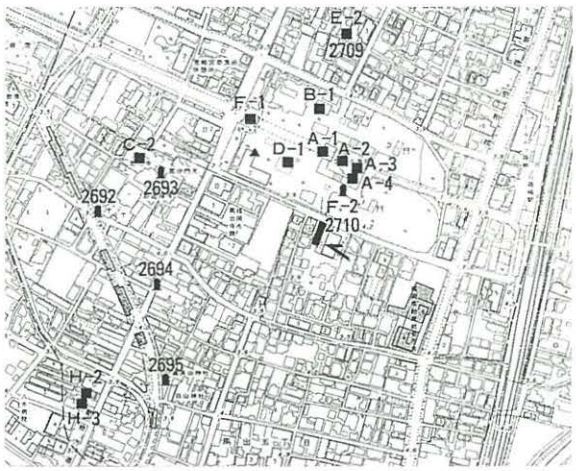
位置・環境　箱崎遺跡は博多湾に面し多々良川の左岸に形成された砂丘上に立地する。この砂丘は旧粕屋郡に属する箱崎から旧那珂郡馬出の間に広がり、東西500ｍ、南北1,000ｍを測る南北に長く延びる砂丘である。現在までの発掘調査により古墳時代前期から近世までの遺構が砂丘上に展開していることが確認されている。

検出遺構　今回の対象地は砂丘の中心からやや南よりで、筥崎宮（923年創建）南門の正面に位置する。遺構面は現地表下0.8ｍ～1.1ｍで検出する黄褐色の風成砂で、標高3.1ｍ～3.4ｍを測る。検出遺構は12世紀後半以降の溝・土壙・柱穴等である。調査区幅が５ｍに満たないため遺構の広がりや形状については不明瞭な点が多い。

出土遺物　出土遺物には陶磁器・土師器・瓦等があり、総量でコンテナ４箱分出土している。

まとめ　今回は小面積の調査で不明瞭な点が多いが、本調査区は筥崎宮に隣接し近世の絵図にはこの場所に寺院が描かれている。検出遺構は時期的にもこれらと関連するものもあると考えられるが現在のところ詳細は不明である。箱崎遺跡ではこれまでの調査においても中世以降の遺構・遺物が多量に検出されており、これらの調査事例とあわせ考える必要があろう。

調査報告書は2000年度以降刊行予定である。



1. 調査地点の位置（34　箱崎　2639　1：8000）

2. 調査区全景（北から）

3. 調査区東壁土層断面（北から）

9865 井尻B遺跡群第12次調査（IGB-12）

所在地	南区井尻4丁目170-1他3筆	調査面積	125㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	田上勇一郎
調査期間	1998.3.15～4.16	処置	記録保存

位置・環境　井尻B遺跡群は御笠川、那珂川に挟まれた洪積台地上に立地する。これまで11次にわたる調査が行われ、旧石器時代の石器ブロックや弥生時代から古代の集落、古墳等が調査されている。

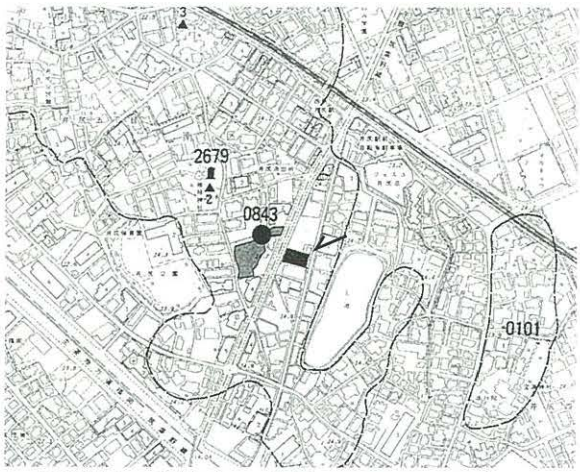
今回の調査地点は台地中央やや南よりにあたり、鏡・銅鏃の鋳型が出土した第6次調査地点の南側に接する部分で、現標高は14.6mである。地表下30～45cmで赤褐色のローム土になり、この面で遺構が確認できる。

検出遺構　弥生時代後期後半から古墳時代前期の竪穴住居8軒と奈良時代のピット等を検出した。竪穴住居はすべて方形で、うち5軒は第8次調査で検出していた住居の延長部分である。

出土遺物　コンテナケース7箱分出土した。弥生土器・土師器の壷、甕、高坏、器台、須恵器等がある。

まとめ　今回の調査では範囲が狭いながらも、8軒もの住居が発見され、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、かなり濃密に住居が分布していることが判明した。、第8次調査地点の住居の分布をあわせて考えると南側に集落の中心があったものと思われる。

調査報告書は1999年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（25　井尻　0090　1：8000）

2. SC03・SC05（北から）

3. 調査区全景（西から）

Ⅲ．平成10年度新指定文化財

平成10年度の新たな市指定文化財は、下記の４件である。なお、指定日は、平成11年３月29日である。

１．小銅鐸（板付遺跡出土）１口

種　　別　有形文化財（考古資料）
所 在 地　福岡市博多区井相田二丁目１番49号
（福岡市埋蔵文化財センター）
所 有 者　福岡市

当該資料は、1988年度に板付遺跡から出土したもので、小竪穴に身の側面を上下にして埋納されていた。埋納時期は、弥生時代後期中葉以降と考えられる。

高さ7.6cm、舞径2.0～2.6cm、裾部径2.9～4.0cmを測る小銅鐸で、内部には銅舌が残る。

鐸身は裾広がりの扁円筒形で、無文である。裾下端は「L」字形に内側に張り出している。紐は半環状で、鋳型のずれによって段がでている。舞孔は１孔で、型持孔はない。

銅舌は長さ5.5cm、頭部幅1.0cmを測り、頭部には吊すための楕円形の孔がある。

この小銅鐸は、全国で30点ほどのほとんどが投棄された状態で出土するのに対して、意図的に埋納されたと考えられるものであり、また銅舌が共伴していることから楽器的機能を持っていたと考えられ、弥生時代の祭祀と小銅鐸の使用法を考える上で貴重な資料である。

1．小銅鐸（板付遺跡出土）

２．小銅鐸（今宿五郎江遺跡出土）１口

種　　別　有形文化財
所 在 地　福岡市博多区井相田二丁目１番49号
（福岡市埋蔵文化財センター）
所 有 者　福岡市

当該資料は1984年度に今宿五郎江遺跡から出土したもので、弥生時代後期前半の溝状遺構から投棄された状況で出土した。

高さ13.5cm、舞径4.6cm、裾部径約7.5cmを測る。鐸身は裾広がりの円筒形で、無文である。身の内外面の一部に赤色顔料が残存する。紐は半環状で舞の両端部から0.5cmほど内側に付く。紐の上部には３個の棘状の突起が付いており、紐の断面形は楕円形である。舞孔は２孔で、型持孔は身の両面２ヶ所づつあわせて４ヶ所にある。舌は共伴していない。

この小銅鐸は、全国で30点ほどの出土例と比較し、形態的に特異的であり、型持孔は銅鐸に通じるものがある。小銅鐸の系譜を考える上で、貴重な資料である。

2．小銅鐸（今宿五郎江遺跡出土）

3．飯場の神楽道具　138点

附　関係文書一括

種　　別　有形民俗文化財

所 在 地　福岡市早良区大字飯場143番地

所 有 者　飯場の神楽道具保存会

飯場の神楽は、昔、病気が流行したため、高祖の神楽（前原市）を習い、明治25年（1892）に始められたもの。毎年旧暦５月12日、五穀豊穣・氏子安全を祈願した春祭りで氏神大山祇神社に奉納された他、招かれて近隣各社に奉納していたが、およそ20年位前に途絶えた。

本資料は、大山祇神社に保管される飯場神楽組の明治以来の神楽道具一式と関係文書であり、神楽道具138点、関係文書87点からなる。

神楽道具は、神楽面14面、太刀４振り、笛４本、太鼓１張、狩衣14着、千早10着、袴31着等々及び獅子頭２面などであり、関係文書は、『飯場神楽本』（明治25年）、『飯場大神楽略歴』（昭和35年、写）、近隣各社に奉納した際の祝詞、講金取立帳、貯金貸附帳、決算帳等である。

古い神楽道具と記録については、かつて田島神楽（城南区）にも残されていたが、戦災で焼失したため、まとまりのある資料としては現在では、飯場の大山祇神社に保存継承された神楽道具一式と関係文書だけであり、本市における往時の神楽奉納の有様をつぶさに伝える貴重な民俗資料となっている。

4．城の原の盆踊り

種　　別　　無形民俗文化財

所 在 地　　福岡市西区上山門二丁目

所 有 者　　城ノ原・小松原盆行事保存会

笛・三味線・太鼓の囃子と音頭取りの口説きに合わせて、団扇を持った思い思いの衣裳の老若男女の踊り子が右回りに輪踊りする。

囃子は太鼓（締太鼓２張と銅鑼太鼓２張）・三味線・笛からなり、三味線を使うのが特色である。

音頭取りは、一定の旋律を繰り返して歌う長篇の叙情的歌謡である口説きを歌うが、中でも江戸末期から全国的に流行した「鈴木主水」口説きを実際に歌っている所は少ない。

踊り手は、めいめい思い思いの出で立ちで、中には編み笠をかぶったり、仮面を着けて扮装したりする踊り手もまじり、神仏の依り代とも言われる団扇を手に持ち、輪踊りするが、特に両手と両足をそろえて動かして踏ん張る「なんば」の足踏みに特色がある

太鼓・三味線・笛からなる囃子、古い歌謡を継承した音頭取りの口説き、「なんば」の動作を残した踊り、で構成される城の原の盆踊りは、本市に伝承された貴重な民俗芸能であるとともに、本市の盆踊りの特色や変遷過程を知るうえでも貴重な価値を有している。

福岡市指定文化財一覧

平成10年度現在

区分	総数		有形文化財		無形文化財		有形民俗文化財		無形民俗文化財		記念物	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
総数	307	3065	211	2803	18	16	23	186	20	20	35	38
国指定	97 (6)	789 (6)	75 (6)	767 (6)	9 (0)	9 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	12 (0)	12 (0)
県指定	98	293	61	164	5	5	16	108	8	8	8	8
市指定	112	1983	75	1872	4	4	7	78	11	11	15	18

福岡市の史跡一覧

平成9年3月31日現在

区分	史跡名称	所在地	指定年月日	指定面積	時代
国1	丸隈山古墳	西区周船寺	昭和3年2月7日 追加指定 昭和63年3月15日	3,354.88㎡ 1,547.37㎡	古墳時代
国2	元寇防塁 a 地蔵松原 b 地行 c 西新 d 百道 e 脇 f 向浜 g 生の松原（姪浜） h 生の松原 i 青木 j 横浜 k 今津	 東区筥松 中央区地行 早良区西新 早良区百道 西区小戸 西区小戸 西区姪浜 西区生の松原 西区青木 西区横浜 西区今津、長浜	昭和6年3月30日 追加指定 昭和56年3月16日	165,104.00㎡ 43,908.00㎡	鎌倉時代
国3	福岡城跡	中央区城内	昭和32年8月29日 追加指定 昭和57年10月14日	479,384.00㎡ 3,112.00㎡	江戸時代
国4	大塚古墳	西区今宿	昭和42年12月15日	8,098.73㎡	古墳時代
国5	聖福寺境内	博多区御供所町	昭和44年11月7日	78,392.38㎡	鎌倉時代
国6	金隈遺跡	博多区金隈	昭和47年5月17日	12,227.00㎡	弥生時代
国7	野方遺跡	西区野方	昭和57年6月27日	21,166.00㎡	弥生時代
国8	板付遺跡	博多区板付	昭和51年6月21日	27,796.44㎡	弥生時代
国9	今山遺跡	西区横浜	平成5年11月12日	79,401.66㎡	弥生時代
国10	吉武高木遺跡	西区吉武	平成6年10月4日	24,988.00㎡	弥生時代
県1	枯野塚 附 哺川墓、句碑、寄附碑	東区馬出	昭和31年7月28日	27.39㎡	江戸時代
県2	比恵環溝住居遺跡	博多区駅南	昭和35年1月12日	615.50㎡	弥生時代
県3	亀井（南冥・昭陽）家の墓	中央区地行	昭和38年5月4日		江戸時代
県4	宮崎安貞墓 附 宮崎安貞書斎1棟	西区周船寺	昭和40年4月6日		江戸時代
県5	元岡瓜尾貝塚	西区元岡	昭和43年2月3日	180.00㎡	縄文時代
市1	東光院境内	博多区吉塚	昭和49年8月12日	5,506.00㎡	江戸時代
市2	平尾山荘	中央区平尾	昭和49年8月12日	3,701.00㎡	江戸時代
市3	今里不動古墳	博多区金隈	昭和62年3月30日		古墳時代
市4	夫婦塚2号墳	西区金武	平成1年3月30日	634.00㎡	古墳時代
市5	能古焼古窯跡	西区能古	平成2年3月29日	1,946.00㎡	江戸時代
市6	梅林古墳	城南区梅林	平成3年3月30日	818.50㎡	古墳時代
市7	那珂八幡古墳	博多区那珂	平成4年3月23日	3,765.81㎡	古墳時代
市8	草場古墳群（古墳4基）	西区下山門	平成4年3月23日	1,465.00㎡	古墳時代
市9	那珂遺跡	博多区那珂	平成5年3月25日	592.00㎡	弥生時代
市10	若八幡古墳	西区徳永	平成5年3月25日	17,118.00㎡	古墳時代
市11	福岡藩主黒田家墓所	博多区御供所	平成7年3月30日	1,600.00㎡	江戸時代
市12	福岡藩主黒田家墓所	博多区千代	平成8年3月25日	4,234.00㎡	江戸時代
市13	山の鼻1号古墳	西区徳永	平成8年3月25日	8,367.00㎡	古墳時代

平成10年度刊行埋蔵文化財調査報告書一覧

集	報告書名	掲載遺跡番号
587	那珂君休遺跡Ⅶ　ー那珂君休遺跡第７・８次発掘調査報告ー	9612・9713
588	下和白後口古墳群ー古墳時代後期の円墳２基の調査ー	9738
589	蒲田部木原遺跡群６　ー蒲田部木原遺跡群第６次調査報告ー	9732
590	堅粕３　ー堅粕遺跡群第８次調査の概要ー	9706
591	箱崎７　ー箱崎遺跡第８次調査の報告ー	9643
592	箱崎８　ー箱崎遺跡第11次・13次調査報告ー	9712・9750
593	博多66　ー博多遺跡群第94次・第106次聖福寺旧塔頭順心庵発掘調査報告ー	9551・9777
594	博多67　ー博多遺跡群第104次調査概報ー	9766
595	比恵27　ー比恵遺跡群第62次・63次・65次発掘調査報告ー	9720・9739・9772
596	比恵遺跡群28　ー比恵遺跡群第13次・15次・21次調査ー	8617・8636・8863
597	那珂22　ー那珂遺跡群第62・63・65次調査報告ー	9711・9724・9770
598	那珂23　ー那珂遺跡群第９・57次調査報告ー	8703・9606
599	大井遺跡　ー大井遺跡群第１次発掘調査報告ー	9731
600	吉武遺跡群ＸＩ　飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書５ ー弥生時代墓地の調査報告２ー	8102・8234・8335・8416・8518・8535
601	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第20集	7842・7843
602	南八幡遺跡群第８次調査	9707
603	野多目Ａ遺跡５　ー野多目Ａ遺跡群第６次調査報告ー	9737
604	弥永原遺跡４　ー第５次調査ー	9653
605	博多68　ー下川端東地区市街地再開発事業に伴う博多遺跡群第96次調査の概要ー	9559
606	藤崎13	9761
607	藤崎14　ー藤崎遺跡第28・29次調査ー	9701・ 9719
608	有田・小田部32　ー有田遺跡群第188次調査報告ー	9759
609	福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告ー６ー 福岡市早良区野芥所在野芥遺跡群第５次調査	9454
610	井相田Ｄ遺跡第２次調査	9637
611	田村14　ー田村遺跡群第20次調査ー	9748
612	拾六町亀田１　次郎丸高石４　田村13 ー拾六町亀田遺跡第１次調査及び次郎丸高石遺跡第４次調査、田村遺跡第18次調査報告書ー	8954・ 9548・ 9624
613	入部Ⅸー東入部遺跡群第１次調査報告(2)・第２次調査報告(1)ー	9074　9165
614	室見が丘ー金武・西入部地区開発に伴う埋蔵文化財の調査ー	9543　9542　9703　9651　9666
615	飯氏古墳群Ｂ群第14号墳調査報告書(2) ー福岡市西区飯氏所在前方後円墳の第２次調査の報告ー	9776
616	橋本一丁田遺跡・女原遺跡 ー橋本一丁田遺跡群第３次調査・女原遺跡群第５次調査ー	9733・9746
617	広石南古墳群Ａ群	9555
618	嶺遺跡２　ー圃場整備事業に伴う嶺遺跡第２次調査報告ー	9718
619	大坪遺跡・大坪南遺跡	9665・9705
620	鴻臚館10　平成10年度発掘調査概要報告	9807・9831

福岡市埋蔵文化財年報VOL.12（平成９年度版）

福岡市埋蔵文化財年報
VOL.13
平成10(1998)年度版

発　行　日　平成12年3月31日

編集・発行　福岡市教育委員会
埋蔵文化財課
福岡市中央区天神1丁目8−1

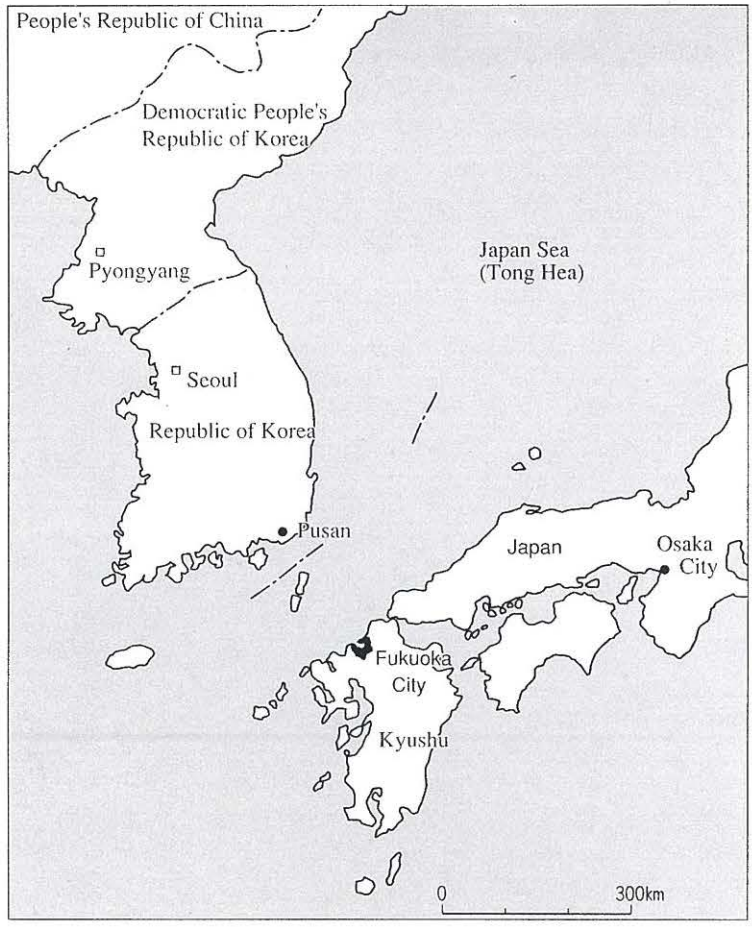
印　　刷　福岡印刷株式会社
福岡市博多区東那珂1丁目10−15
TEL 092-451-0027

THE ANNUAL REPORT

OF

THE BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

VOLUME 13



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

MARCH 2000

JAPAN